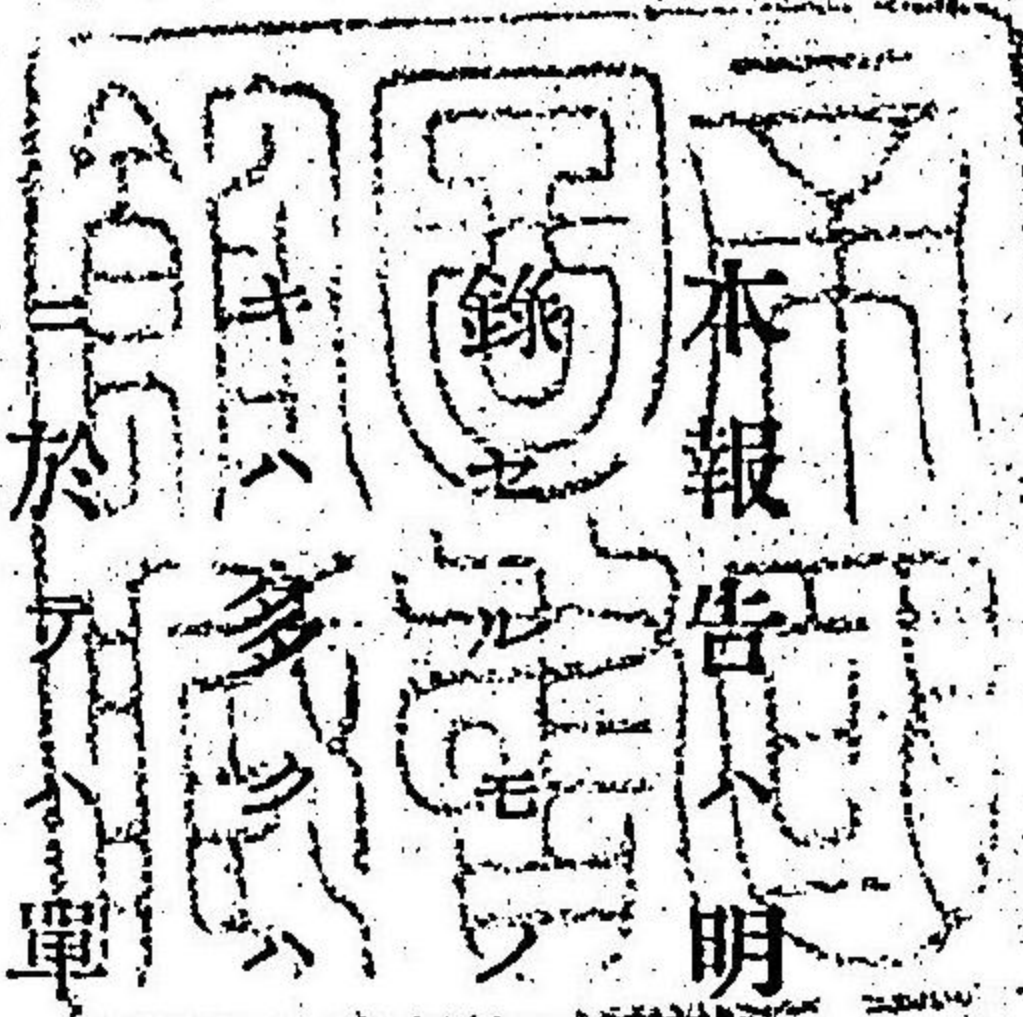


1  
10

岡山縣水產試驗場業務報告

明治三十五年 度

14.21-104



緒言

本報告ハ明治三十五年度ニ於ケル業務ノ一斑ヲ摘ニシテ施設事業ニ關スル試験調査ノ如クニシテ繼續事業ニ屬スルモノナルカ故ニ本書於テハ其梗概ヲ記スルニ止メ其詳細ニ至テハ之ヲ事業完結ノ日ニ讓ルコトトセリ

明治三十七年三月

岡山縣水産試験場

明治 37 5 16 内交

岡山縣水產試驗場業務報告

目次

一、設立ノ趣旨	一頁
二、沿革	七
三、位置ノ撰定	一〇
四、規程	一六
岡山縣水產試驗場職務規程	全
同 處務細則	一九
同 養魚試驗池監守規程	三〇
同 海洋觀測規程	三一
同 蛤試驗地監守規程	三三
同 重要生物調査規程	全
五、經費	三四
目次	二

六、職員	三七
七、施設事業	三八
試験	全
伏老水養鱸苗試験	全
鱸鱸養殖試験	四二
蛤養殖試験	四八
調査	五三
重要生物調査	全
釣餌料調査	六八
海洋観測	七一
重要魚類販賣調査	七二
産卵期調査	七三
八、特別調査	九一

盤梁調査	九二
しらうを調査	一〇〇
重要輸出品調査	一〇三
蛸貝調査	一〇七
九、講話及實地指導	一一三
講話及實地指導	全
附    録	一一六
調査用漁船構造	全
附屬養魚池構造	一二三

# 岡山縣水産試験場業務報告

## 設立ノ趣旨

限リアルノ邦土ニ限リナキノ國民ヲ養ヒテ悉ク衣食住ニ晏如タラシムルコトノ  
難キハ數理ヲ示ス所ニシテ激烈ナル生存競争ノ結果ハ遂ニ國力ヲ萎靡惴惴セシ  
ムルコトナシトモ今ヤ本邦ノ人口ハ年ト共ニ激増シテ五千萬ト稱スルニ至リ  
尙益々増加シテ殆ント窮極スル所ナカラントス隨テ陸上ノ開拓ハ日ト共ニ蹙マ  
リ殆ント剩ス所ナキニ至リ識者チシテ今後ノ經營ハ正ニ水界ニ存スルモノタル  
ヲ絶叫セシムルニ至レリ思フニ國運ノ振張ハ必ラズシモ劔ト砲トヲ以テスルチ  
得ヘキモノニアラス劔ヲ以テスヘクマタ網ヲ以テ爲スコトヲ得可シ劔ヲ以テス  
ルニハ他國ノ封疆ヲ冒シテ移住スルノ困難アレトモ網ヲ以テスルニハ滄海淼々  
タリ邦土ノ接スルナク境界ノ限ルナク到處自由ニ海中無限ノ寶庫ヲ拓クコトヲ  
得ヘシ遠洋漁業ニ依レル海上ノ開拓ハ最モ平和ナル而カモ最モ有利ナル國力發  
展ノ法タラスンハアラス從來本邦ノ漁夫カ其鐵ノ如キ筋骨ト巧捷ナル漁法トチ

設立ノ趣旨

傳ヘナカラ空シク沿海ニノミ局促セシ所以ノモノハ畢竟幕政當時ノ鎖國主義ヨ  
リ來レル餘弊ニシテ其本來ハ決シテ冒險心ナキモノニアラス彼等ノ平生片舟ヲ  
以テ怒濤ト戰フニ慣レ生ヲ板子一枚ニ托シテ怖レサル膽氣ト手腕トニ至リテハ  
最モ冒險ニ適シタルモノニシテ之ヲ啓導スルコト宜シキヲ得ハ彼等ノ爲ス所必  
ラスヤ劍火ノ經畧ニ讓ル所ナカルヘキナリ特ニ蜿蜒トシテ長ク南北ニ延ヒ四面  
環ラスニ海ヲ以テセル我國ハ南ノ方其頭ハ南洋ヲ吞ミ北ノ方其ノ尾ハ北洋ニ奮  
ヒ東ハ太平洋ニ枕ミ西ハ韓海支那海ヲ包ム東西南北往シトシテ漁利ノ揚ラサル  
ナク北海ノ海獸韓海ノ鱗甲既ニ我ノ採ルカマ、ナリ更ニ手ヲ南方ニ伸サハ漁利  
永々盡キルコトナカルヘキナリ海ニ於テハ已ニ然リ退テ陸ニ顧ミレハ溶々タル  
碧流縱横ニ通シ大小ノ湖澤亦盛シニ魚族ノ生産ヲ待テリ之ヲ捕ヘ之ヲ利用スル  
ノ道ヲ講スルハ豈吾人ノ一大責務ニアラストセンヤ驪ッテ本縣ノ地勢ヲ案スル  
ニ其西北部ニ當リテ參差タル備作ノ層峯ヲ負ヒ南面シテ瀨戸内海ニ望ミ遙カニ  
四國ノ翠巒ニ對セリ斯クテ後方ノ高嶽ニヨリ北海ノ寒風ヲ遮キリ前面諷豫ノ山  
脈ニヨリ南洋ヨリ來ル水蒸氣ヲ防遏スルカ故ニ四季氣候温暖ニシテ空氣乾燥シ

爲メニ製鹽ノ業ヲシテ邦内ニ雄ヲ稱セシメ而カモ後方數千ノ溪谷ヨリ發スル水  
流ハ或ハ澗留シテ湖澤トナリ或ハ合シテ幾多ノ河川トナリ兩備作ノ三州ヲ縱横  
ニ貫流シテ海ニ注キ茲ニ鹹淡交會シテ魚介ノ産卵發生ニ便ニ更ニ苔藻類ヲ孳生  
セシム然リ而シテ沿海一帶長汀曲浦逶迤トシテ壹百有七里ノ長キニ達シ其水域  
ノ擴大ナルコト優ニ全國府縣ノ中位以上ニアリ更ニ進ンテ本縣統計ノ示ス所ニ  
ヨリ之ヲ詳説センカ幅員三間以上ヲ有スル河川ノ流程四百六十餘里池沼溝渠ノ  
合計面積五千餘町歩水田總反別八萬二千九百十七町步餘ニシテ之レニ加フルニ  
壹百有七里ノ沿海線アリ而シテ殆ント丁字形ニ貫通セル山陽中國兩鐵道及ヒ往  
返頻繁ナル汽船トハ其生産セル鮮魚ヲ直チニ京坂神或ハ津山地方ニ運輸スルヲ  
以テ價格ノ不廉ナルコト恐ラクハ他ニ其比ナカラントス隨テ以上ノ水域ヲ出來  
得ル限リ巧ミニ之ヲ拓發シ一面極力遠洋漁業ヲ鼓吹シ端舟的小規模ノ範圍ヲ脱  
シテ船舶的大規模ノ域ニ入ラシメハ之ニ對スル生産力ノ如キハ掛クモ壹千萬圓  
以上ニ達スヘキモノアルニ拘ハラス現今全縣下ノ水産總額ハ漸ク貳百萬圓内外  
ニ過キス今之ヲ水産業ニ賴テ衣食スル參萬ノ蒼生ニ對算スレハ壹人壹ケ年ノ收

設立ノ趣旨

得ハ僅カニ七拾圓弱ニ過キス此内漁業資本ヲ扣除セハ剩ス所果シテ幾干ク

四

以上ノ生産力ナ有シ乍ラ如斯悲境ニ沈淪スル所以ノモノハ何シヤ以下ニ於テ聊カ之ヲ説カン

本縣ノ水産業中稍々進歩セリト認ムヘキモノハ沿海ニ於ケル漁業ニシテ往々一  
二ノ漁法ニツイテハ人ヲシテ感嘆措ク能ハサラシムルモノアリト雖モ一般ニ思  
想極メテ卑ク其業ヲ執ルヤ徒ラニ舊慣ヲ墨守シ學理應用ノ如キハ殆ント全ク之  
ヲ缺如シ漁業經濟ノ如キモ深ク顧ミサルモノ多ク只々眼前ノ小利ニ汲々トシテ  
識者ヲシテ頗ル寒心ニ堪ヘサラシム加之一定ノ區域アル海面ニ於テ累代營業ス  
ルヲ以テ子孫相踵キ次第ニ其數ヲ増加シ特ニ維新以來沿岸ノ農家ニシテ傍ラ漁  
撈ニ從事スルモノ續出シタル爲メ限リアルノ地先海面ハ忽チ茲ニ漁業ノ狹隘ヲ  
告グシカモ能ク之ヲ整理シ之ヲ改ムル途ヲ講セサルヲ以テ逐年漁利彌々稀薄  
ニ傾キ漁利彌々稀薄ナルカ故ニ濫獲酷捕彌々甚シク今ヤ二三回游魚族ヲ除クノ  
外ハ寸分ノ稚魚ト雖モ決シテ洩ラスコトナキニ至リ隨テ年々漁獲ノ實積ヲ減ス

ルノ已ムヲ得サルコトハナレリ事情既ニ如斯キカ故ニ往々二三ノ地方ニ於テ  
ハ徹底内海ノ同一地点ニ踞踏スルヲ止メ他府縣或ハ韓海ニ出稼スルモノアリト  
雖モコレトテ其數壹千ニ達セサルコト遠ク而カモ始終同一地点ニ同一漁業ヲ繰  
返スノミニテ更ニ進メテ眞ノ遠洋漁業ニ移ルモノナクマタ漁場ノ發展ヲ圖ルモ  
ノナシ而シテ縣下水産業者ノ十中九強ハ以上ノ業体ニ衣食スルモノニシテ殘餘  
ハ主トシテ河川ニ於ケル淡水漁業者ナリトス縣下水産業者ノ現狀已ニ如斯豈一大革  
新ヲ爲スノ要ナシトセンヤ醜テ製造業ニ就キテ之ヲ見シカ製鹽業ノ如キハ暫ラ  
ク之ヲ措キ一般水族ニ對シテハ海鼠蝦蟹蛤其他二三ノ苔藻類アリト雖モ古來其  
面目ヲ改メサル爲メ製品多クハ粗糲ニシテ未ダ市場ノ好評ヲ博スルニ足ラス而  
シテ其他ハ運輸ノ便アルニ乘シ悉ク鮮魚ノ儘之ヲ市場ニ送ルヲ以テ一見甚タ望  
ナキニ似タリト雖モ仔細ニ之ヲ觀察スレバ尙ホ遺利ノ收拾スヘキモノ決シテ掛  
少ナリトセズ更ニ養殖業ノ現狀ヲ見シカ兒島灣ニ於ケル二三養貝ノ事業ヲ除ケ  
ハ他ハ一トシテ見ルニ足ルヘキモノナシ否殆ント拾テハ顧ミサルノ感ナキ能ハ  
ス廣漠數千町歩ニ達スル沿岸到處ノ潟地ハ殆ント不耗ニ屬シ五千町歩ノ湖沼未ダ

設立ノ趣旨

五

人工的ノ生産アルヲ聞カス八萬町歩ノ水田果シテ幾千ノ副産アリヤ作州地方ニ  
 一、二ノ稻田養鯉ヲナスモノアリト雖モ未タ一顧ノ價值アルモノナシトレ如斯本  
 縣ノ養殖業ハ極メテ幼稚ナルナリ特ニ海ニ遠キ山間ノ養殖業ニ至リテハ至大ノ  
 望ヲ繫クヘク且最モ必要ナルニ拘ハラス未タ之ニ從事スルモノアルヲ聞カズ實  
 ニ慨スヘキノ至リナラスヤ直接生産業ノ狀態ハ此ノ如シ其能ク千萬圓ニ上ルヘ  
 キ生産力ヲ有スルニ拘ハラス未タ二三百萬圓ノ生産ニ止マルモノ蓋シ之レカ爲  
 メナリ而シテ其生産ト關聯シテ間接多大ノ關係ヲ有スル諸般調査ノ如キハ從來  
 殆ント之ヲ欠如セリ即チ漁場調査漁具調査漁村調査等ノ如キハ一トシテ完成セ  
 ルモノナシ如斯ニシテ如何ソ漁政ノ根本ヲ樹立シ衆生ヲ安ンスルコトヲ得ンヤ  
 觀シ來レハ水産業ニ對シ新ニ施設經營スヘキモノ千百擧ケテ數フル可カラサルナ  
 リ本縣愛ニ觀ル所アリ去三十年以來壹人ノ水産巡回教師ヲ置キ講話ニ指導ニ百  
 方之レカ啓發ニ力メタリト雖モ限リナキノ要求ニ對シ僅々壹人ノ力ニテハ到底  
 所思ノ萬一ヲモ達スルコト能ハス常ニ遺憾極マラサルモノアリキ於是乎明治三  
 十四年時ノ岡山縣知事ハ特ニ水産試驗場ヲ設立スルニアラサレハ十分ノ効果ヲ

奏スルコト能ハサルヲ察シ案ヲ具シテ之ヲ我縣會ニ諮リ其贊同ヲ得テ更ニ主務  
 大臣ノ認可ヲ請ヒ正ニ明治三十五年度ヲ以テ本場ヲ設置シ調査ニ試験ニ其全力  
 ナ注キ以テ内ニ在リテハ漁場ヲ整理シ啓蒙誘掖ノ實ヲ揚ケ苟クモ水ノ存スル所  
 必ラス其産アルニ至ラシメ外ニ對シテハ漁者ヲシテ其嚮フ所ヲ知ラシメ極力遠  
 洋漁業ヲ唱導シテ北滄ニ將々南溟ニ其本來ノ面目ヲ發揮セシメ斯クテ將來ニ於  
 ケル彼等唯一ノ羅針盤タルヲ期シ以テ小ハ一身一家ノ富ヨリ延テ郡縣資力ノ増  
 加ヲ求メ更ニ進ンテ國力ノ發展ヲ家富強ノ一助クラシムルコトハハナレリ

二、沿 革

地方ニ於ケル水産試驗場ノ設立ハ明治二十七年愛知縣ヲ以テ創メトシ廣嶋福岡  
 ノ二縣之ニ次キ同三十二年千葉宮城新潟三重ノ四縣之ヲ設置セリ然ルニ同年政  
 府ニ於テ國庫補助法ヲ制定セラレ同時ニ主務省ニ於テモ府縣水産試驗場規程ヲ  
 定メ省令ヲ以テ發布セラレ、ニ至ルヤ全國ノ府縣ハ翕然トシテ設立ノ急ニ傾キ  
 爾來今日ニ至リテハ前記七縣ノ外滋賀茨城青森長崎大分愛媛秋田山口熊本香川  
 鳥取嶋根高知徳嶋和歌山福岡岡山鹿兒嶋靜岡等現在合計二十六ヶ所ノ多キニ達



シ此他目下之レカ設立ヲ計劃セル地方及ヒ既設各府縣水産講習所水産學校トテ綜合スレハ本邦ノ沿海府縣殆ント此種ノ機關アラサルハナキノ盛況ニシテ誠ニ時勢ノ然ラシムル所トハイヘ如何ニ各府縣ノ意ヲ水産ニ用フルノ深厚ナルカチ知リ得ヘシ

本場ハ明治三十四年十一月ニ於ケル通常縣會ノ議決ニ基ツキ設立セルモノニシテ之ヲ全國各試驗場ニ比較スレハ頗ル後進ノ位置ニ位ス

明治三十四年十二月二十四日本場設立ニ關シ稟議上申書ノ寫シ左ノ如シ

水産試驗場設立ノ儀ニ付上申

來ル明治參拾五年度ニ於テ本縣水産試驗場設立致度候ニ付明治參拾貳年八月御省令第貳拾貳號府縣水産試驗場規程第七條ニ依リ左ノ事項ヲ具シ稟議候條御認可相成度此段及上申候也

明治參拾四年拾貳月貳拾四日

岡山縣知事吉原三郎

(事項零ス)

明治三十五年一月主務大臣ヨリ設立認可ノ指令アリ左ノ如シ

農商務省指令水第一一〇七號

明治三十四年十二月二十四日付農甲二三九八號上申岡山縣水産試驗場設立之件認可ス

明治三十五年一月十六日

農商務大臣平田東助

同年二月之カ設置ニ關シ左ノ告示ヲ爲セリ

岡山縣告示第三十二號

本年四月一日ヨリ岡山縣水産試驗場ヲ縣下兒嶋郡八濱町ニ設置ス

明治三十五年二月七日

岡山縣知事吉原三郎

同年三月三十一日內閣ハ縣水産巡回教師樋口邦彦ヲ水産試驗場技師ニ任シ縣ハ之ニ水産試驗場長ヲ命シ同時ニ岩城榮太郎ヲ技手ニ加藤莊次郎ヲ書記ニ任命シタリ

同年同月同日遼第七一號ヲ以テ三十五年度水産試驗場費豫算ノ達示アリ

沿革

同年四月一日岡山縣令第三十八號ヲ以テ岡山縣水産試驗場職務規程ヲ發布セ  
ラレ

十

同月同日兒嶋郡八濱町千三百五番地民家ノ一半ヲ借入レ試驗場ヲ開始シ  
同月十日職務規程ノ指定スル所ニ從ヒ岡山縣水産試驗場處務細則ヲ制定シ岡  
水甲第六號ヲ以テ場長ヨリ知事ニ許可ノ申請ヲナシ

同月十五日其許可ヲ得テ爰ニ漸ク試驗場ノ組織ヲ完了シ爾來業務ノ施設各種  
所用品ノ購入其他百般ノ業務ニ從事シタリ

### 三、位置ノ撰定

位置ノ撰定ハ最モ重大ナル關係ヲ有スルモノナルヲ以テ最モ周到ナル觀察ノ結  
果ニ俟タサル可カラス然リ而シテ設立ノ趣旨ニテ畧ホ述ヘタル如ク縣下水産業  
中直接ニ最モ力ヲ効スヘキハ鹹淡水兩種ノ養殖及ヒ遠洋漁業ノ二者ナリトス而シ  
テ遠洋漁業ノ調査獎勵ノコトニ至リテハ試驗場ノ位置トハ何等關係ヲ有セサル  
モノニシテ其他漁撈製造ノ如キモ其改良發達ヲ促進スヘキモノ決シテ少ナキニ  
アラサレトモ之ヲ養殖及ヒ遠洋漁業ノ必要ナルニ對比スレハ及ハサルコト遠シ

而シテ此等ノ業ノ如キハ何レモ短少ナル期節事業ニシテ周年一定ノ作業ヲ繼續  
スルモノナラサルノミナラス到底壹ヶ所ニ於テ全体ヲ經營スルコト能ハサルモ  
ノナリトス諸般調査ノ如キモ亦然リ況ク縣下全般ニ亘リテ爲スヘキモノナルヲ  
以テ此等ノ業務ハ試驗場ノ位置ト密接離ルヘカヲサルノ關係アルモノニアラス  
即チ其期節毎ニ出張シテ從事スルモ敢テ不可ナキナリ獨リ養殖ニ至リテハ數年ニ  
亘リテ施設經營スルモノナルヲ以テ之レカ試驗地ハ能ク限リ近接セシムルノ要ア  
リ特ニ養魚ニ至リテハ生育試驗ニ將タ餌料試驗ニ或ハ産卵ニ發生ニ最モ多大ノ  
注意ヲ拂ハサル可カラス特ニ日々ノ觀測餌料ノ適否分量ノ多寡水質ノ調査審察  
ノ驅除等周到ナル注意ト作業トヲ要スルモノナルヲ以テ試驗場ノ位置ハ絕對ニ  
之レト密接ノ關係ヲ有セリ故ニ事業以外ニ於テハ仮令多少ノ不便アリトスルモ  
此等ノ不便ハ以テ養魚池トノ密接關係ニ對抗スルノ價值ナキモノタラスンハア  
ラス斯ク養殖上ノ關係ヲ主要スルト同時ニ試驗場ノ事務取扱ニ就キテモ力メテ  
便利アルヲ希望シタル結果左ノ諸要素ヲ具備スルノ地ヲ撰定スルコト、セリ

#### 一、淡水ノ供給十分ナルコト

#### 位置ノ撰定

十一

二、淡鹹兩種ノ養魚池トシテ其全部ノ經營ニ充ツヘキ適當ナル場所アルコト

三、其附近ニ於テ鹹水養殖ノ適區チ有スルコト

四、通信機關(郵便電信)ノ存在スルコト

五、會計機關(縣支金庫)ノ存在スルコト

六、縣廳トノ往復ニ便利アルコト

前記ノ六項ニヨリ縣下沿海ヲ通觀シテ其候補地タルヘキ地ヲ左ノ六ヶ所ニ撰定セリ

- 和氣郡片上町
- 邑久郡牛窓町
- 兒島郡八濱町
- 淺口郡玉嶋町
- 淺口郡寄嶋町
- 御津郡福濱村

以上ノ外強テ有志ノ希望アルニヨリ兒島郡甲浦村大字北浦ヲ併セ調査セリ而シテ其調査ノ時期及ヒ方法ハ競争ヲ避クル爲メカメテ種々ノ方法ヲ採リ幸ニ遺憾ナク之ヲ完了スルコトヲ得タリ以下聊カ調査ノ結果ニツキテ之ヲ語ラン

和氣郡片上町ハ同郡日生ニ初マリ深ク灣入セル片上灣ノ極奥ニシテ諸要素ノ殆ント凡テチ有スレヒ養魚上必要缺ク可カラサル淡水ノ供給不十分ナリ而モ其不十分ナル淡水ハ主トシテ田地ノ灌溉用水ナルヲ以テ其一部ヲ割キ試験場養魚池ニ專用スルコト困難ナリ第六ノ縣廳トノ往復ニモ至便ナリトハ言ヒ難ク海中養殖ノ適區亦多少ノ遺憾ナキ能ハス其他ニ於テハ間然スル所ナシ

邑久郡牛窓町ハ其後面ニ於テ長濱灣ヲ擁スルヲ以テ海中養殖ノ適區トシテハ最も有望ナリト雖モ其淡水ニ乏シク且ツ養魚池トシテ適當ナル場所ナキノ一事ハ誠ニ遺憾ノ至リナリ其他縣廳トノ往復ニ於テモ頗ル不便ナルモノアリ觀シ來レハ二四五ノ三ノミ之ヲ具備スルニ過キズ

兒島郡八濱町ハ前面兒嶋灣ニ望ミ後方車馬ヲ通スヘキ一岨ヲ隔テ、所謂外兒島ノ外海ニ接スルノ地ニシテ淡水ノ供給極メテ潤澤ナリ養魚池専用トシテ灌溉用

位置ノ撰定

水ヲ分水スルコトモ容易ナリ更ニ一二ノ溜池ヲ占有スルコトモ決シテ不可能ニアラス海中養殖ノ適區トシテハ邦内第一位ノ養貝地アルニテモ知ラルヘク伏老藻貝牡蠣蜆海茸等ノ重要貝類ハ之ヲ兒嶋灣ニ求ム可ク更ニ舟路一進シテ三蟠埠頭ニ至レハ此處ヨリ邑久郡水門ニ至ルノ間ハ縣下三大河川中旭吉井ノ二川ニヨリ周年多量ノ淡水ヲ集注セラレ廣潤ナル上道新田全部ノ淡水亦悉ク之ニ注グヲ以テ淡鹹其度ニ適シ貴重ナル紫菜及ヒ玉珧貝蛤淺蜆ノ類ヲ養成シ得可シ四五ノ機關兩ナカラ完全ニ之ヲ存シ只縣廳トノ往復ニ於テ多少ノ不便ヲ感スルコトアレトモ毎日三回ノ定期船アリ以テ平時ニ供フ可ク若シソレ急ヲ要スル場合ハ車行スレハ二時間ヲ出テスシテ着スルコトヲ得可シ

淺口郡玉島町ハ水嶋海ノ北隅柏崎村ニ初マリ灣入セル玉嶋灣ノ奥端ニ在リ淡水ノ供給ニ於テハ十二分ニシテ養魚池トシテハ所謂溜川ノ一部ヲ區劃利用スレハ敢テ不可ナシト雖トモ夏期霖雨等ニ際シ屢々浸水ノ憂アリ爲メニ魚族ヲ逸シ試驗ノ効果ヲ零ニ歸セシムルコトナシトセス海中養殖ノ適區ニ至リテハ長距離ヲ經テ港外ニ出ツレハ乙嶋地先ヨリ高梁川流未一帶頗ル廣漠ノ間牡蠣蛤其他餌虫

等ヲ養成セシメ得ヘント雖モ如何セン養魚池ト港口トノ距離壹里ニ餘リ隨テ作業監督ノ上ニ於テ多少ノ不便ヲ感スルノ憾ミアリ四五ノ機關ハ兩ナカラ完備シ縣廳トノ往復ニ便ナル一点ニ至リテハ福濱ヲ除ケハ他ニ於テ其比ナシ

淺口郡寄嶋町ハ地種ノ畑ニ屬セル丘陵ヲ負ヒテ水嶋海ニ瀕スルノ地ニシテ淡水ノ供給殆ント空シク隨テ養魚池トシテ適當ナル場所アルモ之ヲ經營スルニ由ナシ且其地積狹隘ニシテ到底全部ヲ施設スル能ハサルノ憾ミアリ海中養殖ノ適區ニ至リテハ之ヲ附近ニ求メ難シ四五ノ機關ハ共ニ完全ニ存在シ縣廳往返ノ便ニ至リテハ蓋シ玉嶋町ノ次位タルヘシ

御津郡福濱村ハ旭河ノ流末沿岸ノ村落ニシテ淡水ノ供給十分ナルコト養魚池トシテ適當ナル場所アルコト海中養殖ノ適區ヲ有スルコトニ於テハ甚シキ欠点ナシト雖トモ通信會計ノ兩機關ハ全ク之ヲ缺キ共ニ岡山ニ仰クノ甚シキ不便アリ縣廳往返ノ便ハ優ニ第一ニ居レリ故ニ六要素中其四ヲ有シ其二ヲ欠ケルニ過キサルトモ之ヲ海岸ニ設クレハ殆ント人家ト隔絶スルヲ以テ日用品ノ購入其他平常百事ニツキ頗ル困難ヲ極ムルノ恨事アリ

兒嶋郡甲浦村ハ兒嶋半嶋ノ頭端ニシテ御津上道二郡ニ面スルノ地ナリ淡水ノ供給自在ナラサルカ故ニ此点ニ就テハ殆ント寄嶋町ト其域ナ一ニセリ海中養殖ノ適區ハ其附近ニ於テ自由ニ之ヲ求ムヘク此点ニ於テハ八濱町ニ劣ルコトナシト雖トモ通信會計ノ機關ニ至リテハ之ヲ八濱ニ仰カサルヘカラス只縣廳往返ノ便利ノミハ候補地中ノ中位ナルヘク優ニ八濱ノ上ニアリ

以上記スル所ニヨリ畧々各地ノ狀況ノ一斑ヲ察スコトヲ得ヘシ即チ施設經營ノ点ヨリ通信會計ノ便否等ヲ精覈査定シ比較的其盡クヲ具備セル兒嶋郡八濱町ヲ以テ最モ適當ナル地点ト決定シタルナリ章ヲ終ルニ臨ンテ切ニ其注意ヲ求ムルモノハ其八濱ニ在ルカ故ヲ以テ試験場ノ試験事業ハ悉ク兒嶋灣内ニ限ルカ如キ誤解ナカラシコト之ナリ

#### 四、規程

岡山縣水産試験場職務規程 明治三十五年四月一日  
岡山縣令第三十八號

第一條 本場ハ縣下水産業ノ改良發達ヲ圖ルヲ以テ目的トシ左ノ事務ヲ掌ル

一 漁撈製造養殖ニ關スル調査及試験

一 巡回講話

一 魚兒介苗ノ配布

一 水産ニ關スル質疑應答

第二條 本場ハ郡市町村又ハ法律命令ニヨリ組織セル實業團體ヨリ水産ノ講話並ニ實地指導及共進會品評會等ノ出品審査ノ爲メ場員ノ出張ヲ請求シタル時ハ場務ノ差支ナキ限リ之ニ應スルコトアルヘシ

第三條 本場ニ左ノ職員ヲ置ク

場長 壹名

技師 若干名

技手 若干名

書記 若干名

第四條 場長ハ知事ノ指揮監督ヲ承ケ場中全般ノ事務ヲ總理シ所屬職員ヲ總督シ場務ノ整理ニ付其責ニ任ス

技師及技手ハ上官ノ指揮ヲ承ケ場務ニ從事シ書記ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務會

岡山縣水産試験場職務規程

計ノ事務ニ従事ス

第五條 場長ハ職員ノ進退賞罰ニ關シ其意見ヲ知事ニ具申スルコトヲ得

第六條 場長事故アルトキハ主席職員其事務ヲ代理ス

第七條 場長ハ左記ノ事項ニ就テハ知事ノ許可ヲ得テ處務スルコトヲ要ス

一 各種調査試験ノ施行方法

二 場員ノ管外出張

三 處務規程又ハ細則ノ制定及加除更正

四 經費豫算ノ流用

但シ諸雇給旅費賄料ノ各節間及備品費消耗品費圖書費印刷費通信運搬

費雜費ノ各節間ニ於ケル流用ハ此限リニアラス

五 土地建物等現形ノ變更

六 前諸項ノ外重要ノ事件

左記ノ事項ハ場長之ヲ處分シ三日以内ニ知事ニ報告スヘシ

一 內規ノ制定及改正

二 場員ノ職務分担

三 魚兒介苗ノ配布

四 場員墓參轉地療養及除服出仕

五 臨時雇員及雇夫等ノ任免賞罰

六 事業ニ要スル人夫監視人及漁船漁具等ノ借入

七 前項第四號ニヨリ許可ヲ要セサル經費ノ流用

八 試験調査報告書ノ編纂

前記以外ノ處務ハ場長之ヲ專行スルコトヲ得

但シ別ニ制規アルモノ若シクハ特ニ知事ノ命令アルモノハ此限リニアラス

第八條 場員管外ニ出張シタル時ハ歸場後七日以内ニ場長ヲ經テ知事ニ復命ス

ヘシ

第九條 調査及試験ヲ結了シタル時ハ場長ハ其成績ヲ知事ニ報告スヘシ

第十條 場長ハ毎年四月限り前年度中ノ業務功程ヲ知事ニ報告スヘシ

岡山縣水産試驗場處務細則

明治三十五年四月十日申請

明治三十五年四月十日許可

岡山縣水産試驗場處務細則

第一章 服務

第一條 職員出頭シタル時ハ直チニ出頭簿ニ捺印シ然ル後業務ニ就クヘシ

第二條 担任ノ職務ニ就テハ充分其責ニ任シ縱令担任外ノ事ト雖モ相幫助シテ  
場務ノ上進ヲ期スヘシ

第三條 担任外ノ事ト雖モ場長ノ指揮アルモノハ特ニ之レニ従事スヘシ

第四條 疾病其他ノ事故ニ依リ欠勤スルトキハ當日執務時間前場長ニ届ケ出ツ  
ヘシ

疾病ノ爲欠勤壹週間ニ過クル時ハ每週醫師ノ診斷書ヲ添ヘ引籠療養ノ届出ヲ  
ナスヘシ

第五條 父母ノ病氣看護又ハ父母ノ墓參或ハ轉地療養等ノ爲メ欠勤セントスル  
時ハ豫メ場長ノ許可ヲ受クヘシ

第六條 職員疾病其他ノ事故ニ依リ欠勤スルニ際シ其担当事務ニシテ至急ヲ要  
スルモノアル時ハ其意見ヲ場長ニ申出ツヘシ

第七條 執務時間外休日等ト雖モ本場附近ニ非常ノ變災アル時ハ直チニ登場諸

般ノ取締ニ従事スヘシ

第二章 事務分掌

第八條 本場ニ左ノ各部ヲ置キ職員ヲシテ其事務ヲ分担セシム

- 一 漁撈部
- 二 製造部
- 三 養殖部
- 四 庶務部
- 五 會計部

第九條 各部ニ於ケル執務ノ事項左ノ如シ

第壹項 漁撈部

- 一 主務ニ屬スル調査及試験ノ事項
- 二 主務ニ屬スル質疑應答
- 三 主務ニ屬スル調査及試験器具ノ管理
- 四 主務ニ屬スル講習及ヒ講話ノ事項

岡山縣水産試験場處務細則

- 五 主務ニ屬スル調査及ヒ試験成績書調製ノ事項
- 六 主務ニ屬スル經費豫算編製ノ事項

第貳項 製造部

- 一 主務ニ屬スル調査及ヒ試験ノ事項
- 二 主務ニ屬スル質疑應答
- 三 主務ニ屬スル調査及ヒ試験器具ノ管理
- 四 主務ニ屬スル講習及ヒ講話ノ事項
- 五 主務ニ屬スル調査及ヒ試験成績書調製ノ事項
- 六 主務ニ屬スル經費豫算編製ノ事項
- 七 試製品ノ試賣ニ關スル事項
- 八 販路調査ニ關スル事項
- 九 蠶業ニ關スル事項
- 十 物品陳列ニ關スル事項

第三項 養殖部

- 一 主務ニ屬スル調査及ヒ試験ノ事項
- 二 主務ニ屬スル質疑應答
- 三 主務ニ屬スル調査及ヒ試験器具ノ管理
- 四 主務ニ屬スル講習及ヒ講話ノ事項
- 五 主務ニ屬スル調査及ヒ試験成績書調製ノ事項
- 六 主務ニ屬スル經費豫算編成ノ事項
- 七 標本品調製ニ關スル事項
- 八 魚苗配布ニ關スル事項

第四項 庶務部

- 一 場印、場長印及ヒ其他ノ諸印ヲ保管スル事項
- 二 職員ノ服務ニ關スル事項
- 三 文書ノ起案及ヒ審査ニ關スル事項
- 四 文書ノ記録及ヒ保存ニ關スル事項
- 五 文書ノ接受及ヒ發送ニ關スル事項

岡山縣水産試驗場庶務細則



- 六 諸表簿ノ調製整理及ヒ保存ニ關スル事項
  - 七 諸般ノ儀式ニ關スル事項
  - 八 諸般ノ報告ニ關スル事項
  - 九 構内ノ警備及ヒ取締ニ關スル事項
  - 十 本部ニ屬スル經費豫算編製ニ關スル事項
  - 十一 場内日誌記録ノ事項
  - 十二 他ノ所管ニ屬セサル一切ノ業務
- 第五項 會計部
- 一 經費出納ニ關スル事項
  - 二 會計ニ關スル諸帳簿整理ノ事項
  - 三 本場經費豫算調製ニ關スル事項
  - 四 物品ノ購入及ヒ不用品處分ニ關スル事項
  - 五 土地建物ノ管理並ニ修繕ニ關スル事項
  - 六 此外會計ニ屬スヘキ一切ノ業務

第三章 文書取扱

- 第拾條 總テ本場ニ收受シタル文書親展書ヲ除クハ其ノ要項ヲ件名簿ニ登載シ  
 收受月日番號ヲ附シ場長ノ檢閲ヲ經テ主任者ニ交付スヘシ
- 第拾壹條 主任者ニ於テ收受文書ノ交付ヲ受ケタル時ハ直チニ審査處分スヘシ
- 第拾貳條 本場ヨリ發送スヘキ公文書ハ凡テ之レヲ稟議シ場長ノ決裁ヲ受クヘシ  
 但シ電報ノ如キ迅速處理ヲ要スルモノハ臨機之ヲ處分シ然ル後回議ニ付スヘシ
- 第拾參條 場名若クハ場長名ヲ以テ發送スヘキ公文書ハ庶務部ニ於テ淨書校照  
 シ件名簿ニ其件名番號及ヒ發送年月日ヲ登記シ其番號ヲ記入シ捺印ノ上發送  
 シ原議ハ簿冊ニ綴リ込ムベシ
- 第拾四條 本場ヨリ發送スヘキ公文書ニハ左ノ番號ヲ記入スヘシ
- 一 阿水甲第 號 回答ヲ要スル公文書
  - 二 阿水乙第 號 回答ヲ要セサル公文書
- 岡山縣水産試驗場職務細則

第拾五條 發遣文書ニハ通例場名ヲ用ヒ事ノ重大ナル場合ニハ場長名ヲ用ユヘシ  
第拾六條 小使ヲ以テ送達セシムル公文書ニハ送付簿ヲ用ヒ必ス受印ヲ徴シ置  
クヘシ

第拾七條 處分完結ノ文書ハ總テ庶務部ニ於テ之ヲ分類綴冊ス

但シ經費出納ニ關スルモノハ會計部ニ於テ整理ス

第拾八條 令達其他場員ノ知悉ヲ要スヘキ書類ハ總テ回覽ニ附シタル後當該簿  
ニ綴リ込ムヘシ

第拾九條 公文書綴リ込簿冊ハ部類ヲ分チ總テ曆年ヲ以テ之レヲ編成ス

第貳拾條 本場備付ノ簿冊左ノ如シ

庶務部ノ保管ニ屬スルモノ

- 一 試験原簿
- 二 日誌
- 三 試験成績綴
- 四 件名簿

- 五 來觀人名簿
- 六 臨時人夫雇入簿
- 七 出頭簿
- 八 職員名簿
- 九 職員履歷書綴
- 拾 質疑應答錄
- 拾一 參考書類綴
- 拾貳 出張復命書綴
- 拾三 例規類纂
- 拾四 出張伺簿
- 拾五 職員願届綴
- 拾六 辭令原簿
- 拾七 決議錄
- 拾八 達 綴

岡山縣水産試驗場處務細則

拾九 秘書綴

貳拾 宿直日誌

會計部保管ニ屬スルモノ

一 縣會計規則ニ關スル諸帳簿

第貳拾壹條 前條規定外ニシテ臨時必要ノ簿書ハ場長ノ指揮ヲ受ケ調製スヘシ

第四章 圖書物品ノ管理

第貳拾貳條 主務ニ關スル圖書物品ハ總テ主務各部ニ於テ保管ス

第貳拾參條 各部共用ノ物品ハ會計部ニ於テ保管ス

第貳拾四條 各部共用ノ圖書ハ庶務部ニ於テ保管ス

第貳拾五條 圖書物品ハ本場員ノ外貸與セス

但シ場長ノ特許ヲ得本場内ニ於テ使用スルハ此限リニアラス

第貳拾六條 貸與シタル圖書物品ト雖モ管理者ニ於テ必要ニヨリ返付ヲ需ムル

時ハ直チニ返還スヘシ

第五章 宿直

第貳拾七條 執務時間外及ヒ休日中ニ於ケル庶務辦理ノ爲メ宿直ヲ置ク

第貳拾八條 宿直ハ場長ヲ除ク外各職員順次交代勤務ス

但シ代直ノ必要アル時ハ場長ノ許可ヲ受クヘシ

第貳拾九條 宿直ハ退出時間ニ始マリ翌日出勤時間ニ了ルモノトス

第參拾條 出張ノ前日及ヒ出張者歸場當日並ニ出張疾病父母ノ看護轉地療養忌

引ノモノハ順次繰下置キ次順ノモノヲ以テ宿直セシム

第參拾壹條 宿直中處理セシ事項ハ事ノ完結ト否トニ拘ラス總テ宿直日誌ニ記

録シ任務終了ノ時庶務部又ハ次ノ宿直者ヘ引渡スヘシ

第參拾貳條 宿直者ハ公命ノ外場内ヲ離ルヘカラス

但シ疾病其他已ムヲ得サル事故アル時ハ代理者ヲ出場セシメ引繼キヲナシ

タル後退出スヘシ

第參拾參條 宿直者ニ於テ處辨シ難キモノハ直チニ主務者ヘ報告シ處分ヲ求ム

ヘシ

第參拾四條 宿直者ハ場内ノ警備ヲ爲スヘシ

岡山縣水産試驗場處務細則

第參拾五條 宿直者ハ本場又ハ本場附近ニ於テ非常ノ變災アル時ハ直チニ場長ニ報告スヘシ

第六章 出張

第參拾六條 職員職務ニ依リ出張ヲ要スル時ハ出張伺簿へ出張ヲ要スル事由及ヒ出張ノ月日場所等ノ豫定ヲ記載シ場長ノ認可ヲ受クヘシ

第參拾七條 前條豫定ノ月日ニ於テ要務ヲ處辨シ能ハサルトキ及ヒ豫定ヲ變更シタル時ハ事由ヲ具シ場長ニ届ケ出ツヘシ

第參拾八條 出張員ハ其處務若シクハ調査ノ要領ヲ歸場ノ日ヨリ參日以内ニ書面ヲ以テ場長ニ復命スヘシ

但シ處理事項ノ複雑ナルモノハ場長ノ許可ヲ得テ本條ノ日限ヲ延長スル事ヲ得

(處務細則完)

以下ノ規程ハ本場ニ於テ業務施行ノ都度之ヲ制定シ知事ニ報告セルモノナリ

養魚試験池監守規程 明治三十五年七月九日制定

一 監守人ハ監守ノ外餌料調製及魚類ノ取扱ヒチナシ其他總テ本場員ノ命令ニ依リ從事スルモノトス

一 監守人ハ月手當若干ト定メ翌月壹日之ヲ支給ス但シ初メテ雇入レタルモノハ翌日ヨリ其解雇ニ係ルモノハ當日迄日割ヲ以テ支給ス

一 事務ヲ怠リ或ハ不正ノ行爲アリト認めル時ハ直チニ解雇スルコトアルヘシ此場合ニ於テハ當該月手當ヲ支給セス

海洋觀測規程 明治三十五年八月二十六日制定

一 本觀測ハ縣下樞要ノ地ヲトシ一定ノ個處ニ於テ水形學及生物學上ノ調査ヲ爲スモノトス

一 觀測ヲ分チテ左ノ三種トス

四季定時觀測

月次觀測

日次觀測

一 四季定時觀測ハ本場員出張從事ス

養魚試験池監守規程 海洋觀測規程

- 一 月次観測ハ本場監督ノ下ニ之カ囑托観測ヲナス者トス
- 一 日次観測ハ本場ニ於テ必要ト認メタルトキ期間ヲ定メ之カ囑托観測ヲナス者トス
- 一 観測シタル時ハ直チニ別紙観測心得ニヨリ事實ヲ日表ニ記入ス可シ
- 一 囑托観測人ハ本場ノ指揮ニ従ヒ時々漁業ト観測トノ關係其他ヲ調査シ報告スヘシ
- 一 囑托観測人ハ月手當若干宛チ三ヶ月毎ニ支給ス
- 一 但シ初メテ囑托シタルモノハ拜命ノ翌日ヨリ其解囑ニ係ルモノハ當日マテ日割ヲ以テ支給ス
- 一 日次観測ヲ囑托シタル時ハ特ニ其日子間ニ對スル若干ノ手當ヲ支給ス
- 一 報告ニ要スル料金ハ實費ヲ支拂フ可シ
- 一 観測ニ要スル漁船漁夫等ノ雇入料ハ凡テ實費支辨トス
- 一 事務ヲ怠リ又ハ虚偽ノ報告ヲ爲シタル時ハ直チニ解囑スルコトアル可シ此場合ニ於テハ當該月手當ハ元ヨリ之ニ關スル観測費等モ一切支給セサルモノトス

ノトス

蛤試験地監守規定 明治三十五年九月二十七日制定

- 一 監守人ハ試験地監守ノ外観測ヲモ併セ行フモノトス
- 一 監守人ハ月手當若干宛チ參ヶ月毎ニ支給ス
- 一 但シ初メテ囑托シタルモノハ拜命ノ翌日ヨリ其解囑ニ係ルモノハ當日マテ日割ヲ以テ支給ス
- 一 報告ニ要スル料金ハ總テ實費ヲ支給スヘシ
- 一 事務ヲ怠リ又ハ虚偽ノ報告ヲ爲シタルトキハ直チニ解囑スルコトアルヘシ此場合ニ於テハ當該月手當ヲ支給セス
- 一 重要生物調査規定 明治三十五年十二月十五日制定
- 一 本調査ハ縣下樞要ノ地ヲトシ本場監督ノ下ニ之カ囑托調査ヲナスモノトス
- 一 調査報告ハ毎月五日限リ前月分ノ景況ヲ取纏メ爲スヘシ
- 一 調査スヘキ生物ノ種類左ノ如シ
- 一 鯛 鱈 烏賊 鰹 鱈 鰯 鰺 鱈 鱈 (方言マ、カリ)

蛤試験地監守規定 重要生物調査規定

- 一 調査スヘキ事項左ノ如シ
  - (イ) 去來ノ模様及時期ノ遲速
    - 去來ノ方向群ノ厚薄游泳ノ有様例年ニ比シテ遲速如何等ヲ精査スヘシ
    - 漁獲ノ多少及其原因
  - (ロ) 漁場漁具ノ名稱漁獲數例年ニ比シ漁獲ノ多少其原因ト認ムヘキ事項等
    - 漁獲物ノ大サ及價格
    - 漁獲物ノ最大最小平均及ヒ最高最低平均價格其他參考トナルヘキ事項
- 一 調査ハ凡テ生物各個ニ付別々ナルヲ要ス故ニ漁期ヲ等フスル場合ニ於テモ決シテ混同シタル調査并ニ報告ヲ爲スヘカラス
- 一 報告ニ要スル料金ハ本場ニ於テ其實費ヲ支拂フヘシ
- 一 嘱托員ニハ年度末ニ於テ相當ノ報酬ヲ支給スルモノトス
  - 但シ虚偽ノ報告ヲ爲スカ又ハ之ヲ怠リタルトキハ之ヲ解任シ或ハ報酬ヲ削減スルコトアルヘシ

五、 經 費

三十五年度本場經費豫算左ノ如シ  
一金四千七百七拾九圓四拾四錢壹厘

經常費

內 譯	金千四百四拾圓	俸 給	場長技師一名年俸
	金六百圓		技手三名俸給
	金七百貳拾圓		書記一名俸給
	金百貳拾圓	諸 備 給	
內	金百八拾貳圓		
	金百七拾參圓	小 使 給	
	金六拾四圓	水 夫 給	
	金四拾五圓	人 夫 給	
	金五百九拾五圓七錢	旅 費	
經 費 內			三十五

金貳百八拾八圓拾五錢  
 金參百六圓九拾貳錢  
 金拾六圓四拾錢  
 金六百九拾四圓八拾八錢五厘  
 金貳百七拾五圓四拾八錢六厘  
 金百八拾圓  
 金六拾貳圓五錢  
 金百圓  
 金貳拾圓  
 金百圓  
 金百拾八圓五拾五錢  
 金百七拾五圓  
 金貳百圓  
 金貳拾圓

奏任待遇旅費  
 判任待遇旅費  
 惠與  
 備品費  
 消耗品費  
 借家料  
 賄書料  
 圖書費  
 印刷費  
 通信運搬費  
 試驗費  
 調查費  
 觀測費  
 雜費

三十六

一金千百六拾八圓四錢九厘

內譯 金千百六拾八圓四錢九厘

臨時費 養魚地造設費

六 職員

本場創立以來就任セシ職員及ヒ擔當事務ヲ記スレハ左ノ如シ

擔當事務	就任	官職	氏名
製造主任	明治三十五年三月十一日	場長技師	樋口邦彦
漁撈主任	明治三十五年五月一日	技手	日向新治
養殖主任	明治三十五年三月三十一日	技手	岩城榮太郎
庶務會計主任	明治三十五年三月三十一日	書記	加藤莊次郎

更ニ本場業務ニ關係セル人名及ヒ囑託事項等ヲ記スレハ左ノ如シ

囑託事務	受解囑託月日	氏名
蛤養殖試驗地監守	明治三十五年九月四日	大嶋與三郎
海洋觀測員	明治三十五年九月三十日	永山廣太郎
同	明治三十六年一月三十一日	黑田敏郎

職員

三十七

同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
重要生物調査員	明治三十六年一月三十一日囑託	岡江秀明	岡江秀明	藤本光治	島津磯吉	村上準一	山下嘉壽	同	同

七、施設事業

本年度ハ事業草創ノ際トテ諸般ノ準備ニ追ハレ物品器械ノ購入試験地ノ撰定養魚地ノ造設等百事意ノ如ク進ハサルモノアリ特ニ中央氣象臺ノ檢定ヲ經ヘキ諸器械類ノ久シク到達セサル等ノコトアリ爲メニ事業ノ見ルヘキモノ甚タ少ク多クハ其端緒ヲ開キシニ過キサルハ誠ニ遺憾ニ堪ヘサル所ナリ今左ニ其梗概ヲ順次ニ摘録ス

試験

伏老水漬罐詰試験

伏老ハ本縣ノ特有物産ニシテマダ重要水産物ノ一タリ然ルニ從來之レカ製造販賣ヲナセルモノヲ見ルニ概テ左ノ三様ニ分類セラル

- 一、刺身トシテ販賣スルコト
  - 一、刺身トシタルモノヲ購入シ大和煮的ニ調和シ罐詰トナシテ販賣スルコト
  - 一、活貝ノマ、之ヲ神戸ニ輸送シ俵裝緊括シテ清國ニ輸出スルコト
- 右三者中調味シテ罐詰トナセルモノ、需用ハ多クハ内地ニ止マリ其海外ニ輸出スルモノト雖トモ海外ニ出稼セル本邦人ノ幾部ヲ華客トスルニ過キス刺身ノマ販賣スルモノハ販路全ク縣下ニ止マリ主トシテ細民ニ歡迎セラル、モノナルヲ以テ此上需用ノ増大スルコトハ頗ル疑問タラサルヲ得ス然ルニ活貝ノママ清國ニ輸出スルモノハ假令清國ニ於テ其産アリトスルモ尙ホ大ニ望ミテ屬スヘキモノナルナリ然ルニ活貝ノママ輸出スルモノナルヲ以テ其量過大ニ失シ隨ツテ運搬費ノ高額ヲ來タシ延テ需用地ニ於ケル價格ヲ不廉ナラシメ加フルニ輸出ノ時期冬季ニ限ラレ其他ノ時ニ於テスルコト能ハサルヲ以テ常ニ多少ノ遺憾ナキコト能ハス故ニ之ヲ水漬罐詰ニ製造シテ輸出スルコト、セハ當ニ其量ヲ減スル

伏老水漬罐詰試験



ノミナラス産卵期ヲ除クノ外ハ周年之ニ從事スルコトヲ得ルヲ以テ前記ノ遺憾  
 ナシテ全然空ニ歸セシムルコトヲ得ヘク而シテ此等ノ感念ハ夙ニ縣下罐詰業者  
 ノ抱懐スル所トナリ屢々試製セラレテ屢々失敗シ未タ曾テ好果ヲ奏スルコト能  
 ハサルノ事蹟アルヲ以テ本場ハ如何ニモシテ之ヲ成功セシムヘキ希望ヲ有シ本  
 年度ニ於テ之レカ製造試験ヲ爲シ之ヲ農商務省ニ託シテ悉ク海外ニ輸送シタリ  
 然ルニ未タ清國ヨリ何等ノ報告ニ接セサルヲ以テ以下簡單ニ其製造上ノ順序方  
 法ノミヲ記シ詳細ナル報告ハ之ヲ他日ニ讓ルコトトセリ製造ニ供シタル原料具  
 ハ壹升ニ付貳百五拾箇ヲ容ルヘキ粒位ノモノニシテ此重量約五百六拾匁内外ナ  
 リ即チ清國輸出向具ノ中位ヲ採リシナリ此總量拾壹石ニシテ之ヲ前後兩日ニ分  
 ナ剥身トナシ製造シタリ其法先ツ泥土ヲ吐カシムヘキ目的ヲ以テ俗ニ平駄船ト  
 稱スル六七石内外ノ積載力ヲ有スル船ノ古朽セルモノヲ借入レ之レニ海水ヲ漑  
 ヘテ養貝田ヨリ揚ケ來リタルモノヲ投入シ其儘放置スルコト約一日ニシテ取揚  
 ケ糸ニ移シ能ク洗滌シテ殻面ノ汚穢物ヲ去リ豫メ三斗入位ノ平釜ニ水五六升ヲ  
 盛り沸騰セシメツ、アルモノ、中ニ一回參斗宛ヲ投入シ其一旦沸騰ヲ止メテ更

ニ十五分乃至二十分間ヲ經過スレハ再ヒ沸騰スルヲ以テ之ヲ機トシテ引揚ケ一  
 々指頭ヲ以テ肉ヲ取り剥身ト爲ス(伏老ハ他ノ双殼類ノ如ク口ヲ開クコトナキヲ  
 以テ飾其他ニヨリ殼ト肉トヲ分離セシムルコト能ハサルナリ)剥身トナシタルモ  
 ノハ直チニ之ヲ岡山市片山工場ニ送り更ニ井水ヲ以テ清洗シ其肉ヲ緊縮セシム  
 ル爲メボーデー氏檢液器貳拾五度ノ食鹽水中ニ浸漬スルコト約三時間ニシテ取  
 出シ再ヒ井水ニテ粗洗シ釜ニ入レ約五分間煮沸シテ臺上ニ擴ケ冷却セシム而シ  
 テ其煮沸シタル釜湯ハ一々之ヲ別器ニ汲取り二重ニ折重チタル木綿ヲ以テ濾過シ  
 清良水ヲ以テ之ヲ稀釋シ一〇一位ノ比重ナラシメ之ヲ嘗メテ殆ント鹹味ヲ感セサ  
 ル程トシ以テ罐ニ注入スル稀薄鹽水ニ供フ斯クテ煮沸シタル肉ノ冷却スルヲ待  
 チテ壹封度丸堅罐ノ能ク洗滌乾燥サレタルモノヲ取り壹個ニ對シ九拾匁宛ヲ秤  
 量シテ肉ヲ填充シ前ノ稀薄鹽水ヲ盛り蓋ヲ施シ封臘ヲ爲シ順次溫蒸検査ヲ終リ  
 テ蒸釜ニ入レ六封度ノ蒸氣熱ヲ給シ蒸スコト三十分時ニシテ取出シ悉ク脱氣シ  
 テ再ヒ蒸釜ニ入レ八封度ノ給熱ヲナシ壹時間蒸氣殺菌ノ法ヲ行ヒテ之レヲ止メ引  
 出シテ其儘放冷スルコト一夜ノ後打診検査ヲ施シ精良品ノミニ對シ三週間餘ノ

伏老水蒸罐詰試驗

温室試験ヲ經テ茲ニ其製ヲ終レリ而シテ之ニ要シタル原料具ノ數量及ヒ製品數ヲ記スレハ左ノ如シ

原料具 拾壹石

此價格 貳拾四圓貳拾錢

此剝身參石參斗參升

此製品總數六百五罐

附記

現今本場ハ纔カニ民家ノ一半ヲ借リテ事務所ニ充ツルノ已ヲ得サル窮境ニ在ルヲ以テ元ヨリ製造場杯ノ有ルヘキ管モナケレハ隨ツテ本場ニテハ到底之ヲ爲スコト能ハス故ニ剝身ハ本場所在地ノ同具剝身製造場ヲ借り罐詰ハ岡山市片山商會ノ罐詰工場ヲ借リテ之レカ製造ヲ完了シタルナリ

鱈、鱸養殖試験

本縣ノ沿岸壹百有七里ノ間養魚ヲ營ムヘキ池沼溝渠ノ類頗ル多ク小ハ數坪ヨリ大ハ數百千坪ニ及ヒ其數舉ケテ算スヘカラス然ルニ從來之レカ利用ノ途ヲ講ス

ルモノナク徒ラニ自然ニ放任シ放テ人爲ノ手段ヲ施シ施設經營スルモノアルナシ鱈、鱸ノ如キハ天性淡鹹混水ニ生長スルモノナルヲ以テ此等ノ池沼溝渠ニ飼育スルニハ最も適當セル魚種タルナリ故ニ若シ一般ニ之レカ飼育經營ニ從事スルニ至ラハ其利益シ數拾萬金ニ達スヘク延テ地方經濟ノ消長ニ多大ノ關係ヲ有スルニ至ルモノアルヘキヲ以テ其池ノ面積ニ對スル放養ノ割合及ヒ餌種投餌量ノ得失適否優劣等ヲ比較研究シ其結果ヲ齎ラシテ之レカ啓導誘掖ヲ試ミルハ最も刻下ノ急務タルヲ信ス而シテ本年度竣工ニ屬スル養魚池ハ水質全ク淡鹹混水ナルヲ以テ管下全体ニ通シテ汎ク經營スヘキ純粹ナル淡水養殖ハ之ヲ後年養魚池完成ノ後ニ譲リ今ハ只其水質ニ適當セル鱈、鱸ノ二種ヲ限リ本年度ニ於テ之レカ成育試験ヲ開始シ以テ一面其模範ヲ示スト共ニ一面ニ於テハ収利ノ存スル所ヲ知悉セシムル所アラント欲シ以下ノ順序方法ニヨリテ之ヲ實施シタリ  
試驗地 位置ハ兒嶋郡八濱町大字八濱字新開地内ナル官有溝渠ヲ利用シ明治三十五年五月起工全年九月漸ク竣成ヲ見ルニ至レリ然レトモ本年度ハ經費豫算ノ少額ナル爲メ地區狹少ニ數亦甚ナク加フルニ諸般ノ設備甚々不完全ナルノ已ムヲ

鱈、鱸養殖試験

得テサルモノアリ隨テ他日ノ補修工事ヲ俟ツニアラサレハ充分ナル養魚ヲ營ム事難キモノアルナリ其池ノ數及坪數ヲ記スレハ左ノ如シ

- 第壹號池 六百坪
- 第貳號池 四百五拾坪
- 第參號池 五百五拾坪
- 總坪數 壹千六百坪

魚苗購入及ヒ蓄養 魚仔ハ毎年五六月ノ交ニ至レハ体長一寸内外ニ達シ能ク沿岸ニ群來シ漁獲容易ニシテ又完全ナル魚苗ヲ得ヘシト雖トモ一朝此期ヲ失スルニ於テハ其生長スルニ從ヒ遠ク沖合ニ逸去シテ性益々敏捷トナリ漁獲モ亦甚タ困難ヲ加ヘ遠ニ養魚資料ニ供スルコト能ハサルニ至ルヘキナリ然ルニ本年度ニ於ケル養魚池工事ハ頗ル遲滞ヲ極メ爲メニ適當ナル魚苗ヲ求ムルノ機ヲ逸セリ七月中旬漸ク溜池様ノ池ヲ出來セシノミニテ未タ一ヶ所ノ竣成ヲモ見ルコト能ハス斯クテ今後尙ホ工事ノ竣成ヲ待ツニ於テハ到底本年度内ニ於テ試驗施行ノ望ミナキニヨリ已ムナク一時應急ノ手段トシテ魚仔蓄養ノ目的ヲ以テ魚苗ヲ

購入シ之レヲ第壹號池第貳號池ニ放養シ他日工事ノ落成ト共ニ分發スルコトトハナシヨ而シテ魚苗購入ハ七月九日ニ始メ全十九日ニ之レヲ終ヘタリ此間ノ買収尾數及ヒ体長、体量ノ平均ハ大約左ノ如シ

然ルニ當時已ニ魚苗ノ捕魚期ヲ失シタル爲メ老練ナル漁夫カ秘術ヲ以テスルモ漁獲尙ホ僅少ニ過キス加フルニ魚体ノ健康ヲ害シ斃魚ハ其大半ヲ占メ育養上經濟上共ニ損失多ク剩ヘ盛夏炎熱ノ候ニ於テ樋門ノ裝置ナキ淺池ヲ利用スルノ止ムヲ得ザルモノアル等困難百至シタレトモ深重ナル注意ト手段トニ依リ池ハ成ルヘク水深ノ増加ヲ力メ魚苗ハ之レカ健否ヲ調査シテ買収放養セシ結果ハ全放流尾數ニ對シ僅カニ一割四歩弱ノ步減ニ留マリ他ハ悉ク健全ナル魚苗ヲ得ルコトヲ得タリ而シテ七月末各種ノ現在ハ左ノ如シ

魚種	體長	體量	尾數
鱸魚	二寸五分	壹分五厘	九〇五
鱸魚	二寸五分	壹分八厘	二〇〇
鱸魚	一寸餘	七分	七〇〇
鱸魚	二寸五分	壹分五厘	九〇五
鱸魚	二寸五分	壹分八厘	二〇〇
鱸魚	一寸餘	七分	七〇〇
買収尾數			一、二、三、四、五、六、七、八、九、〇
斃死尾數			一、二、三、四、五、六、七、八、九、〇
現在尾數			一、二、三、四、五、六、七、八、九、〇

育養 九月一日漸ヤク工事ノ竣功ヲ告ケタルヲ以テ蓄養ノ魚仔ハ之レヲ網獲シ第壹第貳第參ノ各池ハ水深三尺乃至四尺ヲ保タシメ壹坪ニ對シ五尾強ノ割合ヲ以テ各池ニ放養セリ抑モ本池ハ前述ノ如ク池中ノ構造已ニ完カラス殊ニ育水ノ注排路ヲ缺キ單ニ之ト連接セル溝渠水層ノ増減ニヨリ僅カニ池水ノ幾分ヲ新陳代謝セシムルニ過キササルヲ以テ池水腐敗ノ豫防ハ最モ細心留意ヲ要スル所アリシナリ故ニ各池ニ餌料臺ヲ設置シテ一ハ魚兒ノ食慾ヲ檢シ一ハ腐水防禦ノ一助トナシ餌料ハ地方ニ得易クシテ且廉價ナル蠶蛹醬油粕及米麥ノ糠粕等ヲ撰用シテ混合煮熟シ分量ハ魚仔ノ食慾ニ從ヒ之レヲ斟酌シ投餌ノ度數ハ天候ノ如何ニ依リ一日一回若クハ一週一回ノ範圍ニ於テ之レヲ定メ他ハ專ラ池水ノ交換ニ努メタリ然レトモ其樋門ノ構造既ニ前述ノ如キモノアルヲ以テ池水ノ交換其意ノ如クナルコト能ハス隨テ盛夏三伏ノ候ニ際シ時々水質ノ變化ヲ來シ之ニ加フルニ稻田ニ使用セル石油ノ注入スル恐アリテ爲メニ池水ノ交換ヲ杜絶セシメト一再ナラス其試育ノ困難ナルコト誠ニ容易ニアラサリシナリ斯ク幾多ノ障礙ヲ經由シテ之レカ試驗ニ從事セシカ幸ニ分養當時以來更ニ一尾ノ斃死ナモ生セ

ス今尙ホ健全ニ成育シツ、アリ而シテ自然生長ノモノト對比シテ計數的ノ得失如何ハ後年試驗結了ノ日ニアラサレハ判然セサルモノアリト雖トモ今日ノ景況ヨリ推察スレハ頗ル多大ノ収益アルヲ疑ハス今其餌料ノ割合及ヒ魚仔生長調査ノ概要ヲ舉クレバ左ノ如シ

投餌ハ八月三十一日ニ始メ十一月五日ニ終ル投餌ノ度數貳拾四回ニシテ其量蠶蛹六拾參貫(乾燥シタル粉末)小麥二石二斗六升米糠二石三斗六升醬油粕九拾參貫トス

鱸生長率表

月日	體長	幅	員	重	量	摘	要
七月九日	二寸	五分	壹	匁五分	拾尾平均ニ依ル		
八月三十一日	四寸〇五厘	八分六厘九	六	匁〇壹厘	同		
九月十五日	四寸六分五厘	一寸〇〇八	九	匁九分六厘	同		
同 三十日	五寸一分七厘	一寸一分〇三	十四	匁四分五厘	同		
十月十五日	五寸四分五厘	一寸二分一厘	十六	匁八分三厘	同		
同 三十一日	五寸六分三厘	一寸二分八厘七	十八	匁二分九厘	同		

鱸養殖試驗

氣象ノ關係ハ概シテ平穩ニシテ寒暑風力共ニ劇烈ナラス晴雨其宜シキヲ得テ著シキ變化ナク隨テ養魚上ノ被害甚タ少ナキ事ヲ得タリ而シテ之レヲ九月一日ヨリ十一月五日ニ至ル投餌期間内ノ觀測ニ徴スレハ晴天四十八日雨天十九日ニシテ最高風力ハ暴風一回強風一回疾風五回氣温ノ最高ハ參壹度五最低壹參度五水温ノ最高參貳度最低壹六度八ナリトス其他監守ニ於テハ鳥獸ノ被害ナクマダ魚仔ノ凍死及ヒ跳逸ノ憂ナク只酷暑ニ際シ池水ノ腐敗若クハ石油流入ノ恐レアリシノミ

### 蛤養殖試驗

蛤ハ古來貴重食品トシテ汎ク内地ニ需用サレルノミナラス其乾製品ハ清國ニ輸出セラル空殼ハ藥劑ノ容器ニ利用セラルル等販路廣潤際涯ナキヲ以テ之レカ生産ヲ圖ルハ海面開拓ノ上ニ於テ最モ有利有益ナルモノナリ而シテ本縣ニ於テハ沿海各地何レモ多少ノ漁利ナキニ非スト雖モ就中古來饒產地トシテ多少ノ収利ヲ博スルハ淺口郡ノ沿海ナリトス其生産區域ハ同郡玉嶋以東高梁川流末沿海一帶ノ地ニシテ面積約壹千町歩ヲ占ム然ルニ近時一ケ年ノ漁獲ハ僅々四千石乃至

五千石ニ過キス今仮リニ五千石トシテ之ヲ其總面積ニ照シ生産ノ歩合ヲ舉クレハ海面一坪ニ對シ當ニ壹合六勺六六強ナリ今之レヲ兒島灣ニ於ケル伏老牡蠣ノ養貝ニ比センカ伏老ハ壹坪ニ對シ二斗内外ヲ牡蠣ハ三斗内外ヲ放養シテ優ニ効果ヲ収メツツアリ蓋シ自然ニ放任スルモノト周到ナル人爲ノ蕃殖ヲ爲スモノトノ差ハ此驚クヘキ事實ヲ産ミ出セルモノタルナリ然リ而シテ輒近需用ノ盛ナルニツレ醋漁濫獲ノ弊益々甚タシク逐次年ト共ニ減耗ヲ來シ加フルニ採取セル所ノ介ハ週次小形トナリ益々蕃殖ヲ阻害シテ今ヤ其弊ノ停止スル所ヲ知ラザラントス之レヲ自然ニ任シ之レヲ現時ノ隋力ニ委センカ途ニハ其生産ノ跡ヲ絶ツニ至ルヘン爰ニ於テ保護蕃殖並ニ人爲ノ養殖ハ最モ刻下ノ急務タルヲ知ル故ニ本年度ヨリ之レカ試驗地ヲ設ケ經濟的養貝ノ適法ヲ攻究スルト同時ニ各方面ヨリ周到ナル試驗調査ヲ遂ケ以テ其地ノ確實ナル生産力ヲ知了シ之ニヨリテ海面固有ノ生産ヲ挽回セント欲ス本事業ノ如キハ獨リ淺口郡ノミニ止マラス沿海ノ各郡亦共ニ之ニ倣フヲ得ルヲ以テ縣下全体ニ通シテ甚タ有望ノ事業タルナリ試驗施設ニ付テハ土地撰定ノ要アルヲ以テ明治參拾五年九月一日淺口郡ノ沿海

### 蛤養殖試驗

ヲ臨檢シテ漁場ノ一般ヲ觀察シタリ  
 蛤生産地ハ水島灘ニ面シ高梁川及ヒ里見川ノ末流皆茲ニ灌キ淡鹹交會シ波濤概  
 子靜穩ナリ而シテ其區域ハ沿岸ヨリ沖合ニ向フ參拾町乃至四拾町ノ範圍内ニシ  
 テ其分佈恰モ方形狀ヲナシ此間ノ面積約壹千町トス沖合ノ比重ハ一〇二〇内外  
 ニシテ底質ハ砂泥混交シ海藻ノ發生アリ地方ハ比重一〇〇五乃至一〇一七ニシ  
 テ平均ナラス底質ハ砂洲一帶ノ遠淺ニシテ海面ハ數條ノ大濤ノ他數百千ノ小濤  
 ナ有セリ而シテ陸地ノ水源ハ頗ル深ク一朝暴風雨ノ襲來スルアレハ河川溝渠ノ  
 汎溢ヲ起シ濁流忽チニ抵リ海面幾百千ノ小濤ノ位置方向ヲ變セシメ之ト同時ニ  
 多少砂洲ノ變轉ヲ見ル故ニ試驗地ハ此等ノ点ニ留意シ最モ育養ニ適シテ被害少  
 ク且ツ監守及ヒ臨檢ニ便ナル個所ヲ撰ヒ同郡乙島村大字岡新開地西沿岸ヲ以テ  
 之ニ適スルノ地ト定メ面積百坪ヲ區劃シテ明治參拾五年九月七日試驗ヲ開始シ  
 タリ以下施設ノ概況ヲ述ヘン  
 蛤ハ移轉性ヲ有スルヲ以テ試驗地ノ構造ハ最モ注意ヲ要スルニヨリ之ヲ内外兩  
 廓ニ分チ内廓ハ專ラ苗介ノ脱出ヲ防ク爲メ放養區域ノ外周ニ高貳尺五寸ノ竹簀

ヲ廻ラシテ波浪ノ抵杭ヲ避クルメ地上地下等分ニ斜メニ埋メ建テ尙ホ壹間毎  
 ニ杭木ヲ打込ミ繩ヲ以テ竹簀ヲ結付シ一層堅牢ナラシメ更ニ其内廓ノ外面ニシ  
 テ最モ風浪打撃ノ恐レアル東西兩方面へ巨離一間宛ヲ隔テテ前同様ノ手續キニ  
 依リ竹簀ヲ繞ラシテ外廓トナシ以テ内廓萬一ノ破損ニ乘シテ介ノ脱出スルコト  
 ナ防止スルニ供セリ  
 苗介ハ同形同大ニシテ成ル可ク稚少ナル粒位ヲ撰別スルノ必要アルヲ以テ海水  
 ナ滿シタル半切桶中ニテ篩ヲ以テ漁者採捕ノ介ヲ濾下シテ盛り枱壹升ニ付容量  
 平均五百二拾粒位ノモノヲ取り三石ヲ買収シテ養殖原料トセリ撒入ノ方法ハ原  
 料ノ買収ト同時ニ小舟ニ積載シテ試驗地ニ運搬シ湖水較ヤ退キ自由ニ作業シ得  
 ルニ及ンテ各坪間ノ目標ヲ作り其範圍ヲ明瞭ナラシメ置キ一坪配布ノ割合ハ之  
 レヲ三升ト定メ湖時中ニ悉皆ヲ投入シタリ斯クテ放養後ハ專ラ竹簀ノ模様ニ注  
 意シ破損ノ虞アルモノハ豫メ之ヲ修補シテ養介ノ安全ヲ圖リマタ荒天風浪ノ後  
 ニ於テ養殖區劃ノ一隅ニ偏シテ介ノ累集スルコトアルハ介ノ生長ヲ阻害スルモ  
 ノナルヲ以テ臨時蒔キ直シヲ行ヒテ力メテ生育ノ均一ヲ保タジメタリ殊ニ區劃

内ハ竹筴其他ノ爲メ流潮稍々緩ナルカ上ニ活介ノ多數ヲ存スルカ故ニ之レカ唯  
 一ノ害敵タルツブ貝ノ來襲スルコト夥シク又塵埃ノ打チ寄スルコト少カラス此  
 等ハ常ニ注意ヲ加ヘテ其除害ニ努メタリ叙上ノ外監守規程ニ依リ監守人ヲシテ  
 一日一回必ラス臨檢セシメ専ラ之レカ成育ヲ圖リシカ幸ニシテ常期間中ハ差シ  
 タル竹筴ノ破損モナク介ノ逃逸亦殆ントコレナク且ツ害敵ノ侵害ヲ防クコトヲ  
 得タリ詳細ノ結果ハ試驗終了ノ日ニ非サレハ豫知シ難シト雖モ概シテ本年度ニ  
 於ケル經過ハ頗ル良好ニシテ前途有望ノ事業タルヲ認識シタリ  
 今本試驗開始以來三十個平均ニヨレル生長調査ノ概要ヲ擧クレハ左ノ如シ

月日	粒位	長サ	幅員	厚サ	重量
九月七日	五百貳拾粒	七分六厘	五分五厘	參分參厘	九分六厘五
拾月拾日	四百五拾五粒	八分〇	七分壹厘	四分壹厘八	壹分壹分
拾壹月拾日	四百拾五粒	八分七厘	七分四厘	四分四厘	壹分貳分壹厘
拾貳月拾日	參百七拾粒	九分壹厘	七分七厘九	四分六厘五	壹分參分七厘
壹月拾日	參百四拾五粒	九分五厘	八分壹厘	四分九厘五	壹分四分六厘
貳月拾日	參百貳拾五粒	九分八厘	八分四厘	五分〇貳	壹分五分七厘
參月拾日	參百拾參粒	壹寸〇壹厘	八分六厘	五分〇參	參分六分貳厘

氣象ノ觀測ハ之レヲ天氣風位風力氣温水温比重ノ六ニ分チ毎月六回之ヲ行ヒ更  
 ニ監守日誌ヲ編製シ以テ氣象其他ノ關係ヲ詳カニシ後日ノ參考ニ供シタリ而シ  
 テ常該期間ノ氣象ハ概シテ平穩ニシテ風雨共ニ甚シカラス養殖上差シタル被害  
 ナ見ス只開始當時恰モ二十日前後ニ相當シタルヲ以テ九月八日暴風暴雨ノ來  
 襲スルアリテ竹筴ノ東角些少ノ破損ヲ見タルコトアルノミ

調 査

重要生物調査

魚道ノ變化ハ漁業ノ豊凶ニ至大ノ關係ヲ有スルモノニシテ其之ヲ知ルニハ學理  
 ト實地ノ兩面ヨリセサルヘカラス本項ハ實際漁業ノ景況ニヨリ諸種ノ調査ヲ施  
 シ以テ漁業經濟ノ基礎ヲ樹立スルノ資ヲシムルト同時ニ漁政上ノ參考ニ供セ  
 シトスルモノニシテ水産局以下各府縣水産試驗場水産講習所ト聯絡ヲ通シ互ニ  
 通信ズルコトトシテ三十五年十二月ヨリ和氣郡日生村邑久郡牛窓町兒嶋郡下津  
 井町淺口郡寄嶋町ノ四個所ニ囑託員ヲ置キ鰻鱺、鰯、烏賊、章魚、鱒、鰒、サツバ等ノ  
 種族ニ對シ之ヲ調査セリ然ルニ此種ノ調査ニ至リテハ到底僅少年月ヲ以テ完全

スヘキ性質ノモノニアラサレハ其大成ハ之ヲ後日ニ期シ今ハ只内海府縣ノ調査報告ト對照シテ其大要ヲ輯録スルコト、セリ

一、鯛 九ひ

岡山縣 一番魚ト稱シ節分以後六十七八日目即チ四月中旬ヨリ産卵ノ爲メ入り込ミ六月下旬ニ至リテ其産卵ヲ終リ次第ニ外海ニ去ルチ例トスレトモ本年ハ小田郡海面ニ於テ近年稀有ノ早游アリ四月六日小田郡眞鍋島海面ニ於テ漁獲シタルチ初メトシ兒島郡日比ニ於テハ五月三日網チ下シ一体ニ相應ノ漁獲アリタリ五月十六日日比村地先大會ノ瀬ニ於テ一網四百八十尾ヲ漁獲シタルチ最トシ地漕瀬曳何レモ日々八十尾乃至百五十尾ヲ漁獲シ少ナキモ十四五尾ヲ下ラス五智網延細ノ如キモ四月二十日前後ヨリ續々其使用ヲ開始シ日々平均四五尾乃至七八尾宛ヲ漁獲シタリ其他主トシテ備前地方ノ漁業者ニヨリテ使用サルル俗ニ四枚掛ト稱シ鱈流網ノ下部ニ鯛底刺網ヲ連接セル漁具モ四月下旬ヨリ使用ヲ初メ平均十七八尾宛ヲ漁獲シタリ而シテ當漁業ノ最盛期ハ五月中旬ナリシモノ、如ク地漕網瀬曳網モ六月初旬ニ於テ網ヲ揚ケ以テ本年ノ鯛漁ヲ終レリ

漁獲物ハ概シテ太形ナリキ價格ハ初期ニ於テ壹貫目ニツキ釣魚壹圓五拾錢網魚壹圓内外ナリシカ其後漁獲ノ増加ニ伴ヒ概チ低廉ニ傾キ盛終期ヲ通シテ平均釣魚壹圓網魚七拾錢内外ナリキ之ヲ例年ニ比スレハ約貳割ノ高價ヲ保ツコトヲ得タリ

徳島縣 五月ニ入りテヨリ天候不良ノ爲メ休業スル者多ク鳴門近海ニ於ケル漁況ハ前年ニ比シ甚ク不漁ナリキ伊嶋地方モ同斷ノ景況ニテ漁獲高甚ク僅少ナリキ特ニ那賀郡ノ如キハ凶漁ノ最ナルモノニシテ其一例ヲ舉クレハ同郡中林村沖合ニ於テハ客年四五月ノ交地曳網ニテ四百餘圓ノ漁獲アリシカ本年ハ僅カニ參拾圓ニ過キサリシト云フ其他ノ地方亦之ト大同小異ナリ

香川縣 本縣ニ比シ聊カ早ク來游セシモノノ如シ即チ四月三日三豊郡觀音寺村附近沿岸ニ於テ三尾ノ漁獲アリ入り込ミノ模様極メテ好況ニシテ將來豐漁ノ見込アリシカ四月十八日ヨリ同月二十三日頃ニ亘リ俄然陸上氣温下降シテ寒暖計九度ニ示シ風向北東風多クシテ忽チ水界ニ變動ヲ與ヘシ爲メ漁況一變シ同月十四五日頃マテ思ハシキ漁獲ナカリキ左レハ盛漁期モ例年ニ比シ約十日間後



レタリ盛漁期中最モ捕獲多カリシハ五月中旬ニシテ即チ同月十八日綾歌郡乃生村沖合ニ於テたひ網一網ニテ九千六百餘尾ヲ漁獲シタルヲ最トシ瀬居嶋附近ノ漁場ニ於テ一網ニ千八百餘尾ヲ漁獲シタルモノ之ニ次キ其他何レモ相當ノ漁獲ヲ爲セリ如此盛漁ハ五月十七日ヨリ同月二十一日ニ至ル數日間ニシテ止ミ爾來薄漁一方ニ傾キシヲ以テ瀬居島漁場ノ如キハ五月三十一日ヲ以テ終漁トシ網ヲ揚ケタリ三豊郡伊吹嶋附近ノ地ハ盛漁期稍々後レ五月二十日漸ク其期ニ入り縛網一網ニテ壹千餘尾ヲ捕獲ナシタルニトアリ此他三豊郡狹海漁場大川郡小豆郡ノ沖合ニ於テハ盛漁期間一網ヲ以テ千尾以上ヲ漁シ得タルモノナシ而シテ大川小豆仲多度等ノ漁場ニ於テハ六月十五六日ヲ以テ縛網ノ終期トナセリ鯛刺網鯛延繩五智網等ハ尙ホ永ク使用シタリ概シテ本年ハ豫期セシ程入り込ミ多カラス漁獲亦不同ニシテ多寡ノ差甚シカリシカ魚價能ク平均ヲ保チシヲ以テ損害ヲ蒙リタルモノナシ

廣嶋縣 當近海ニ於テハ毎年節分頃ヨリ徐々ニ入り來リ百三十日頃ヨリ漸次外海ニ去ルヲ以テ初期ハ壹本釣ニテ釣獲シ六十日頃ヨリ鯛地漕網ヲ卸シ八十日

頃ヨリ多ク縛網ヲ以テ漁獲スルヲ例トス本年ハ一般ニ入り込ミ後レ一本釣ハ近年稀ナル不漁ナリシモ地漕網ハ可ナリノ漁獲アリタリ縛網ハ終ニ薄漁ニ了レリ其原因ハ未タ詳ナラサレトモ豫設近海ニ於テハ縛網モ相當収利アリタリト云ヘハ思フニ春來氣候不順ナリシタメ魚道ヲ變更シタルニ因ルナランカ  
山口縣(内海方面) 四月十一日打漕網ヲ以テ佐波郡沖合ニテ參尾ヲ得タルヲ初漁トシ後五月七日同漁場附近ニ於テ地曳網ニテ拾八尾ヲ獲タリ本年ハ其漁期後レタル爲メカ釣網漁共ニ不漁ニシテ五智網ノ如キモ概チ一日ニ二三尾ヲ捕フルニ止マリ縛網ノ如キモ充分ノ漁獲ナカリシ吉敷郡床波沖合ニテハ多少ノ漁獲アリタリト云フ

大分縣 春期ヨリ初夏迄ハ一般ニ豐漁ナリシモ八月ニ入りテヨリ俄然凶漁トナレリ只東國東郡附近壹圓ハ終期マテ相當漁獲アリタリト云フ

福岡縣(内海方面) 終始薄漁ナリシモノノ如シ同方面ニ關スル詳報ナキニヨリ

不明

二鱸 さはら

重要生物調査

岡山縣 東部ニ於ケル漁期ハ四月中旬ニ初マリ六月中旬ニ終ルチ常トス本年ハ順當ニ入り込ミタルノミナラス極メテ近岸ニ來游シタルヲ以テ和氣郡日生村沖合大多府嶋附近ニ於テモ相應ノ漁獲アリタリ一體ニ小形ニシテ壹貫貳參百匁乃至貳貫匁内外ノモノ最モ多シ然レトモ其數頗ル多獲セラレタルヲ以テ平漁以上ニ値セルナルヘシ中部地方ニ於テハ來游ノ初期例年ヨリモ三四日間後レタリ五月二十日西ノ瀬ニ於テ瀬曳網ヲ以テ九十六尾ヲ漁獲シタルヲ最トシ流瀬網亦相當漁獲アリタリ而シテ例年ニ比シ豐漁且ツ高價ナリシヲ以テ一般ニ喜色滿々タリ之ニ反シテ西部地方ニ於テハ漁期稍々早ク四月中旬既ニ多少ノ漁獲アリタレトモ通シテ入り込ミ薄ク不漁ニ終レリ

徳嶋縣 四月中旬頃青嶋沖合ニ於テ僅少ノ漁獲アリシノミニシテ他漁村ニ於テハ漁獲ナカリシ

香川縣 鯛ト同シク其盛漁期ハ平年ニ比シ十四五日間後レタリ盛漁期中最モ捕獲多カリシハ五月二十七日以降六月七日頃マテノ間ニシテ鮪瀬曳網一網ニテ百八尾縛網一網ニテ三百餘尾ヲ漁獲シタルヲ最高トシ流網亦能ク一網四拾尾乃

至貳拾尾ヲ得タリ而シテ鮪瀬曳網ハ六月十一日頃ヲ以テ終漁トシダレトモ縛網流網等ハ尙永ク使用シタリ魚價ハ鯛ト同シク始終價格ノ平均ヲ保チシヲ以テ昨年ニ比シ漁獲少キニ拘ハラズ賣揚金高ニ於テハ却テ收入多カリシト云フ

廣嶋縣 通例入り込ミハ四月中旬前後ニシテ節分後七十五日頃ヨリ流網ヲ卸シ九十日頃ヨリ縛網ヲ使用シ百四十日頃ヲ終漁トスレトモ本年ハ入り込ミ例年ヨリ後ル、事十日餘ニシテ漁業者モ一時ハ大ニ失望シタリシカ九十日頃ヨリ稍々好況ヲ呈シ流網縛網共ニ可ナリノ漁獲アリタリ

福岡縣 玄海方面ノ漁況ハ一般ニ不漁ナリシモノノ如シ内海方面ノ漁況ハ終ニ報告ニ接セス

三島賊 いか

岡山縣 本縣ニ於ケル鳥賊漁具ハ鳥賊建網鳥賊巢曳網鳥賊曳網壺網手釣等ニシテ就中壺網ハ和氣邑久地方ニ主用セラレ鳥賊巢曳網ハ邑久郡虫明、牛窓地方及ヒ水嶋海ニ於テ使用盛ナリ其他ハ一般ニ使用セラルルモノトス漁獲ノ景況ハ中部以西小田、淺口二郡ニ於テ豐漁アリ和氣地方ハ平漁ニシテ獨リ邑久郡地方ノミ

重要生物調査

凶漁ナリキ其凶漁ノ原因ニ就テハ漁者ハ降雨ノ爲メナリト雖トモ對岸ノ小豆嶋ニ於テ夥シキ漁獲アリタルノミナラス沿岸ヲ等シクセル和氣其他ノ地方ニ於テ豊漁又ハ平漁アリタルニ徴スレハ和氣郡地先ヨリ直チニ小豆嶋ヲ衝キ轉シテ兒嶋近海ニ來游シ沿岸ヲ縫フテ西部海面ニ移轉セルモノ、如シ斯ク大体ニ於テ多獲サレシ結果トシテ價格ノ低廉ナリシコト近年稀有ノ事ナリトス

大分縣 けんさきいかハ六月下旬ヨリ豊後水道及ヒ南北海部郡壹圓ニカケ豊漁ニシテ一俵一日千尾内外ノ漁獲アリ二番いかモ七十年來稀有ノ豊漁ニシテ形態モ亦甚ダ大ナリキ夏期ノ漁況如此ナリシ爲メ秋漁ニ至ルマテ非常ノ好況ヲ保テリ

此他ノ府縣ヨリハ報告ナキニヨリ之ヲ知ルコト難シ

四、蝦 及び

岡山縣 本縣ニ於ケル蝦ノ漁場ハ和氣邑久阿郡沖合及ヒ淺口、小田兩郡沖合ヲ主トシ兒嶋地方ハ寧ロ其次位ナリ漁期ハ夏秋ノ二期アリ夏漁ハ六月上旬ヨリ八月下旬マテニシテ秋漁ハ九月上旬ヨリ十一月下旬迄ナリトス漁具ハ打瀬網蝦漕

網ヲ主用ス本年ノ漁況ハ概シテ邑久和氣沖合ニ於テ多獲セラレ備中沖合ハ薄漁ノ傾アリタリ

福岡縣(内海方面) 豊前宇ノ嶋地方ニ於ケル手繰網ニハ一日一艘ニ付平均三斗内外打瀬網ニハ平均二石内外ノ漁獲アリタリ之ヲ平年ニ比スレハ豊漁ナリトス此他ノ府縣ヨリハ報告ニ接セス

五、鰯 鱈、いな、ばら

岡山縣 本縣ニ於ケル鰯ノ漁具ハ投網壺網扇網敷網繰網等ニシテ冬春ノ候盛シニ使用セラル而シテ其漁獲量ノ大半ハ有名ナル寄魚漁業ニヨルモノニシテ兒嶋以東ニ於テ専ラ經營セラル就中最モ好漁場ト目セラルルハ日生、牛窓、日比ノ三ヶ所ナリトス大体ニ於テ鰯ハ相當ニ漁獲セラレタレトモ鱈ハ之ニ反シタルモノノ如シ

福岡縣(内海方面) 豊前柄杓田浦地方ニテハ十二月初漁シ鰯網壹組ニテ壹千尾ヲ漁獲シ代價貳百五拾圓ヲ得、同十日ニハ貳組ニテ壹萬尾ヲ漁獲シ代價壹千五百圓ヲ得タリ此魚群ハ周防灘ヨリ來游セルモノノ如ク觀察セラレ尙大ニ望ヲ屬

重要生物調査

シ居タリシカ其後形勢一變シテ遂ニ凶漁ニ終レリ宇ノ島地方亦之ト大同小異ナ  
リキ田ノ浦地方ニテハ十二月十二日船建網一張ニツキ百餘尾ノ初漁アリタリ之  
ヲ例年ニ比スレハ後ルルコト約二十五日ナリシカコレマタ薄漁ノ儘終リタリ  
此他ノ府縣ヨリハ報告ナシ

六章魚 九二

岡山縣 縣下ニ於ケル章魚ノ漁期ハ六月初旬ヨリ翌年一月下旬ニ至ル間ニ  
シテ産地ハ邑久兒嶋ノ二郡沿海ヲ主トシ和氣、淺口、小田ノ三郡沿海ハ比較的少數  
ナリトス就中兒嶋郡下津井町及ヒ長濱村、邑久郡牛窓町ニ於テハ章魚釣業者非常  
ニ多ク隨テ産額甚々大ナリ左レハ其盛漁ニ際シテハ一艘一日ノ漁獲金高五圓乃  
至七圓ニ至ルコト決シテ珍シカラス今年ハ例年ニ比シ豐漁ノ見込ミアリシモ惡  
疫流行セシ爲メ價格下落シ収入甚々少キヲ以テ中途ヨリ他ニ轉業セシモノ多ク  
結局薄漁同様ノコトナリ終レリ

大分縣 每年初夏ノ候南北兩海部郡深海ノ磯間ヨリ高嶋附近及其沖合ヲ通  
過シ東國東連見二郡ノ沿岸ニ向フヲ常トス然ルニ本年ハ七月初旬ヨリ非常ニ上

リ初メシ爲メ佐賀關附近ニテハ近年ニナキ大漁ニシテ釣船一日一艘ニツキ拾貫  
乃至拾四五貫ヲ捕獲セシカ八月下旬ニ至リ終期ヲ告ケタリ  
此他ノ府縣ヨリハ報告ニ接セザリシヲ以テ之ヲ記スルニ由ナシ

七鯧 いわし

岡山縣 鯧ハ小田郡沖合諸嶋ヲ最トシ邑久郡虫明、兒嶋郡澁川地方之ニ次キ其  
他ノ所ニ於テハ漁獲甚々少ナシ漁具ハ専ラ地曳網ヲ用ヒ來リ沖取網ヲ用フルモ  
ノナシ只時々兒嶋灣ノ樫木ニヨリ漁獲サル、コトアレトモ其額多カラス本年ハ  
春夏期ニ於テハ通常ノ漁獲ナリシカ秋期ニ於テ多獲セラレタリ邑久郡牛窓町ニ  
テハ從來鯧網ヲ使用セシコトナカリシカ秋期非常ノ大群來游セシヲ以テ香川縣  
小豆郡坂手村ヨリ漁具及ヒ漁夫ヲ雇入レ漁業シタルニ十一月三十一日黃嶋前ニ  
於テ夥シキ漁獲ヲ爲シ引續キ數日間大漁アリタリ其種類ハこしな加鯧ニシテ太  
サ三寸四五分ヨリ四寸内外ノモノ多カリキ兒嶋灣口阿津村前ニ於ケル樫木ニヨ  
リ二寸乃至三寸内外ノ脊黑鯧十月三十一日前後ニ於テ數日間漁獲サレタリ小田  
郡沖合諸嶋ニ於テハ五月下旬二寸内外ノモノヲ漁獲シタルヲ初メトシ其後稍々

重要生物調査

成長シテ三寸内外トナリタル時最モ多獲セラレタリ  
 香川縣 本年ノ鯷漁ハ一般ニ不漁ナリ八月二十日頃ヨリ漁獲稍々増加シ九月  
 中旬以後ハ一時中止セシカ十月ニ至リテ舊ニ復シ四日頃ヨリ十四日頃迄ヲ最盛  
 ノ時機トナセリ而シテ地曳網ノ終期ハ十一月下旬ナレトモ巾着網ハ尙冬期沖合  
 ニ集合スルモノヲ漁獲スルノ目的ヲ以テ尙ホ永ク使用シタリ東讃地方坂手附近  
 ニ於テハ八月ニ入りテヨリ風向定マラス雨疊相繼キ天候如何ニモ不良ナリシ爲  
 メ一時漁獲中止ノ有様トナレリ然ルニ十九日ニ至リ風位北西ニ變シ天氣恢復シ  
 タル爲メ漁況通常ニ復シ爾後連日好況ニシテ九月初旬ヨリ漸次漁獲高ヲ増加シ  
 八日ヨリ十五日ニ至ル八日間ノ平均一日ノ漁獲高ハ四拾石ニ達シタリシカ全月  
 十六日ヨリ二十八日ニ至ルマテ十三日間ハ漁獲時々中絶シタル爲メ一日平均約  
 八石ニ減セリ而シテ二十九日ヨリ再ヒ盛漁トナリ一日五十石内外ノ漁獲アリ殊  
 ニ十月五日ヨリ十八日ニ至ルマテ十四日間ハ最モ盛漁ノ時機ニシテ一日平均  
 六十二石強ヲ漁獲セリ然ルニ二十九日ヨリ魚群遠ク沖合ニ逸去シタル爲メ俄カ  
 ニ不漁トナリ爾后少許ノ漁獲アリタルノミニテ遂ニ終漁ニ陥レリ右ハ當縣鯷漁

業ノ中心点タル坂手地方ノ漁況ナルヲ以テ其他東讃地方ニ於ケル概略一般ノ漁  
 況ヲ推定スルヲ得ヘシ小豆嶋附近ニテ使用スル鯷地曳網ハ總計五十九張ニシテ  
 通シテ豐漁ナリシタメ當地方漁民ハ何レモ百年目ノ好漁ナリト喜ヒ縣立水産試  
 験場ノ改良揚線網ヲ至急借用シタシト申込ミタル者二三名モアリタル程ナリ西  
 讃地方ハ一般ニ不漁ニシテ伊吹島附近ニ於テハ八月ニ入りテ以來天候不良ナリ  
 シ爲メ漁獲皆無ナリシカ二十日ヨリ二十二日迄ノ三日間ハ一日平均八十三石ノ  
 漁獲アリタリ尙引キ續キ大漁アル見込ナリシカ同地虎疫猖獗ヲ極メタルカ故チ  
 以テ二十三日ヨリ一時漁業ヲ中止セラレ空シク此絶好時機ヲ失シテ漁民大ニコ  
 レニ苦メリ而シテ九月一日其令ヲ解カレタル際ニハ魚群ノ最モ濃厚ナルモノハ  
 遠ク沿岸ヲ去リタル後ニテ只僅カニ其殘泳セルモノヲ漁撈スルノ外ナキニ至レ  
 リ故ニ同月四日發干鯷五百俵六日千五百俵九日千五百五拾俵ノ製品原料ヲ漁獲  
 シ十月九日十一日三十日ノ三日間一日平均四拾四石強ノ小漁アリタルノミニテ  
 一般大不漁ニ陥レリ然ルニ十一月ニ至リテ漁況稍々恢復シ日々平均發干鯷六十  
 五俵製品原料ヲ漁獲シタルヲ以テ漸ク愁眉ヲ開クコトヲ得タリ大濱附近ハ例年

重要生物調査

ニ比シ不漁ナリ八九月中ニ多少ノ漁獲アリ更ニ十月五日ヨリ十四日迄十日間平均  
一日ノ漁獲高二拾四五石ニ達シタルコトアルノミニテ爾來抄々シキコトナクシ  
テ終レリ

六十六

山口縣 大羽鯷ハ四月十五日周防灘佐波郡沿海ニ於テ使用セル俣網(刺網ノ一  
種)ヲ以テ捕獲セルヲ初漁トス其壹尾ノ重量平均拾七八匁ナリキ尋テ五月十五日同  
漁場ニ於テ三味線網ニテ少許ノ漁獲アリ十一月十六日ニハ背黒鯷ニ大羽ノ混シ  
タル群ヲ中ノ關西泊沖ニ於テ巾着網ニヨリテ捕獲セリ爾後引續キ俣網三味線網  
等ニテ少許ノ漁獲アリタリ實業家ノ言ニヨレハ大羽ハ毎年豊後水道ヨリ周防灘  
ニ入り九州沿海ニ近ク西游シテ關門海峡ノ近海ニ到リ更ニ轉シテ防長沿海ニ沿  
フテ來游シ再ヒ豊後水道ヨリ外海ニ出ツルモノ、如シ而シテ此來游ハ全ク産卵  
ノ爲メニシテ佐波郡沖合ニ於テハ八拾八夜前後凡ソ十五日間位漁獲アルモ年ニ  
ヨリ滯泳僅カニ十日間位ニシテ去ルコトアリト云フ背黒鯷モマタ此時期ニ來游  
シ陰曆四月頃ニ於テ産卵ス大羽ハ之ヨリ稍々遅ル、モノトス本年ハ氣候例年ニ  
比シ退冷スルコト遅カリシヲ以テ漁期大ニ後レ且荒天多クシテ終ニ不漁ニ終レ

リ大敷網ノ如キモ漁獲甚々僅少ナリシト云フ

大分縣 しらすハ南海部郡ニ於テ多少ノ漁獲アリタルノミ小鯷ハ大分灣ヨリ北  
海部郡佐伯灣ニ至ル間ノ沿岸ニ於テ五月中旬頃ヨリ日々少許ノ漁獲アリ爾來沖  
合ニ多少ノ群集ヲ見ルノミニテ一般不漁ニ終レリ大羽鯷ハ佐賀關ヨリ南海部郡  
蒲戸崎沿岸ニカケ五月十日前後ノ頃些少ノ漁獲アリタルヲ初漁トシ引續キ日々  
相應ノ漁獲アリシカ七月ニ入りテヨリ南海部ノ諸島嶼近海ニ大群ヲナシテ來  
游シタルニヨリ俣受網地曳網刺網其他何レモ非常ノ豐漁ナナセリ  
福岡縣 玄海方面一帶頗ル不漁ナリシモノノ如シ内海方面ニ於テハ豊前田ノ  
浦地方ノ如キハ十月下旬マテ相當漁獲アリシカ十二月上旬ニ至リ全ク終期トナ  
レリ然ルニ京都郡刈田地方ニ在リテハ十二月中旬頃數日間引續キ沿岸ニ打寄タ  
ル鯷ヲ數升乃至數斗抄ヒ揚ケタルモノアリシト云フ同地ハ古來鯷漁具ナキ土地  
ナルヲ以テ魚群游泳ノ模様ハ之ヲ詳カニ知ルコト能ハサレトモ其海岸ニ夥シク  
打寄タル事實ニ徴スレハ近海ニ來游セルモノノ例年ヨリ多カリシコトハ斷言シ  
得ヘキナリ

重要生物調査

六十七

徳嶋縣

初期不漁ノ報告ニ接セシノミナルヲ以テ別ニ記スヘキコトナシ

釣餌料調査

釣漁者ニ於テ最モ必要ナルハ餌料ニシテ將來漁場ノ擴張ニ伴ヒ益々然ルヘキヤ必セリ然ルニ縣下多數ノ漁者カ餌料ヲ使用スルヤ方法區々ニシテ其孰レカ是ナルカヲ知ラス且何等ノ原因アリテ然ルカ將又蓄藏ノ方法ハ如何ニスヘキ等其調査研究ハ最モ刻下ノ急務タルニヨリ本年度ニ於テハ其第一着手トシテ現在餌料ノ種類及使用法ノ大休ニツキ調査シタリ尙其源山スル所及ヒ最モ得易クシテ功果ノ大ナル種類ノ撰擇方法ノ研究等ハ後來繼續實施スル筈ナリ今左ニ釣漁業トシテ主ナル漁村ニツキ調査シタルモノヲ綜合シテ斯業者ノ參考ニ供セシ

た い	漁獲物	
	漁具	餌料
延繩	手釣	シロエビ、モエビ、ヒゲナガエビ、ガラエビ、オウツウエビ、イカナゴ、マムシ、メイカノ活餌又ハ生餌、イヒタコ、モタコ、イカ、生肉ノ切片
	手釣	シロシヤコ、イカナゴ、ギアウムシ、タケドウムシ、メイカ、チコベカノ活餌又ハ生餌、タコ、イヒタコ、テナガタコ、イハイカ、シラゲ、生肉ノ切片

こ ち	漁獲物	
	漁具	餌料
延繩	手釣	ビセンエビ、アカエビ、ハカマエビ、サイマキエビ、ガラエビ、モエビ、ヒゲナガエビ、チウツウエビ、シロエビ、クロエビ、ウナドリエビノ活餌又ハ生餌
	手釣	イカナゴ生肉
ち ぬ	手釣	モエビ、アカエビ、ハジキエビ、ハカマエビ、オウツウエビ、ヒゲナガエビ、ガラエビ、シロエビ、異人虫、マムシ、チロリムシ、ギアウムシ、小蟹ノ活餌
	手釣	カキ生肉ノ切片
す す き	手釣	カタエビ、アカエビ、マエビ、オウツウエビ、モエビ、ガラエビ、ヒゲナガエビ、サツバ、イカナゴ、マムシノ活餌
	手釣	ムツエビ、モエビ、ガラエビ、イカナゴ、シラサエビ、マムシ、ヒールノ活餌又ハ生餌、メバル生肉ノ切片
め ば る	手釣	ヒカタエビ、アカエビ、ビセンエビ、シロエビ、シラサエビ、ヒゲナガエビ、マムシノ活餌
	手釣	アサリ貝ノ生餌、イヒタコ、アナゴノ生肉ノ切片、シビラノ球根
あ こ う	手釣	
	手釣	
い ひ た こ	手釣	
	手釣	
た こ	手釣	ドジョウ、カニノ活餌、ノウソブカ、イサバブカ、イカ、タコ、アナゴ生肉ノ切片
	手釣	

釣餌料調査

はも	延縄	テナガダコ、イカ、タコ、アジ、サバノ生肉切片、但シアジ、サバハ稚魚
ししもち	手釣	ビセシエビノ活餌又ハ生餌、サツバ、イワシ、イカ、タコ生肉ノ切片
はせ	手釣	アカエビ、シロエビ、シラサエビ、ハジキエビノ活餌
ひら	延縄	アカエビ、チロリムシ、コガレムシ、マムシ、ギヅウムシノ活餌又ハ生餌
さより	延縄	シラサエビ、イカナゴ活餌
いにか	手釣	ゴウナ貝ノ生肉
にべ	手釣	ツナシ、イワシ、サツバノ生餌又ハ鹽漬モノ
くち	手釣	クルマエビノ鬼、活餌
大口かれ	延縄	シロシヤコノ活餌又ハ生餌、アサリ貝肉
石かれい	延縄	ドジョウ、キス仔ノ活餌又生餌、アサリ貝肉
あなご	延縄	シロエビ、マムシノ活餌
	延縄	イカナゴ生餌、イワシ、サツバノ鹽漬肉ノ切片

あまてか	延縄	ニシ生肉ノ切片、但シ主トシテ空釣ニシテ餌ヲ用フルコト甚タ罕ナリ
なごやふ	延縄	マムシノ活餌、アサリ貝肉
くす	手釣	シロエビノ活餌、大タコ、イカ生肉ノ切片
さす	手釣	シロエビ、マムシノ活餌
べら	手釣	シロエビ、コガレムシノ活餌

海洋観測

魚類ノ去來集散ハ山來漁夫ノ經驗ト漁況ノ如何トニ因リ之ヲ知ルノ外ナク隨ツテ其原因ニ至リテモ徒ラニ臆測ニ止マリ未ダ曾テ根本的説明ヲ與フルニ由ナシ蓋シ此種ノ事タル頗ル困難ノ業ニ屬シ到底器械ト學理ノ力ヲ藉ルニアラサレハ之ヲ能クセサルモノナリ之ヲ以テ農商務省ノ指定ニ基ツキ水産局及ヒ各府縣水産試験場水産講習所ト連絡シテ九月以降縣下邑久那郡牛窓町宇黒嶋沖及ヒ兒嶋郡長濱村宇大島沖ニテ海洋観測ヲ開始シ四季定次観測及ヒ月次観測ヲ爲セリ四季定次観測ハ毎年二五八十一月ノ第一日ニ於テ日出後日没前午後二時ノ三回之ヲ



行ヒ月次観測ハ毎月十一、二十一日ニ於テ各午後二時一回トシ共ニ天候、風向、風力、氣温、水温、比重、水色、清濁、潮水、満十等ヲ観測シ併セテ去來集散ノ模様及ヒ漁況等ヲ調査シ其都度農商務省及ヒ關係府縣ノ試験場講習所ニ報告セリ而シテ冬季鱸漁業期中該漁業ト氣象地文ノ關係ヲ調査セシメ爲メ邑久郡牛窓町ニ於テハ三十六年二月二日ヨリ同月二十日マテ兒嶋郡大島村ニ於テハ同月一日ヨリ二十八日マテ共ニ其寄魚漁場内ニ於テ日次観測ヲナシタリ以上三種ノ観測ハ更ニ關係府縣場所ノ観測表ト對照スルハ最モ有利有益ナルヲ以テ別紙一覽表ニ調製シテ一般ノ參者ニ供スルコトトセリ蓋シ此等ノ観測ハ如上ノ關係ヲ知悉スルニ於テ最モ必要ナルノミナラス之ヲ別項重要生物調査ト對照シテ魚道ノ關係ヲ知り更ニ此附屬タル浮游生物調査ニヨリテ産卵發生ノ景況及ヒ稚仔生育ノ順序ヲモ併知スルヲ得ルヲ以テ年月ヲ累スルニ從ヒ一般漁業界ニ貢獻スルコトノ多大ナルヘキハ期シテ待ツヘキナリ只本年度ハ器械不備ノ爲メ浮游生物調査ヲ缺キシヲ遺憾トス

重要魚類販賣調査

魚價ノ高低ハ漁業消長ノ主因タルヲ以テ之ヲ精査査定シテ深ク其源因スル所ヲ

定メ尙ホ進メテ漁業者ト問屋トノ關係市場集散ノ關係供給地ト需用地トノ關係荷造販賣ノ方法等ヲ研究セシメ爲メ本年度ヨリ本調査ヲ開始シタリ而シテ本年度ハ順序上沿海樞要ノ地ニ於ケル重要魚類價格ノ高低ヲ毎月一回以上調査シタリ然ルニ各地何レモ賣買ノ方法ヲ異ニシ其數量ノ如キモ或ハ貫ヲ以テスル所アリ或ハ升ヲ以テスル所アリ甚シキハ目分量ヲ以テスル所アリ且其品質ノ如キモ場所下期節トニヨリ盡ク一様ナラス隨ツテ精確ナル對照調査ヲナスコト甚々困難ナルヲ以テ本場ニテハ其最モ廣ク行ハル、慣習ヲ採リ之ニ反スルモノハ悉ク之ヲ換算シテ漸ク其大要ヲ知ルコトヲ得タリ其結果ハ一般對照ノ便ヲ圖リ表トナシテ之ヲ卷末ニ附セリ又スルニ本表ハ之カ調査ヲナスニ當リテ前記ノ困難アリシヲ以テ實ニ其大体ヲ知ルニ止マリ其精細ニ至リテハ將來回ヲ累スルニヨリテ得ラルヘキヲ期ス

産卵期調査

社會ノ進運ニ伴ヒ水族ノ需用日一日其多キヲ觀ル然リ而シテ内海漁業者ノ増加ハ内海ニ於ケル水族ノ減耗ヲ意味スル所以ニシテ漁民ノ夥シキ本縣ノ如キハ其

重要魚類販賣調査 産卵期調査



産卵期調査

月日	産地	性	赤めばる		生殖器ノ有様
			長	高	
明治卅六年一月十六日	寄島沖	♂	一九、〇	六、〇	成熟期ニ達シ眠点ヲ有セルモノニ割強
全	全	♂	二〇、〇	六、二	卵ハ淡黄色ヲ呈シ眠点ヲ有マルモノナク一般ニ未熟ナリ
全	全	♂	二〇、〇	八、〇	孕卵成熟ニ達シ眠点ヲ有シ形態完備セルモノ大半ヲ占ム
全	全	♂	一八、五	六、〇	上
全	全	♂	一九、〇	六、七	茶褐色ナル小形ニシテ發達セス其性判然ナラス
全	全	♂	一八、四	九、〇	淡紅白色ヲ呈シ孕卵ノ大數ハ何レモ眠点ヲ有シ放産間近カ
全	全	♂	一八、〇	八、七	上
全	全	♂	一八、〇	八、五	上
全	全	♂	一七、八	八、三	上

月日	産地	性	黒めばる		生殖器ノ有様
			長	高	
明治卅六年一月十六日	寄島沖	♂	三〇、九	七、六	大イニ萎縮セリ多分産卵後ナラン
全	全	♂	三〇、二	八、〇	上
全	全	♂	三〇、〇	七、二	生殖物發達セス不分明ナリ
全	全	♂	三〇、〇	八、五	上
全	全	♂	三〇、〇	七、〇	不完全ニシテ不明ナリ
全	全	♂	三〇、〇	八、〇	茶褐色ヲ呈シ生長セス多分雄性ナラン
全	全	♂	三〇、〇	八、〇	上
全	全	♂	三〇、〇	八、三	上
全	全	♂	三〇、〇	八、五	上
全	全	♂	三〇、〇	六、六	大イニ萎縮セリ小數ノ卵細胞ヲ認ム
全	全	♂	三〇、〇	六、〇	藍色ヲ帯ヒ極メテ小形ニシテ發育セス不明ナリ





産卵期調査

月日	産地	性	長さ(セ、メ)	高さ	生殖腺の有様
明治卅六年二月十五日	寄島沖	♂	一三〇	二七	上
全	全	♂	一三〇	二七	上
全	全	♂	一三〇	二七	上
全	全	♂	一三〇	二七	上
明治卅六年三月十七日	下津井	♀	一八〇	四六	上
全	全	♀	一八〇	四六	上
全	全	♀	一八〇	四六	上
全	全	♀	一八〇	四六	上
全	全	♀	一八〇	四六	上
全	全	♀	一八〇	四六	上
全	全	♀	一八〇	四六	上
全	全	♀	一八〇	四六	上

月日	産地	性	長さ(セ、メ)	高さ	生殖腺の有様
明治卅六年一月十七日	寄島沖	♂	八八	四五	上
全	全	♂	八八	四五	上
全	全	♂	八八	四五	上
全	全	♂	八八	四五	上
全	全	♂	八八	四五	上
明治卅六年二月十五日	全	♀	九〇	五〇	上
全	全	♀	九〇	五〇	上
全	全	♀	九〇	五〇	上
全	全	♀	九〇	五〇	上
全	全	♀	九〇	五〇	上
全	全	♀	九〇	五〇	上
全	全	♀	九〇	五〇	上
全	全	♀	九〇	五〇	上
明治卅六年三月十五日	下津井	♂	一三〇	二七	上
全	全	♂	一三〇	二七	上
全	全	♂	一三〇	二七	上
全	全	♂	一三〇	二七	上
全	全	♂	一三〇	二七	上
全	全	♂	一三〇	二七	上
全	全	♂	一三〇	二七	上
全	全	♂	一三〇	二七	上

産卵期調査

月日	産地	性別	黒鯛ちぬ		生殖腺の有様
			長さ(セ、メ)	高さ	
明治卅六年二月十七日	下津井	♂	三〇、五	二〇、〇	淡紅色ヲ帶ヒ生殖器ハ未タ發達セス卵細胞ヲ認ム
明治卅六年三月十七日	全	♂	三〇、〇	二〇、〇	全上
全	全	♂	二六、五	一九、〇	全上
全	全	♂	二四、五	一七、〇	生殖器極メテ小ナリ
全	全	♂	二八、〇	一九、〇	發育可ナリニシテ一部精ノ活動ヲ認ム
全	全	♂	二五、〇	一七、〇	發育宜シカラス少數ノ大卵ヲ見ルノ外他ハ小卵ノミ
全	全	♂	二五、〇	一〇、五	全上

めなだ(方言朱口魚)

月日	産地	性別	すゞき		生殖腺の有様
			長さ(セ、メ)	高さ	
明治卅六年二月十七日	下津井	♂	四三、〇	三〇、〇	發育充分ナラス精ハ些少活動セリ
全	全	♂	三八、五	三〇、〇	發育惡シカラス卵總テ未熟ナリ
全	全	♂	三六、〇	三〇、〇	全上
全	全	♂	三三、八	二七、五	前ヨリ能ク發育シク卵細胞總テ大ナリ
全	全	♂	三三、〇	二七、五	發育至テ惡シク不明ナリ
全	全	♂	三三、〇	二七、五	發育惡シク母細胞ヲ認ム
全	全	♂	三三、〇	二七、五	全上
全	全	♂	三三、〇	二七、五	全上
全	全	♂	三三、〇	二七、五	發育不充分ニシテ不明ナリ
全	全	♂	三三、〇	二七、五	淡紅色ヲ帶ヒ小卵ヲ見ル
全	全	♂	三三、〇	二七、五	全上
全	全	♂	三三、〇	二七、五	白色ヲ呈シ發育セス
全	全	♂	三三、〇	二七、五	全上
全	全	♂	三三、〇	二七、五	全上

月日	産地	性	長さ(セ、メ)	高さ	生殖腺の有様
明治卅六年一月十七日	寄島沖	♀	四四、六	九、〇	淡紅色ヲ呈シ發達セス總テ不完全ナリ
明治卅六年二月十六日	全	♀	四七、五	一〇、三	上
明治卅六年三月十六日	全	♀	四四、八	九、八	淡黄色ヲ呈シ發育完全ナラス小卵ノ多數ヲ認ム
明治卅六年三月十六日	下津井	♀	四五、〇	一〇、〇	上
明治卅六年三月十六日	全	♀	四五、〇	九、〇	發育極メテ悪シク其性不明瞭ナリ
明治卅六年三月十六日	全	♀	四四、〇	九、九	上
明治卅六年三月十六日	全	♀	四四、〇	九、九	上
明治卅六年三月十六日	寄島沖	♀	四五、五	九、〇	卵囊稍々萎縮シ胎仔ハ悉ク發育セリ蓋シ放卵中ナラン
明治卅六年三月十六日	全	♀	四五、〇	九、〇	上
明治卅六年三月十六日	全	♀	三五、二	九、〇	上
明治卅六年三月十六日	全	♀	三三、〇	七、五	暗黄色ヲ呈シ極メテ發達セス不明ナリ

月日	産地	性	長さ(セ、メ)	高さ	生殖腺の有様
明治卅六年二月十六日	全	♀	二二、五	七、〇	全上
明治卅六年二月十六日	牛窓沖	♀	二二、〇	九、〇	胎仔能ク發達シ卵囊稍々萎縮セルカ如シ多分放卵盛期ヲ終ルヘンモノナラン
明治卅六年二月十六日	全	♀	二〇、〇	七、六	胎仔何レモ眠点ヲ有ス放産間近ナラン
明治卅六年二月十六日	全	♀	二〇、〇	七、五	全上
明治卅六年二月十六日	全	♀	二〇、〇	七、五	胎仔ハ充分發達セリ左レド卵巢内僅カチ存スルノミ
明治卅六年二月十六日	全	♀	二〇、〇	七、〇	卵巢大イニ萎縮セリ放産后ナラン
明治卅六年二月十六日	全	♀	二〇、〇	七、三	發育不完全ニシテ不明ナリ
明治卅六年二月十六日	全	♀	二〇、〇	七、二	全上
明治卅六年二月十六日	全	♀	二〇、〇	七、八	全上
明治卅六年二月十六日	全	♀	二〇、〇	九、〇	成熟充分ナリ蓋シ放産間近ナラン
明治卅六年二月十六日	全	♀	二〇、〇	七、五	放産後ニシテ卵囊大イニ萎縮セリ
明治卅六年二月十六日	全	♀	二〇、〇	九、〇	全上
明治卅六年二月十五日	寄島沖	♀	二二、五	二、五	不完全ニシテ其性判然ナラス蓋シ産卵期ニアラサルナラン
明治卅六年二月十五日	全	♀	二二、〇	二、七	全上
明治卅六年二月十五日	全	♀	二二、〇	二、三	全上

産卵期調査



産卵期調査

月日	産地	性	長さ(セ、メ)	高さ	生殖腺の有様
明治卅六年二月十六日	寄嶋沖	古	三三〇		米粒大ニ達シ殆ント成熟期ニ近ケリ
全	全	古	三三〇		全上
全	全	古	三三〇		全上
明治卅六年三月十六日	下津井	古	六三〇		全上
全	全	古	五六〇		全上
全	全	古	五八〇		全上
全	全	古	五六〇		全上
全	全	古	五八〇		全上
全	全	古	五七〇		全上
全	全	古	六〇〇		全上
全	全	古	六〇〇		全上
全	全	古	六三〇		全上
全	全	古	六三〇		全上

八十九

明治卅六年三月十六日	下津井	古	五五〇		全上
全	全	古	五五〇		全上
全	全	古	二二五		全上
全	全	古	二二五		全上
全	全	古	二二五		全上
全	全	古	二二五		全上
全	全	古	二二五		全上
全	全	古	二二五		全上
全	全	古	二二五		全上
全	全	古	二二五		全上
全	全	古	二二五		全上
全	全	古	二二五		全上
全	全	古	二二五		全上
全	全	古	二二五		全上
全	全	古	二二五		全上
全	全	古	二二五		全上
全	全	古	二二五		全上
全	全	古	二二五		全上
全	全	古	二二五		全上
全	全	古	二二五		全上
全	全	古	二二五		全上
全	全	古	二二五		全上

てなかれた

八十八

全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全			
全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全			
♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂			
三三〇	三〇〇	二五〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇			
全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全			
發育惡敗精ノ活動遅緩ナリ	大イニ暴縮セリ放産後ナラン	全上	全上	成熟ニ達シ放産間際ナリ	全上	成熟ニ達シ放産中ナリ	卵嚢内尙ホ枝状様ノ血管ヲ存シ卵粒小サク總テ未熟ナリ	全上	生殖器ノ發育著シク放産期ニ達シ居レリ	全上	全上	全上	成熟ニ達シ粒々和分離セリ	全上	全上	頗ル發達シテ精又活潑ナリ	未ダ成熟時代ニ達セス卵形小ナリ

全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全			
全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全			
♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂			
三三〇	三〇〇	二五〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇			
全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全			
發育惡敗精ノ活動遅緩ナリ	大イニ暴縮セリ放産後ナラン	全上	全上	成熟ニ達シ放産間際ナリ	全上	成熟ニ達シ放産中ナリ	卵嚢内尙ホ枝状様ノ血管ヲ存シ卵粒小サク總テ未熟ナリ	全上	生殖器ノ發育著シク放産期ニ達シ居レリ	全上	全上	全上	成熟ニ達シ粒々和分離セリ	全上	全上	頗ル發達シテ精又活潑ナリ	未ダ成熟時代ニ達セス卵形小ナリ

八、特別調査

特別調査トハ本場豫定ノ業務施設以外ノ調査ニシテ即チ管督官廳ノ命令其他ニ

ヨリ特別ノ調査ヲ爲シ其都度之ヲ進達シタルモノナリ以下簡單ニ其事項及ヒ要  
点ヲ記ス

鹽業調査

晚近外國鹽ノ輸入漸次増加シ勢ヒ内海鹽業ニ拮抗シ競争ヲ試ミルニ及ヒ内鹽ノ  
改良ヲ促進スルハ當今ノ急務ナルニヨリ全國主要ナル濱所ノ生産及ヒ販賣ニ關  
シ鹽田作業上ノ得失品質ノ良否市場運搬ノ方法價格ノ昂低等相互對照比較シ以  
テ斯業改良獎勵上ノ參考ニ供スルノ目的ヲ以テ調査方ヲ主務大臣ヨリ命令アリ  
縣ハ更ニ三十五年六月六日付ヲ以テ之ヲ本場ニ移シ速カニ精査進達スヘキ旨ヲ  
以テセラレタリ爾來本場ハ銳意精勵シテ之レカ調査ニ從事シタルモ由來幾多ノ  
變遷ヲ經テ今日ニ到リタルモノナレハ其復雜ナルコト頗ル甚ク漸ク同年十  
一月二十五日ニ至リ其一切ヲ完了シテ進達スルコトヲ得タリ而シテ其調査ノ事  
項ヲ舉グレハ左ノ如シ

一 各濱鹽業調査

鹽田(反別地價一反步當地價)

製鹽場(反別、地價、一反步當地價)

製鹽釜數(鐵釜、石釜)

鹽田所有主ノ數

鹽業者ノ數(自作、小作)

製鹽總產額

同總價額

同壹石平均價額

石炭消費數量

同價額

同竈數

薪材消費數量

同價額

同竈數

附

鹽業調査

鹽田等別上中下等ニ對スル製鹽場ノ數、鹽業者ノ數、一製鹽場ニ屬スル平均  
鹽田反別同上小作料同上賣買價格ノ各別  
小作契約ノ方法

入濱揚潑ノ別其他參考上必要ト認ムヘキ事項

一 鹽業生產費調査

其 壹

鹽田(面積地價採鹹場坪數沼井箇數及ヒ坪數溝渠坪數)

製鹽場(面積地價)

同建物(坪數見積價格)

作業資本額(總額固定資本、流通資本)

採鹹日數

採鹹水量(總額鹹水比重最高最低、一日平均採鹹水量)

煎蒸日數

煎蒸鹹水量(總額前年ヨリ繰越鹹水、本年分鹹水)

煎蒸回數(總額一釜鹹水量)

製鹽高(石數俵數)

製鹽一石ニ對スル鹹水量

副產物(種類價格)

備考

採鹹法、煎蒸法其他參考上必要ト認ムヘキ事項

其 貳

公費負擔(總額地租其他公費組合費)

小作料

作業資本金子

採鹹費(總額、人夫賃、濱人賃、人員小日備、其他諸費、器具費、鹽田修繕費、雜費)

煎蒸費(總額、燃料費、石炭費、薪其他、人夫賃、人員其他諸費、釜立及釜竈修

繕費、器具費、建物修繕費、雜費)

荷造費

鹽業調査

合計 (総額 鹹水一石ノ採鹹費製鹽一石ニ對スル燃料ノ數量製鹽一石ニ對スル煎熬費製鹽一石ノ生産費製鹽一石ノ元價)

備考 石炭ノ種類其他參考上必要ト認ムヘキ事項

右ハ其一其ニトモ上等鹽田中等鹽田下等鹽田ノ各等ニツキ一戸前ニ對スル分ヲ明治二十七年ヨリ明治三十四年ニ至ル八ヶ年別ニ調査シ更ニ其平均ヲ精査シタリ

附 屬

鹽田修繕費明細

鹽田修繕ニ要スル一切ノ物品其他ニ關シ各數量單價金員保存年限一ヶ年ニ割當タル價格

器具費明細

採鹹用器具

煎熬器具  
右二項ニ分チ之ニ要スル一切ノ物品ニツキ各員數單價金員保存年限一ヶ年ニ割當タル價格其他

年ニ割當タル價格其他

釜竈築造費明細

鐵釜或ハ石釜築造ニ要スル原料及器具ニ關シ各員數單價金員保存年限一ヶ年ニ割當タル價格其他

人夫明細

採鹹人夫

煎熬人夫

右二項ニ分チ人夫種類各別ニツキ員數使用日數給與額(金額、物品見積價格)一日ニ割當テタル給金其他

荷造費明細

荷造ニ要スル原料ノ總テニツキ各員數單價金額其他

小作契約法

各種小作契約ノ方法

右ハ生産費調査ノ附屬トシテ明治三十四年度ニ於ケル各一戸前ニツキ調査

鹽業調査

セル事項ナリ

一各濱製鹽販賣調査

食鹽濱相庭

三十四年ニ於ケル一月ヨリ十二月ニ至ル毎月間及ヒ同年中ノ平均并ニ二  
十七年ヨリ三十三年ニ至ル各年次ノ最高最低平均相場其他

輸出鹽仕向地別量價

三十二年ヨリ三十四年ニ至ル毎年次ノ仕向地及ヒ仕送方法ニツキ數量及  
ヒ價額其他

輸出鹽仕向地別俵裝及運送方法(一俵當)

三十四年ニ於ケル仕向地銘柄種類俵裝公稱容量増目重量價格運送法運賃  
積込費其他

以上三種ノ調査事項中各濱製鹽調査ハ汎ク縣下全般ノ大小新舊各鹽田ニツキ一  
々之ヲ調査シ生産費調査及ヒ各濱製鹽販賣調査ハ特ニ兒島郡味野赤崎ニ於ケル  
元野崎濱淺口郡寄崎町中新開濱ノ二ヶ所ヲ限リ精密ナル調査ヲ遂ケタリ而シテ

各濱製鹽調査ニヨル大体ノ統計ヲ記スレハ左ノ如シ

鹽田總反別 四百參拾四町七反七步

同 地價 貳拾貳萬八千五拾四圓貳拾壹錢

製鹽場總反別 貳拾五町四反九畝六步

同 地價 八千參百六拾貳圓六拾參錢壹厘

製鹽釜數 貳百八拾參個

内

鐵釜百四拾八個 石釜百參拾五個

鹽田所有主ノ數 四百六拾參人

製業者數 七百參拾九人

内

自作貳百參拾六人 小作五百參人

製鹽總產額 五拾參萬五千六百七拾石壹斗八合

同 價額 五拾八萬壹千五百五拾壹圓七拾壹錢參厘

製鹽調査

同壹石平均價額 壹圓八錢四厘九毛強  
 石炭消費數量 九千四百四萬七千五百參拾七斤  
 同 價額 拾八萬八千五百貳拾七圓四錢參厘  
 同 竈數 貳百七拾五個

内

鐵釜百四拾八個 石釜百貳拾七個  
 薪材消費數量 四萬束(松葉)  
 同 價額 壹千四百圓  
 同 竈數 八個(皆石釜)

一釜ニ對スル鹽田反別平均 壹町五反參畝拾八步

而シテ本調査ヲ爲スニ當リ兒嶋郡ニ於テハ野崎武吉郎氏淺口郡ニ於テハ仁科亭作仁科克己兩氏ノ非常ナル厚意ヲ得テ漸ク之ヲ完了スルコトヲ得タルハ誠ニ感謝ニ堪ヘサル所ナリ

しらうを調査

明治三拾五年八月本縣令第七拾貳號ヲ以テ發布セラレタル漁業取締規則第拾條ヲ以テしらうを漁期十一月五日ヨリ三月二十五日マテトシ其他ノ時期ヲ禁セラレタルニ對シ關係町村漁業者ヨリ續々漁期伸張ノ請願アルニヨリ實地ニツキ精細ナル調査ヲ遂ケ意見ヲ附シテ進達スヘク命令アリタルヲ以テ養殖主任技手岩城榮太郎ヲシテ遍テク關係町村ヲ巡回調査セシメ更ニ之ヲ生物學上ヨリ觀察シテ詳細ナル意見ヲ附シ其請願ノ採ルニ足ラサルモノナルコトヲ上申シタリ今其實況及ヒ意見ノ一節ヲ摘記シテ一般ノ參考ニ供セン

〔前略〕本縣ニ於ケルしらうを禁令ノ目的ニニアリ一ハ其生長ヲ保護シテ漁者ノ收益ヲ多大ナラシメント欲スルモノニシテ一ハ其産卵ノ末期若干日ヲ保護シテ永遠ニ其種ノ滅絶ヲ防止スルニ在ルナリ而シテ別紙調査書(調査書ハ畧ス)ノ示ス如ク本魚ノ生長順序タルヤ十二月ニ至リテ稍々壯成ニ近ツキ一月ニ入りテ全ク完備スルモノナリ隨テ其風味ノ如キモ一月ニ入りテ初メテ賞スルニ足ルニ至ルモノタルヲ論テ俟タス既ニ其体ノ完備スルナク風味ノ賞スヘキナクハ孰ソシ能ク價格ヲ上進シ收益ヲ多大ナラシムルヲ得ンヤ而カモ一月以前ニ於テハ体小

しらうを調査

ニシテ稚弱價格亦隨テ廉ナリ即チ十二月以前ニ於ケルモノ壹升ハ一月以後ニ於テハ優ニ貳升トナリ價格亦殆ント之ニ倍蕪スルモノナルヲ以テ十二月ニ於ケル壹圓ノ收入ハ一月以後ニ於テハ四圓ノ多キ額トナリテ漁者ノ手ニ収メラルヘキ割合ナリ故ニ其生長ヲ保護スル点ニ於テ請願ノ不當ナルヲ知ル可シ然リ而シテ魚類ノ成長ハ主トシテ期節ニ伴フモノナルヲ以テ保護禁令ノ如キモ力メテ期節ニ準據スルノ至當ナルヨリシテ小寒即チ一月五日ヲ以テ解禁期トセラレタルモノナルヲ信ス漁者ノ言ノ如ク此小寒ノ頃ニ於テハ或ハ寒隠レト稱シテ一時沖合ニ去ルコトアリト雖トモコハ氣界ノ寒度カ水界ニ及ホシタル爲メ其魚本年ノ習性トシテ深淺移轉ヲ爲スモノニシテ決シテ怪ムニ足ラス若シ沖合ニ逃避シタルママ遠ニ歸來スルノ期ナクシテ大ニ憂フ可シト雖トモ是亦本魚ノ特性タル歸原性ニヨリ必ラス体延ヒ肉肥エテ發生地ニ歸リ來ルモノナリ斯ク去來シテ違フコトナキハ獨リ動物學上ノ觀察ノミニ止マラス漁者ノ年々實驗シテ夙ニ知了セル所ナリ而シテ其寒隠レセザル以前ニ於テハ体軀瘦小ニシテ肉質風味共ニ些ノ値ナキモノナレトモ一度小寒ヲ過キ節分ノ頃トモナレハ殆ント其觀ヲ異ニシ長身肥

大往々孕卵セルモノステアルナリ左レハ舊藩時代ハ節分前十日以後即チ一月二十五日ヲ過クルニアラサレハ捕獲スルコトヲ許サザリシモノ全ク如上ノ關係ヲ查察シテ設ケタル制度ニ外ナラサル可シ然ルニ維新後漁業上ノ制度廢セラルルニ及ヒ競漁爭撈酷捕濫獲ヲ擅マ、ニシ漁具ノ如キモ殆ント蚊帳地ノ如キ織物ヲ使用スルニ至リ其害ノ及フ所之ヲ滅絶スルニアラサレハ已マサルノ有様トハナレリ此間ニ處シテ保護ノ方法ヲ研究スルハ最モ機宜ニ適シタル行爲ニシテ現禁令ノ如キ寧ロ緩ナルノ嫌アルモ決シテ嚴ナルモノアルヲ見サルナリ生長保護ノ要及現禁令ノ至當ナルコト前述ノ如シ然ラバ末期ノ禁漁期日ハ如何是亦決シテ一日モ延ハスコト能ハサルモノナルヲ信ス何トナレハ産卵ノ盛期ハ二月下旬ヨリ四月中旬迄ナルヲ以テ其最盛期ハ尙漁業ノ最旺期ナリ左レハ其産卵ノ末期約二三週間ヲ保護スルコトハ最モ必要ノ事タレハナリ(後略)

重要輸出品調査

農商務省ニ於ケル第三次貿易要覽編纂ノ材料トシテ重要輸出品ニ對シ精密ナル調査ヲ遂ケ更ニ營業者ノ意見ヲ徵シテ回報スヘキ旨ノ照會アリタルヲ以テ六月

重要輸出品調査



以降技師樋口邦彦主任トシテ專ハラ之レカ調査ニ從事シ十一月二十二日漸ク完了上申シタリ其事項左ノ如シ

一 田作 炭乾盤

- 一、主要産地五ケ年間ノ産額價額製造時期
- 二、輸出量價及ヒ市價
- 三、内地賣ト輸出トノ比較及ヒ價格ノ昂低
- 四、製造方法ノ良否改良方法
- 五、人工乾燥方法アレハ其方法
- 六、田作ト炭乾トノ製造費ト價格トニ對スル得失及需用ノ傾向
- 七、輸出先需用ノ狀況

一 乾鰯

- 一、乾鰯ノ主ナル産地種類既往五ケ年間ノ産額價額
- 二、産出額輸出額ノ増減及其原因
- 三、生賣價格製造價格トノ比較歩減及兩者ノ得失

四、人工乾燥ヲ爲ス地方アレハ其構造經費等

五、搾鰯ノ皮殻ノ利用

六、輸出港ノ取扱方及内外國商店

七、需用先ノ狀況、外國産トノ競争ノ有無

一 魚類罐詰

一、魚類罐詰ノ種類

二、各種類ノ既往五ケ年間ノ産額價額及市價

三、産額價額市價増減ノ原因

四、産地及其特ニ工場ヲ設ケルモノハ工場名及其一ケ年製造高

五、製罐ノ種類及其容量製罐費荷造費運賃及製造原費

六、貿易地ニ於ケル内外國商店及其取扱高ノ概數

七、商業取引ニ就テノ慣習及其弊害

八、海外輸出入國別數量價格(最近五ケ年間)

九、輸出入額増減ノ原因

重要輸出品調査

十内外國需用嗜好ノ狀況及將來増進ノ見込  
 以上ノ内煮乾蝦乾蝦ハ縣下ノ産地ニツキ遍テク之ヲ調査シ魚類罐詰ハ岡山市片  
 山商會大久保商會河内榮生館ニツキ調査シタリ其概括的統計ヲ記スレハ左ノ如  
 シ

年次	總産額	總價額
明治三十年	10,000	9,500,000
明治三十一年	9,800	8,800,000
明治三十二年	12,850	12,600,000
明治三十三年	7,500	7,200,000
明治三十四年	11,000	11,500,000

年次	總輸出額	總價額
明治三十年	50,100	58,500,000
明治三十一年	55,800	64,000,000
明治三十二年	11,600	13,000,000
明治三十三年	11,100	12,500,000
明治三十四年	19,700	22,000,000

魚類罐詰

年次	製造箱數	額	市價	摘要
明治三十年	3,800	3,950,000	3,500,000	製罐種類及ヒ一箱詰數ハ容量ニ於テ異ナルニヨリ之ヲ零スルモノテ其主ナルモノハ伏老味付飯等ナリ
明治三十一年	2,700	2,350,000	2,000,000	
明治三十二年	2,800	2,800,000	2,500,000	
明治三十三年	3,100	2,900,000	2,700,000	
明治三十四年	3,100	3,200,000	2,800,000	

尙其詳細ハ農商務省水産局出版第三次貿易要覽ニ記載シアリ

蠣貝調査

明治二十六年初メテ本縣ニ於テ種苗ヲ有明海ニ資リ縣下兒嶋灣ニ移殖セシ以來  
 兒嶋養貝合資會社ニ於テモ前後數回ニ五斗或ハ壹石ツ、ヲ移殖シタリシカ其功  
 果ノ如何ニ就キテハ未ダ深ク究メタルモノナカリキ然ルニ一昨三十三年ニ至リ  
 沿岸漁民ノ之ヲ捕採シテ管ニ自家用ニ供スルノミナラス進ンテ市場ニ販賣スル  
 ニ至リタルヲ以テ初メテ夥シク蕃殖セルコトヲ確メ得タリ然ルニ其捕採ノ方法甚

蠣貝調査

タ青酷ニシテ大小共ニ之ヲ洩ラスナキヲ以テ保護蕃殖ノ要頗ル急ナルヲ感シ命ヲ知事ニ乞ヒ之レカ調査ニ從事シ明治三十五年八月二十五日ヲ以テ報告ニ添フルニ意見ヲ其中スル所アリタリ左ニ記スルハ實ニ其一節ニシテ詳細ニ至リテハ他日兒嶋灣産生物調査ノ時ヲ以テ併セテ報告スヘキ筈ナリ

兒嶋灣ニ於ケル將來ノ推測

本灣ニ於テ將來如何ナル程度マテ蕃殖スヘキカハ精密ナル調査ニ因リ諸般事實ノ關係ヲ詳カニスルニアラサレハ未タ遠カニ論斷スルコト能ハサレトモ今回調査ノ結果ニヨリ聊カ之カ推定ヲ試ミル所アラント欲ス

本灣ノ海水ハ大ニ蛭貝蕃殖ニ適シ且ツ之レカ主食物タル硅藻餌料モ頗ル饒多ニシテ他ニ多ク其比ヲ見ス氣象地文ノ關係亦甚タ良好ナリ底質ハ佐賀福岡武縣ノ適地ニ相當モスト雖モ彦崎川ヨリ篠ヶ瀬川ニ至ル間ハ本灣中ノ適地タルヘク彦崎川ヨリ秀天ニ至ル地先ハ質甚タ軟ニ過キ稍々其適切ヲ缺ケリト雖トモ百万研鑽シテ巧ニ蕃殖ノ術ヲ盡サバ一大養殖地ヲ得ルコト敢テ難事ニアラサルヘク而シテ此間ノ區域ハ恐ラク壹千町歩下ラサル可シ今周密ナル調査研究ヲ遂ケテ以

上滿面ニ養殖スルトシテ仮リニ福岡縣山門郡地先ノ養蠶成蹊ニナラヒ壹反歩收益七拾五圓ト見做サバ之ニ山リテ七拾五萬圓ノ巨額ヲ得ヘシ之ヲ輪採法其他ノ方法ニヨリ年々三分ノ一宛ヲ採捕販賣スルトシテモ壹ケ年ノ産額ハ能ク貳拾五萬圓ニ達スルコトヲ得ヘキナリ

結論 (一節抜萃)

本灣カ天與ノ生産タル理山多クアリ左ニ其主ナルモノヲ記ス

- (一) 灣ノ吐口狹隘ナル爲メ卵子幼虫ノ流失少キ事即チ牡蠣伏老ノ幼虫採集ニ當リ上曳網ヲ以テ檢スルニ潮ノ干滿ニ關セス灣口ニ至ルニ隨ヒ其數ヲ減スルハ確カニ之ヲ証セルモノナリ
  - (二) 粘泥大部ヲ占メ加フルニ水質其適度ヲ得テ主食物タル硅藻ノ最大蕃殖地タルノ一事ハ最も其主因タリ
  - (三) 流潮ノ緩急ハ餌料供給ノ關係ヲ支配スルモノニシテ延テ魚介ノ生長ニ一大影響ヲ及ホスモノトス而シテ本灣ハ最も其宜シキヲ得タリ
- 以上所論ノ大要ニヨリ將來之ニ對シテ施スヘキ方策ヲ今日ニ求ムレハ左ノ二三

ニ過サルヘシ

第一、急ニ保護ヲ要スルハ先ツ之ニ對シテ絶對的禁漁ヲ爲スノ一事ナリ則チ移殖以來多數ノ年月ヲ經過セリト雖トモ盛ニ之カ蕃殖ヲ來タセシハ漸ク昨年以來ノ事ニ屬シ而モ其蕃殖タルヤ現在ヲ以テ過去ニ對比スルカ故ニ盛觀アリト雖トモ深ク將來ヲ達觀スレハ誠ニ一部ノ蕃殖ヲ爲セルニ過キス加フルニ此等ノ稚貝ハ未ダ完全ナル生殖腺ノ發達ヲ爲サス隨テ之ヲ保護シテ十分ナル産卵發生ヲ遂ケシムルハ最モ刻下ノ急務ナリ故ニ之ニ對シテ満足ナル保護ノ方法ヲ求ムレハ明治三十七年十二月マテ絶對ニ採捕販賣ヲ禁止スルニ在リ

此方法ヲ嚴守セハ甚クモ昨年及ヒ本年ニ於テ發生セシ分ハ悉ク親貝トナリテ三十六七兩年ノ間ニ於テ盛ニ其増殖力ヲ助長シ將來大規模ノ施設アルモ毫モ遺憾ナキコトヲ得ルニ至ルヘキナリ此等ノ手段ハ頗ル苛酷ナルヤノ感アレトモ幸ニ近時ノ發見ニ係ルモノナルヲ以テ未ダ純乎タル營業者ナク隨テ之ニ對スル慣行漁業者アルナシ故ニ今日此制ヲ設クルモ恐ラクハ異議ナカル可キヲ信ス

第二、以上ノ方法ニヨリ漸次蕃殖ノ區域ト其額トヲ増大スル事ヲ得ハ更ニ保

護法ヲ變更スルノ要アリ何トナレハ前法ハ將來ニ對スル一時ノ非常手段ノニ既ニ其目的ニシテ遂ケラレタリトセハ之ヲ解禁スルハ當然ノ理タリ然レトモ之カ解禁ニ乘シテ酷捕濫獲俄虎ノ慾ヲ逞フスルコトアラハ折角ノ苦心モ水泡ニ歸シ其目的ヲシテ全ク畫餅ニ屬セシムルコトナシトセス故ニ更ニ其生産業ヲ阻害セサル範圍内ニ於テ保護ノ方法ヲ講セサル可カラス其法三アリ左記スルモノ則チ之ナリ

(イ) 輪採法 地區ヲ三乃至四分シ毎年其一區劃宛チ限リ順次採捕セシメ而シテ其採捕シタル地區ニハ更ニ種苗ヲ播布セシムヘキナリ斯クセハ年々殆ソト一定セル品質ノモノヲ採収シ得テ收利モ亦隨テ多キヲ効シ爲メニ民庶ヲ潤スニト永久盡キルノ期ナカル可シ

(ロ) 禁漁場 最モ發生成長ニ適スル地區ヲトシテ禁漁場ヲ設ケ絶對ニ當該地區内ニ於テノ採捕ヲ禁止シテ一般漁場ニ於ケル種族ノ減盡ヲ防止スルニアリ言ヲ換ユレハ自然的種苗ノ養成所ヲ設クルニアリ然レトモ單ニ之レノミニテハ仮令其種ヲ絶タサルニモセヨ生産力減耗ノ大勢ヲ防遏スルノ力ニ至

リテハ甚ク乏シキモノアルヲ以テ稚貝ノ保護ヲ併セ行フノ要アリ既ニ或敷ノ親貝ヲ有シ之ニ山リテ發生セル稚貝ヲ保護スルコトヲ得ハ或ハ其目的ヲ達スルニ庶幾カランカ

(ハ) 禁漁期 換言スレハ産卵期ノ保護ナリ即チ八月中旬ノ孕卵期ヨリ十二月下旬ノ發生期マテノ間ニ於テ一切之レヲ採捕販賣ヲ禁止スルニアリ而シテ稚貝ノ保護ヲ併セ要スルハ言ヲ俟タズ

以上三策中輪採法ニモ亦稚貝ノ保護ハ必ス之ヲ要スルナリ要スルニ稚貝保護テフ事ハ其生産力ヲ増進スル上ニ於テ絶大ノ關係アルヲ以テ何レノ方法ヲ採ルモ必ス隨伴セシムルコト最モ肝要ナリ而シテ茲ニ稚貝ト稱スルハ敢テ學術上ノ理義ニ拘泥セス風味劣等價格低廉ニシテ未ダ十分ナル生殖力ナキモノ、謂ニシテ即チ殻長三寸以下(壹升ノ容量三十五個内外)ノモノトス如斯小形且劣等ノ稚貝ヲ期節ニ拘ラス絶對ニ採捕販賣スル事ヲ禁止スルコソ稚貝ニ對スル唯一ノ保護方法ナレ

保護蕃殖ノ方法ハ前記以外殆ソト之レアルヲ見ス漁具制限ノ如キハ漁法未ダ完

カラサル今日ニ於テ敢テ暇々スルノ要ナキヲ信ス而シテ蠔貝ニ對スル將來ノ施設ニ付百端ノ模範ヲ有明海ニ求ムルハ過誤ノ大ナルモノナリ何トナレハ彼ニ於ケル泥土ト兒嶋灣ニ於ケル泥土トハ泥土ナル同一名稱ノ下ニ於テ硬軟ノ差頗ル甚クシキモノアレハナリ彼百匁ノ鉛丸ヲ兒嶋灣ノ泥上ニ落サン歎其陷入ノ深サハ決シテ有明海ノ如ク二寸乃至三四寸ニ止マル能ハサルヘキナリ隨テ棲息發生ノ狀態身入漁法等自カラ選庭アルヲ知ルヘシ故ニ兒島灣ニ於ケル適切ナル養殖業ヲ經營シ更ニ進ンテ漁法ヲ改良シ其生産額ヲ増進セシメンニハ後來數年ニ亘リテ其地質ト成長力トノ關係氣象地文ノ關係確實ナル生産力ノ調査試驗等アラユル水形學上ノ調査ト實地的ノ試驗調査ヲ果タルニアラサレハ到底明カナルコトヲ得サルヘシ

以上ハ特別調査中ノ主ナルモノニシテ此他三四ノ事項アレトモ特ニ記スルニ足ラサルヲ以テ之ヲ省略ス

九、 講話及實地指導

講話及實地指導ハ本場ノ事業成績ニ就キテ之ヲ爲スハ元ヨリナレトモ其他一般ノ智識ヲ啓發シ又ハ漁業者ト試験場トノ聯絡ヲ密接ナラシムル爲メ或ハ請求ニ應ジ或ハ自カラ進ノテ種々ノ講話ヲナセリ而シテ事ノ輕易ナルモノ又ハ一地方ノ小局部ニ限ラレタルモノニシテ改良ノ必要アルモノハ力メテ實地指導ニヨリテ之ヲ開發スルコトトセリ今其事項及ヒ從事シタル月日并ニ職員氏名ヲ順次ニ列記スレハ左ノ如シ

月 日	場 所	種 類	事 項	官 職 氏 名
自五月二十九日 至六月四日	邑久郡牛窓町	講話、指導	乾製品製法	技師 樋口 邦彦
七月二十九日	菅田郡加茂村	講話、指導	貝類養殖法	技師 岩城榮太郎
七月三十日	同 郡西加茂村	講話	淡水養殖ノ必要	技師 岩城榮太郎
七月三十日	同 郡林田村	講話	淡水養殖ノ必要	技師 岩城榮太郎
自八月五日 至八月八日	兒嶋郡木見村	講話	水産學大要	技師 樋口 邦彦
自八月十六日 至八月十六日	兒嶋郡八濱町	講話	伏老野化試験方法	技師 岩城榮太郎
自九月十二日 至九月二十二日	兒嶋郡八濱町	講話	伏老野化試験方法	技師 岩城榮太郎

自九月二十六日 至九月三十一日	兒嶋郡八濱町	講話、指導	伏老野化試験方法	技師 岩城榮太郎
十月十日	英田郡江見村	講話、指導	淡水養殖ノ必要	技師 樋口 邦彦
十二月二十九日	兒嶋郡比村	講話、指導	乾製品製造法	技師 樋口 邦彦
二月二十三日	邑久郡幸嶋村	講話	一般水産ノ改良ニ就テ	技師 樋口 邦彦
二月二十四日	邑久郡朝日村	講話	一般水産ノ改良ニ就テ	技師 樋口 邦彦
二月二十五日	邑久郡忍村	講話	一般水産ノ改良ニ就テ	技師 樋口 邦彦
二月二十六日	邑久郡牛窓町	講話	一般水産ノ改良ニ就テ	技師 樋口 邦彦
二月二十七日	邑久郡長濱村	講話	一般水産ノ改良ニ就テ	技師 樋口 邦彦
二月二十八日	邑久郡玉津村	講話	一般水産ノ改良ニ就テ	技師 樋口 邦彦
三月三日	邑久郡柴掛村	講話	一般水産ノ改良ニ就テ	技師 樋口 邦彦
三月四日	邑久郡鶴山村	講話	一般水産ノ改良ニ就テ	技師 樋口 邦彦
三月二十二日	淺口郡寄嶋町	講話	一般水産ノ改良ニ就テ	技師 樋口 邦彦
三月二十三日	淺口郡黒崎村	講話	一般水産ノ改良ニ就テ	技師 樋口 邦彦

實地指導ハ實地ニツキ之ヲ教授シ講話ハ常ニ力メテ理解ヲ容易ナラシムルヲメ  
例証百端事ヲ通俗的ニ之ヲ爲シ終リテ一般ノ質疑ニ應ジ而シテ二月二十三日以  
降ハ幻燈ヲモ併用シタリ此他文書上ノ質疑應答ニ至リテハ多々擧ケテ數フ可カ  
講話及實地指導

附 録

調査用漁船構造

本場ニ於テ各種調査ノ便ニ供セシメ爲メ本年度ニ於テ漁船壹隻ヲ新調シタリ其構造ハ帆走ヲ主トシ鰯行ニモ便セリ特ニ助材ヲ用ヒテ其堅牢ヲ期シタルハ聊カ漁船改良ノ一助タラシメンカ爲メナリ其構造ノ概畧及ヒ新調費ノ大要ハ左ノ如シ

- 調査船構造
- 全長 (船艦間) 二十六尺
  - 幅 (艙) 五 尺
  - 深 (艙) 二 尺
  - 敷 材杉
  - 前敷長 十六尺二寸
  - 後敷長 五尺八寸
  - 幅 前端二寸 艙二尺 後敷最大部二尺一寸 厚サ 二寸

船首材 材杉

長 三尺三寸

幅 上部六寸 下部一尺

厚サ 前部一寸 後部三寸五分

開キ 五寸

船尾 材杉

幅 上部二尺六寸 下部七寸五分

厚サ 一寸五分

棚板 材杉

厚サ 一寸

中棚

長 二十六尺

幅 艙二尺 舳一尺五分

開 艙九寸五分 舳七寸五分

附 録 調査用漁船構造

上棚

長 二十六尺五寸 幅 一尺三寸

助材 材檜

厚サ 一寸五分 幅 二寸

船形ニ準シ左右上端甲板下ニ到ル

區劃板 材杉

厚サ 一寸二分

艙一枚 舳一枚 舳二枚 舳一枚

船梁 材檜

貫板 長一尺三寸 二寸五分角

舳小梁 長一尺九寸 三寸角

舳梁 長四尺二寸 幅三寸 厚三寸

舳梁 長五尺九寸 内舷外ニ三寸五分宛出ス 幅四寸 厚四寸

舳梁 長六尺 内舷外ニ九寸宛出ス 幅三寸 厚三寸

甲板 材杉

厚サ 一寸

艙口

表 一 アカ間 一

右艙口ニハ適當ナル被蓋ヲ設ケリ

檣筒 材槻

長 前檣筒一尺六寸 厚二寸 幅三寸

後檣筒一尺六寸 厚三寸 幅四寸二分

檣筒臺 材松

前檣筒臺 長一尺 幅六寸 厚二寸

後檣筒臺 前筒ニ同シ

小縁 材檜

長二十七尺 幅二寸 厚二寸

舵床 材松

調査用漁船構造



長 五尺

幅 五寸  
厚サ中央部一尺 両端三寸

支柱 高二尺 厚サ一寸二分 幅二寸五分  
横木 長三尺六寸 厚サ一寸二分 幅二寸五分

上ニ横神付高五寸ニ五寸距離ニ造ル  
張板 材杉

厚 八分

支柱 高サ六寸五分  
高小縁 高サ四寸五分

下臺 二寸五分  
長十四尺六寸 厚サ一寸五分

活間

表船梁ノ前ニ於テ造リ活間ト爲シ之ニ被蓋ヲ設ク

襖 材杉

前襖 長十六尺 元口三寸 末口一分五分  
後襖 長十九尺 元口三寸五分 末口一寸五分

帆桁 材杉

前襖  
上桁 長八尺 元口一寸五分 末口一寸  
下桁 長九尺 元口一寸七分 末口一寸二分

後襖

上桁 長九尺 元口一寸八分 末口一寸  
下桁 長十一尺 元口二寸 末口一寸五分

帆

明石産米利堅織ヲ用ユ

前帆 調査用漁船構造

上邊六尺 下邊七尺五寸  
前邊十尺 後邊十三尺

後帆

上邊七尺 下邊十尺  
前邊十二尺 後邊十六尺七寸

帆網

徑五分馬尼刺麻三合撚長八十五尺徑三分ノモノ五十尺

舵 材樫

全長六尺 平板長四尺五寸

幅 二尺三寸

厚 前面八分 後面一寸二分

舵柄 材樫

長二尺五寸 元口二寸 末口一寸二分

棚 材、篋赤樫、腕椎

長十三尺六寸 全五尺七寸  
長十二尺 全五尺七寸

錨 唐人形 鐵製

重量 二貫五百目 一挺

全 三貫目 一挺

錨網

棕樫繩三子撚徑六分長三十尋 一本

全 四十尋 一本

此新調費

一金百六拾參圓五拾錢 調査船壹艘代

但シ附屬品共

附屬養魚池構造

養魚地ノ位置ハ八濱町字新開ト稱スル漸開地ニシテ現在本場事務所ヲ距ル呼應ノ間ニ在リ前面堤防ヲ隔テ、海ニ瀕シ右盤田川ニ接シ左方元川流末ヲ隔テ、八

附屬養魚池構造

濱町ノ本市街ニ對ス後方ハ數町ノ田圃ヲ控ヘテ大乘權其他ノ山嶽ヲ負ヘリ而シテ地已ニ新開ニ屬スルガ故ニ海岸堤防内側ニ沿フテ廣濶ナル潮入アリ之ト接續セル一二ノ溝渠ヲ利用シテ養魚池ニ充用シタリ水質ハ潮入ト連接セルカ故ニ淡鹹混水ナルヲ以テ之レニ飼育スルモノハ勢ヒ淡鹹兩性ノモノタラサルヘカラス故ニ純粹ナル淡水產魚鼈ノ養殖池ハ之ヲ後年ニ期セリ土質ハ此地一體總テ粘泥ナリ左ニ其ノ大要ヲ記ス

明治三十五年度

一本縣立水產試驗場養魚池造設工事

此工費金七百七拾四圓五拾壹錢九厘

池ノ總面積千六百坪

内譯

第壹號池 六百坪

第貳號池 四百五拾坪

第參號池 五百五拾坪

構造

一堤防ハ敷幅九尺天端三尺高サ地盤ヨリ二尺八寸九分ニシテ傾斜勾配ハ壹割トス

一樋門ハ各池各壹個トシ高八尺三寸巾三尺二重戸ニシテ内ヲ金網戸トシ外ヲ板戸トス而シテ土質非常ノ深泥ナルヲ以テ最下底ヲ粗朶敷トシ細砂ヲ盛リ梯子桐木ヲ載セ砂利ヲ布キ更ニ二和土ヲ以テ撞固メ其上ニ土臺石ヲ横ダヘ之レニ二條ノ縱溝ヲ彫レル石柱ヲ樹テ込ミ石柱ノ上端ハ之ヲ切欠キ板橋ヲ架シテ堤面ト平坦ナラシム石柱ノ兩側ハ嚴重ナル袖石垣ヲ施セリ

一注排水路ハ樋門ト潮入溝渠トノ間ニ在リ幅三尺深サ樋門ノ高サト同様ナリ一池ハ深サ地盤以下三尺トシ在來溝渠ノ底面ハ凸凹一様ナラス且甚ダ淺キヲ以テ之ヲ浚深シ更ニ圖中堤防線内ニ於ケル田地ハ悉ク之ヲ切取リタリ而シテ堤塘ニ近キ部分ハ其崩壞ヲ防止スル爲メ堤根ヨリ池心ニ向ツテ九尺ノ所ニ到リテ深サ三尺ナルヘク緩勾配トナシ更ニ池心ヨリ樋門ニ向ツテ直線ニ巾三尺深五寸餘ノ溝形ヲ浚ヘタリ

附屬養魚池構造

之ヲ要スルニ本年度ニ於ケル養魚池造設費ハ極メテ少額ナリシヲ以テ到底完全ナルコト能ハス故ニ後年増設ノ時ヲ俟ツテ完成セシムヘキ目的ヲ以テ施設ノ計劃ヲナシ兎ニ角一時養魚ニ堪エ得ヘキ丈ケノコトニ止メタリ然レトモ其溝渠ヲ利用シタルカ爲メ費額ニ對シテハ比較的廣域ノ池ヲ得タルナリ

十一月分海洋四期定時觀測對照表

事 記	海面ノ模様	海水ノ清濁	潮ノ干満	潮流	比 重	水 温	氣 温	風 向	天 候	觀測日時	場所水深
											岡山縣水産試驗場
客月十四日午窓 町北東篠島沿岸 ニ於テ船約八百 尾ヲ漁格拾七リ 乃至貳拾壹錢ナ リキ	波アリ	少濁	一合	強東	三、五	三、八	一九、〇	北東	和雨	午後二時	邑久郡半蔵町沖
	全	全	八合	強東	三、〇	三、〇	一九、〇	北東	和雨	午後五時	八尋
	全	清緑	三合	強東	三、〇	三、〇	一九、〇	南	雨	午後八時	香川縣香西芝山沖
	全	白波	五合	強西	三、〇	三、〇	一八、五	東	曇	午後十一時	八尋
記事無シ	全	全	七合	弱西	三、〇	三、〇	一八、三	東	雨	午後二時	小豆郡坂手村沖
	全	清藍	二合	弱東	三、七	三、八	一八、八	北	曇	午後五時	十一尋
	全	全	極滿	弱西	三、三	三、三	二〇、五	北	全	午後八時	小豆郡坂手村沖
	全	全	六合	弱東	三、三	三、三	一九、三	北	全	午後十一時	十一尋
目下かまかり、 あぢ主トシた ひはまぢ(當 年ふり)ふり ろ等相應ノ漁 アリテ是ヨリ漸 次たひふりノ漁 期ニ向フ	波高シ	全	五合	強北	三、〇	三、〇	一七、五	東	和雨	午後二時	佐賀郡東南東沖
	高シ	全	一合	弱北	三、〇	三、〇	一九、〇	東	微雨	午後五時	七十二尋
	高シ	全	一合	弱北	三、〇	三、〇	一九、〇	東	全	午後八時	七十二尋
	高シ	全	四合	弱北	三、〇	三、〇	一九、〇	東	全	午後十一時	七十二尋

二月分海洋四期定時觀測對照表

場所水深	觀測日時	天候	風力	氣温	水温	比	潮流	潮ノ干満	海面ノ模様	事記	岡山縣水産試驗場		香川縣水産試驗場		山口縣水産試驗場		大分縣水産試驗場				
											邑久郡牛久保町	香川郡香西沖	三豐郡伊吹島沖	小豆郡坂手村沖	佐賀郡東南東沖						
二	二	晴	四	五	九	三	西南	極干	全	此地冬期主要漁業ナ ルニシテ流業ハ例年ニ 比シテ流業ハ例年ニ 以テシテ流業ハ例年ニ ナリト云フコトナリ ナリト云フコトナリ ナリト云フコトナリ ナリト云フコトナリ	全	全	全	全	全	全	全	全	全		
三	三	曇	四	五	九	三	西南	極干	全	昨日ヨリ漁獲多ク ナリト云フコトナリ ナリト云フコトナリ ナリト云フコトナリ	全	全	全	全	全	全	全	全	全		
四	四	快晴	四	五	九	三	西南	極干	全	常時たらうを、 すき、もうを、 等釣魚アリ其 他めばる漁ハ建 網チ使用シ一艘 一日壹圓内外ノ 收獲アリ	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	
五	五	快晴	四	五	九	三	西南	極干	全	冬漁ノばら漁ハ 更ニナシ ナシト云フコトナリ ナシト云フコトナリ ナシト云フコトナリ	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	
六	六	快晴	四	五	九	三	西南	極干	全	沖合ニ小わし群 集シ居ルモ沿岸 ニ來テセシコト ハ、かまがり最 モ釣獲多クはま ち、しんじくハ 薄漁ノ姿ニシテ 魚價頗ル高値ナ	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全

九月分海洋月次觀測對照表

場所水深	觀測日時	天候	風力	氣温	水温	比	潮流	潮ノ干満	海面ノ模様	事記	岡山縣水産試驗場		香川縣水産試驗場		山口縣水産試驗場				
											水産試驗場	香川縣中笠居村	小豆郡坂手村	伊吹島	山口縣天津郡仙崎沖				
二	二	曇	四	五	九	三	西南	極干	全	蛸漁虎疫 ノ爲メ抄 々シカ ノ其 アリ 一 業 ナ リ	全	全	全	全	全	全	全		
三	三	曇	四	五	九	三	西南	極干	全		全	全	全	全	全	全	全	全	
四	四	快晴	四	五	九	三	西南	極干	全		全	全	全	全	全	全	全	全	全
五	五	快晴	四	五	九	三	西南	極干	全		全	全	全	全	全	全	全	全	全
六	六	快晴	四	五	九	三	西南	極干	全	本月一日ヨリ十五日 迄ハ平均一日四拾石 ナリト云フコトナリ ナリト云フコトナリ ナリト云フコトナリ	全	全	全	全	全	全	全	全	全
七	七	快晴	四	五	九	三	西南	極干	全	廿六日ヨリ廿七日 迄ハ平均一日四拾石 ナリト云フコトナリ ナリト云フコトナリ ナリト云フコトナリ	全	全	全	全	全	全	全	全	全
八	八	快晴	四	五	九	三	西南	極干	全	上旬ヨリ小鯉ノ洄游アリタルモ 大ナル漁獲ナシ シカハ初日以來絶ヘテ漁獲ナカリ 二十三日しらすノ引續漁獲アリキ	全	全	全	全	全	全	全	全	全



十二月分海洋月次観測対照表

Table with columns for observation date, location (e.g., 岡山縣水産試験場), tide strength, direction, temperature, wind, and weather. Includes detailed notes on observations.

附六

明治三十六年一月分海洋月次観測対照表

Table with columns for observation date, location (e.g., 岡山縣水産試験場), tide strength, direction, temperature, wind, and weather. Includes detailed notes on observations.

附七



明治三十六年二月分海洋月次觀測對照表

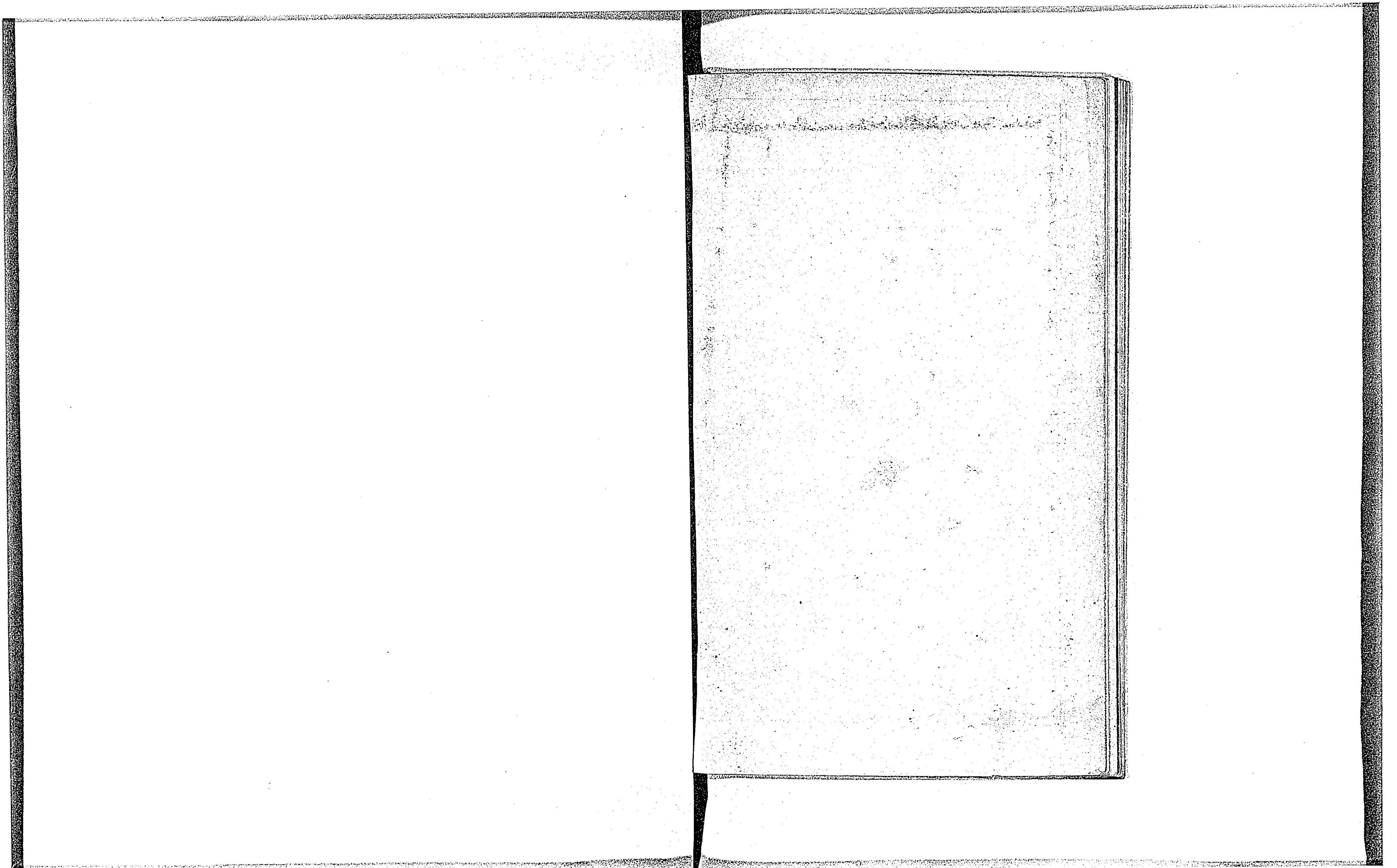
附八

Table with columns for observation date, location, tide, wind, temperature, and other meteorological data. Includes sub-headers for '岡山縣水産試驗場' and '香川縣水産試驗場'.

明治三十六年三月海洋月次觀測對照表

Table with columns for observation date, location, tide, wind, temperature, and other meteorological data. Includes sub-headers for '岡山縣水産試驗場', '香川縣水産試驗場', and '山口縣水産講習所'.

別ノ九



明治卅六年二月

海洋日次觀測表

十一 千湖

岡山縣兒島郡長濱村大島南東海面

觀測日	時	天氣	風向	風力	氣	溫水	溫比	重潮流	方向	強弱	潮流	干満	水色	清濁	海面	波	記
一日	午後二時十分	晴	東南	一	一三、七	九、九	二五、〇	南	東	弱	一	少	濁	平	穩	胸上村沖寄魚漁場ニ於テ一尾約二十四匁ノ鰈ニ比シテ尾ヲ漁獲ス	
二日	午後一	晴	南東	一	一三、〇	一〇、〇	二四、三	北	北	弱	十	全	小	波	鰈及鰯ノ漁獲更ニ無シ游泳方向等不明		
三日	午後一	晴	南西	一	一三、六	九、九	二四、八	南	東	弱	十	全	藍	平	穩	午後三時頃十分間許微雨アリ	
四日	午後一	晴	北東	二	八、八	九、八	二四、三	東	南	弱	十	全	綠	小	波	常時手長崎ノ漁期ナルヲ以テ觀測場近傍ニ於テ漁獲アリ	
五日	午後一	晴	北々西	三	七、五	九、四	二四、〇	南	々	東	弱	十	全	灰	綠	波	手長崎ハ未ダ初期ナルヲ以テ漁ノ豐凶ハ不明ナルモ今ノ所普通ナリ
六日	午後一	晴	北々東	二	八、五	九、四	二四、〇	全	全	全	十	全	綠	小	波	八日午後二時三十分十分間降霰アリ	
七日	午後一	晴	東	一	八、七	九、二	二四、八	全	全	全	十	全	全	全	波	午前兒島郡日比村前寄魚場ニ於テ鰈約五萬余尾ヲ漁ス	
八日	午後一	晴	北々西	二	八、三	九、一	二四、〇	全	全	全	一	極	清	澄	全	鰈ノ漁獲更ニ無シ	
九日	午後一	晴	西	一	九、九	九、二	二四、九	全	全	全	一	全	全	平	穩	常時手長崎漁期ニシテ一尾壹匁貳參厘ナリ例年ニ比シテ漁少シ	
十日	午後一	晴	東	一	七、五	八、九	二四、〇	全	全	全	一	全	全	全	波	飯崎漁ハ盛漁ニシテ一日一隻二百尾内外ノ漁アリ	
十一日	午後一	晴	西	一	一三、〇	九、五	二四、七	全	全	全	一	全	全	全	波	飯崎ノ漁獲更ニ無シ	
十二日	午後一	晴	南東	一	九、九	九、一	二四、六	全	全	全	一	全	全	全	波	鰈ノ漁獲更ニ無シ魚群ヲモ認メス	
十三日	午後一	晴	西	一	九、一	九、一	二四、一	全	全	全	一	全	全	全	波	久須見鼻ノ岩礁中ニ鰯ノ小群ヲ認ム	
十四日	午後一	晴	西南	一	一〇、九	九、三	二四、一	全	全	全	一	全	全	全	波	觀測時前五分間許降雪アリ	
十五日	午後一	晴	南東	一	八、六	九、〇	二四、〇	全	全	全	一	極	清	澄	全	久須見鼻ノ岩礁中ニ今尙ホ鰯ノ棲息セルヲ認ム	
十六日	午後一	晴	西	一	一一、三	九、一	二四、一	北	北	弱	十	全	全	全	波	常時竹崎漁業ノ期節ナルヲ以テ毎日二十五艘ノ漁舟出漁シ合計六七百貫ノ漁獲アリ	
十七日	午後一	晴	南西	一	一一、〇	九、三	二四、八	南	々	東	弱	十	全	全	波	飯崎漁ノ終漁期ニシテ亦めばる釣ノ盛漁期ナリ	
十八日	午後一	晴	西	三	八、五	八、八	二四、八	全	全	全	十	全	全	平	穩	手長崎ニ比シテ不漁ナリ	
十九日	午後一	晴	北西	三	八、一	八、八	二四、〇	全	全	全	十	全	全	全	波	竹崎突漁業益々盛ニシテ漁獲亦多シ	
二十日	午後一	晴	西南	一	一一、一	八、九	二四、六	全	全	全	十	全	全	全	波	飯崎漁ノ終漁期ニシテ亦めばる釣ノ盛漁期ナリ	
二十一日	午後一	晴	西北	一	六、〇	八、六	二四、〇	全	全	全	十	全	全	全	波	手長崎ニ比シテ不漁ナリ	
二十二日	午後一	晴	西	一	九、九	八、九	二四、〇	全	全	全	一	全	全	全	波	久須見鼻ニ於テ鰯建網ヲ以テ鰯約百尾ヲ漁獲セリ	
二十三日	午後一	晴	西北	一	九、一	八、六	二四、〇	全	全	全	一	全	全	全	波	留海解放セルヲ以テ日時觀測ハ今日限り廢ス	
二十四日	午後一	晴	南西	一	一〇、八	八、八	二四、〇	南	々	東	弱	十	全	全	波		
二十五日	午後一	晴	南東	一	一〇、四	八、七	二四、一	全	全	全	一	全	全	全	波		
二十六日	午後一	晴	南	一	一六、五	九、二	二四、九	全	全	全	一	全	全	全	波		
二十七日	午後一	晴	南東	一	一四、一	九、五	二四、九	全	全	全	一	全	全	全	波		
二十八日	午後一	晴	西	一	一一、八	九、四	二四、〇	全	全	全	一	全	全	全	波		

明治卅六年二月

海洋日次觀測表

岡山縣邑久郡牛窓町前海面

觀測日	時	天氣	風向	風力	氣	溫水	溫比	重潮流	方向	強弱	潮流	干満	水色	清濁	海面	波	記
一日	午後一	晴	南東	一	一三、〇	九、七	二四、三	南	東	弱	一	少	濁	平	穩	午前三時屬網ヲ以テ鰯一尺四寸乃至一尺ノ者約五百尾ヲ漁獲ス	
二日	午後一	晴	南西	一	一一、〇	九、〇	二四、〇	東	東	弱	十	全	灰	綠	調	早朝鰯大小約百尾ヲ漁獲ス	
三日	午後一	晴	南西	一	一一、〇	九、〇	二四、〇	東	東	弱	十	全	濁	灰	綠	漁獲更ニ無シ游泳方向不明	
四日	午後〇時四十分	曇	南西	二	七、七	八、七	二四、〇	西	西	強	十	全	全	全	波	全上	
五日	午後〇時五十分	曇	北西	二	七、五	八、七	二四、〇	西	西	強	十	全	全	全	波	多少寒氣ヲ増シ魚ノ群集スル傾アリ	
六日	午後〇時四十分	曇	南西	二	七、五	八、五	二四、〇	全	全	全	十	全	全	全	波	本日未明當瀬戸ニ於テのし七百廿尾鰯二千四百尾許ヲ漁ス	
七日	午後一	晴	東	一	一〇、五	八、五	二四、〇	全	全	全	十	全	全	全	波	漁獲ナシ	
八日	午後一	晴	北西	二	八、五	八、七	二四、〇	全	全	全	十	全	全	全	波	牛窓町前ニ於テ鰯六百三十七尾ヲ漁ス太サ約七寸	
九日	〇時四十五分	曇	西	二	八、三	八、七	二四、七	全	全	全	十	全	全	全	波	一文宇堤防ト稱スル前沖ニ於テ鰯約貳萬五千尾太サ約七寸ノモノヲ漁セリ	
十日	午後〇時四十五分	曇	東	一	九、三	八、五	二四、五	全	全	全	十	全	全	全	波	特二千五百四十八尾漁獲アリ長約六寸	
十一日	午後〇時五分	晴	西南	一	一三、〇	八、七	二四、〇	西	西	全	一	小	濁	中	波	牛窓かまのふた附近ニ於テ鰯兒十五尾ヲ漁獲セリ	
十二日	午後一	晴	南東	三	九、三	八、五	二四、〇	東	東	弱	一	小	濁	全	波		
十三日	〇時四十五分	曇	北西	二	九、七	八、四	二四、〇	東	東	弱	一	小	濁	全	波		
十四日	午後一	晴	南西	一	九、四	八、五	二四、〇	全	全	全	一	小	濁	全	波		
十五日	午後一	晴	北西	二	九、三	八、四	二四、〇	東	東	強	一	小	濁	中	波		
十六日	午後一	晴	南西	二	一〇、八	八、八	二四、五	全	全	全	十	全	全	全	波	一文宇堤防沖ニテ鰯五千四百尾ヲ漁獲セリ太サ約六寸	

日	時	天候	風向	風力	氣温	湿度	比重	潮流	水深	濁度	海面	備考
七日午后	一時	晴	北々西	一	八、三	九、二	一、〇	一極清	波浪アリ	八日午后二時三十分分間降雪アリ		
八日午后	一時	曇	西	一	九、九	九、二	一、〇	一極清	波浪アリ	午前見島郡日比村前寄魚場ニ於テ鱈約五萬尾ヲ漁ス		
九日午后	一時	曇	東	一	七、五	八、九	一、〇	一極清	全			
十日午后	一時	晴	西	一	九、〇	九、一	一、〇	一極清	全			
十一日午后	一時	晴	西	一	九、〇	九、一	一、〇	一極清	全			
十二日午后	一時	和雨	東北東	一	九、二	九、一	一、〇	一極清	全			
十三日午后	一時	曇	西	一	九、一	九、〇	一、〇	一極清	全			
十四日午后	一時	快晴	西南西	一	九、〇	九、三	一、〇	一極清	全			
十五日午后	一時	快晴	南東	一	八、六	九、〇	一、〇	一極清	全			
十六日午后	一時	曇	西	一	九、一	九、一	一、〇	一極清	全			
十七日午后	一時	晴	南西	一	九、〇	九、三	一、〇	一極清	全			
十八日午后	一時	曇	西	三	八、五	八、八	一、〇	一極清	全			
十九日午后	一時	曇	北西	三	八、一	八、八	一、〇	一極清	全			
二十日午后	一時	快晴	西南西	一	八、九	八、九	一、〇	一極清	全			
二十一日午后	一時	曇	西北西	一	六、〇	八、六	一、〇	一極清	全			
二十二日午后	一時	晴	西	一	九、九	八、九	一、〇	一極清	全			
二十三日午后	一時	曇	西北西	一	九、一	八、六	一、〇	一極清	全			
二十四日午后	一時	晴	南西	一	一〇、八	八、八	一、〇	一極清	全			
二十五日午后	一時	微雨	東南東	一	一〇、四	八、七	一、〇	一極清	全			
二十六日午后	一時	晴	南	一	一〇、五	九、二	一、〇	一極清	全			
二十七日午后	一時	快晴	南東	一	一〇、一	九、五	一、〇	一極清	全			
二十八日午后	一時	曇	西	一	一一、八	九、四	一、〇	一極清	全			

明治卅六年二月

海洋日次觀測表

岡山縣邑久郡牛窓町前海面

日	時	天候	風向	風力	氣温	湿度	比重	潮流	水深	濁度	海面	備考
二日午后	一時	晴	南東	一	一〇、〇	九、七	一、〇	一極清	全			
三日午后	一時	晴	南西	二	一〇、〇	九、〇	一、〇	一極清	全			
四日午后	〇時四十五分	曇	南西	二	七、七	九、〇	一、〇	一極清	全			
五日午後	〇時五十分	曇	北西	二	七、五	八、七	一、〇	一極清	全			
六日午後	〇時四十分	曇	南西	二	七、五	八、五	一、〇	一極清	全			
七日午後	一時	晴	東	一	一〇、五	八、五	一、〇	一極清	全			
八日午後	一時	晴	北西	二	八、五	八、七	一、〇	一極清	全			
九日	〇時四十五分	曇	西	二	八、二	八、七	一、〇	一極清	全			
十日午後	〇時四十五分	曇	東	一	九、二	八、五	一、〇	一極清	全			
十一日午後	〇時五分	晴	西南	一	一三、〇	八、七	一、〇	一極清	全			
十二日午後	一時	和雨	東	三	九、三	八、五	一、〇	一極清	全			
十三日	〇時四十五分	曇	北西	二	九、七	八、四	一、〇	一極清	全			
十四日午後	一時	晴	南西	一	九、四	八、五	一、〇	一極清	全			
十五日午後	一時	和雨	北西	二	九、三	八、四	一、〇	一極清	全			
十六日午後	一時	曇	南西	二	一〇、八	八、八	一、〇	一極清	全			
十七日午後	一時	曇	南東	二	八、七	八、五	一、〇	一極清	全			
十八日午後	一時	雪	北西	三	八、五	八、〇	一、〇	一極清	全			
十九日午後	一時	曇	北西	一	五、七	八、二	一、〇	一極清	全			
二十日午後	一時	晴	西	一	一一、〇	八、三	一、〇	一極清	全			

記 午前三時屬網ヲ以テ鱈一尺四寸乃至一尺ノ者約五百尾ヲ漁獲ス

早朝鱈大小約百尾ヲ漁獲ス

漁獲更ニ無シ游泳方向不明

全 上

多少寒氣ヲ増シ魚ノ群集スル傾アリ

本日未明當瀬戸ニ於テノシ七百廿尾鱈二千四百尾計ヲ漁ス

漁獲ナシ

牛窓町前ニ於テ鱈六百三十七尾ヲ漁ス太サ約七寸

一文字堤防ト稱スル前沖ニ於テ鱈約貳萬五千尾太サ約七寸ノモノヲ漁セリ

鱈二千五百四十八尾漁獲アリ長約六寸

牛窓かまのふた附近ニ於テ鱈兒十五尾ヲ漁獲セリ

一文字堤防沖ニテ鱈五千四百尾ヲ漁獲セリ太サ約六寸

此日少許ノ降雨アリ

沖合ニ於テ鱈約四千尾ヲ漁ス太サ約二尺一寸

今日イキノ留海ヲ解放セリ觀測ヲ廢ス

重要魚類販賣價格表

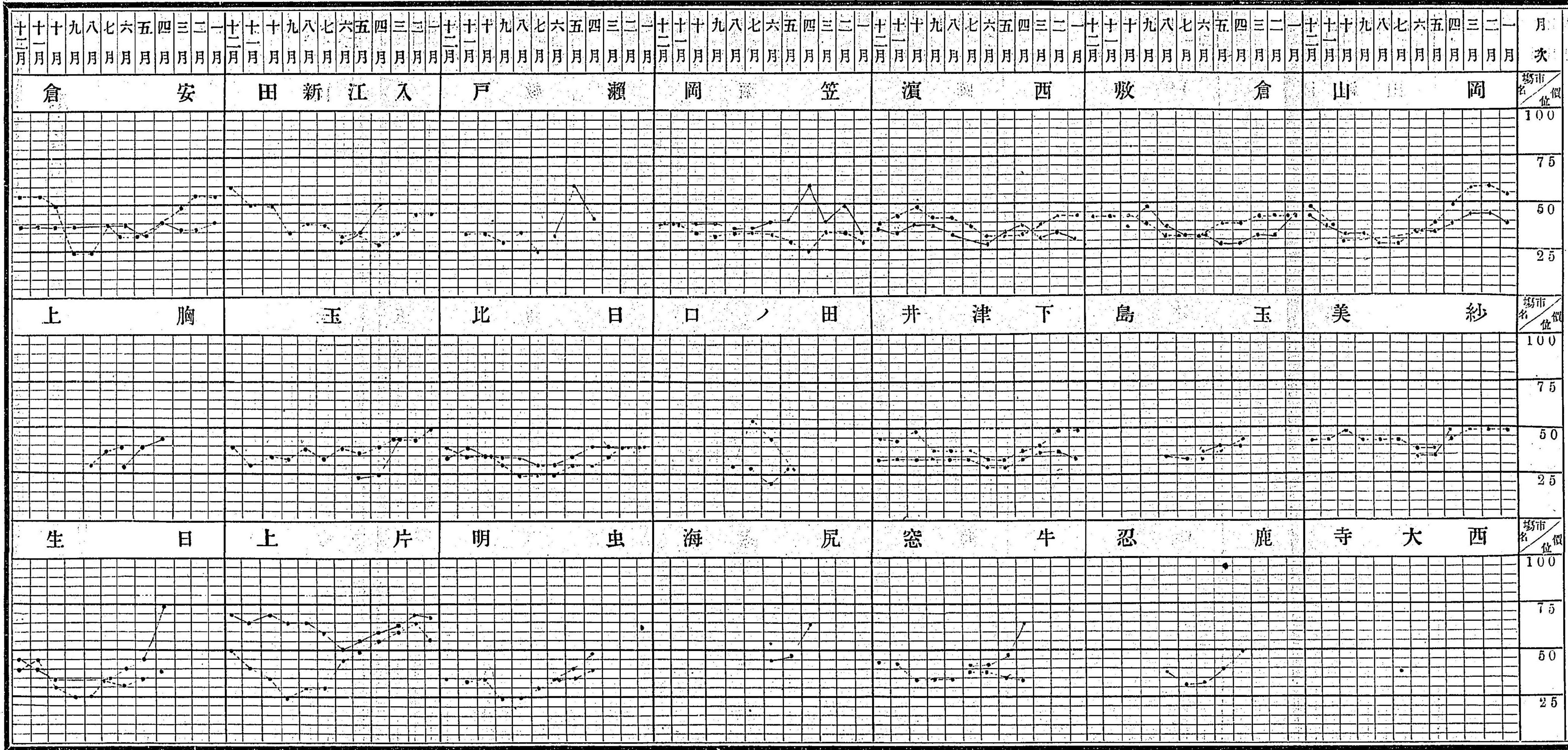
其一

(たゝ、さわり)

價格ハ壹貫ニ對スル價トス

さたわらい



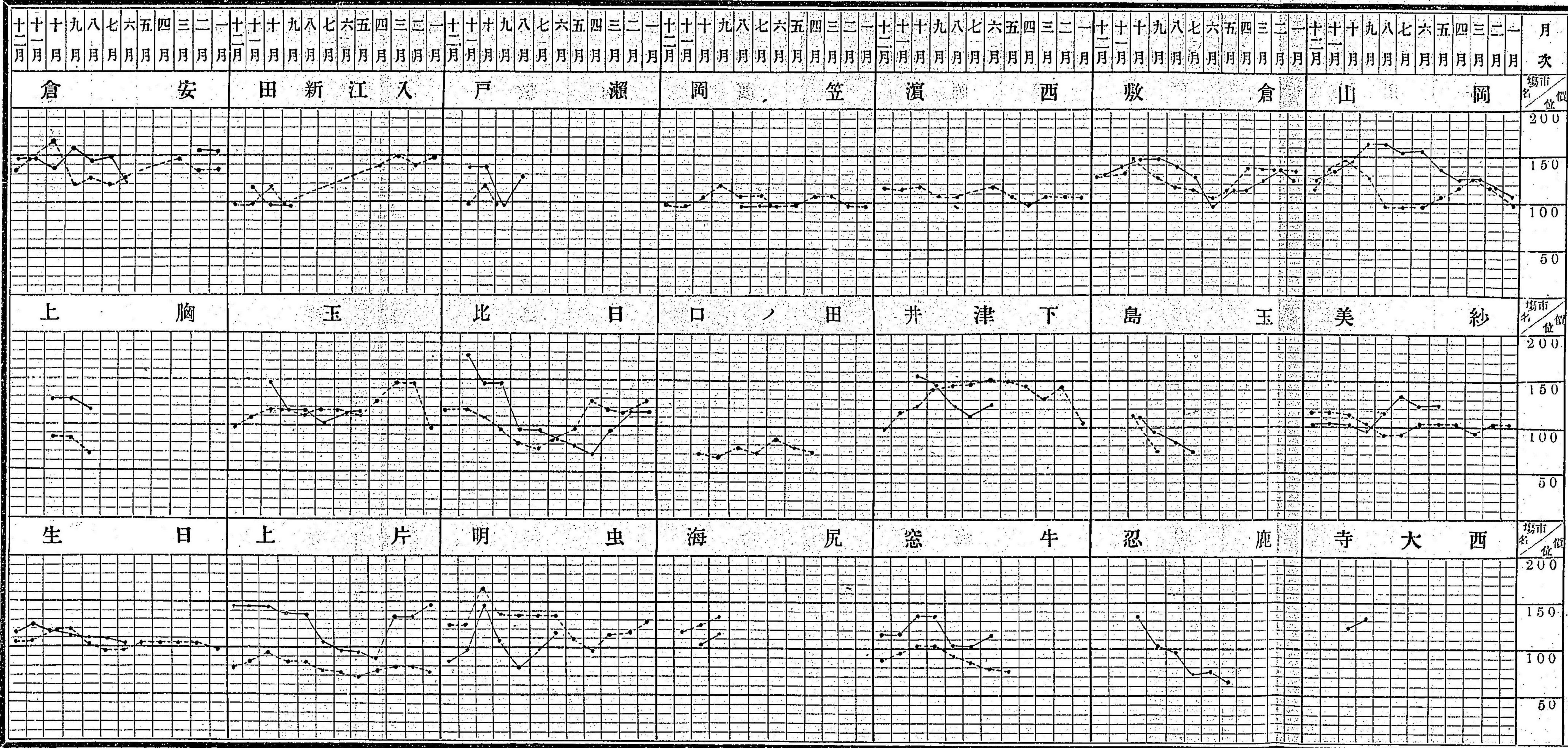


重要魚類販賣價格表

其二（い、たこ）

價格ハ壹貫ニ對スル價トス

たい  
乙か



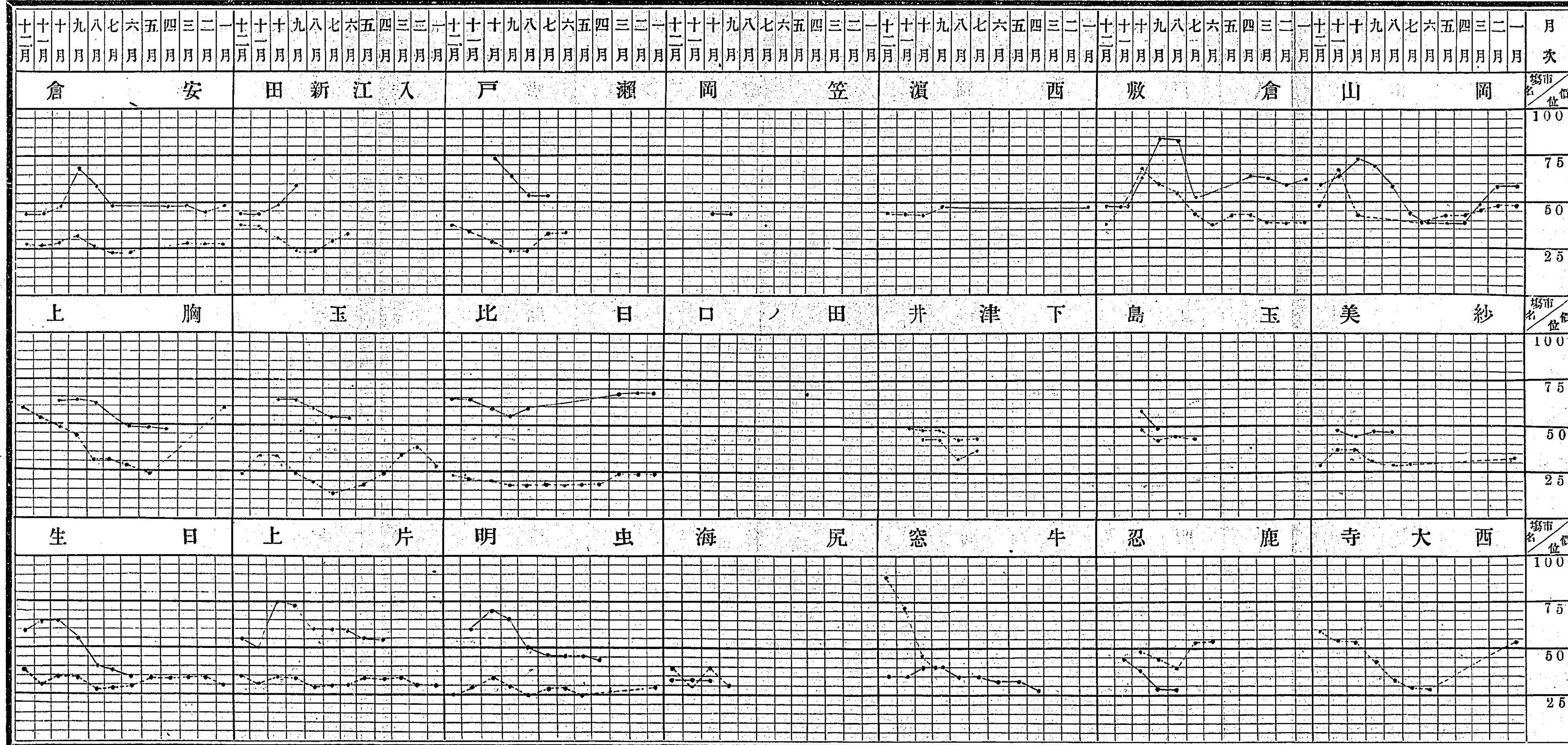
重要魚類販賣價格表

其三 (はも、あなご)

價格ハ壹貫目ニ對スル價トス  
.....は  
.....あなご





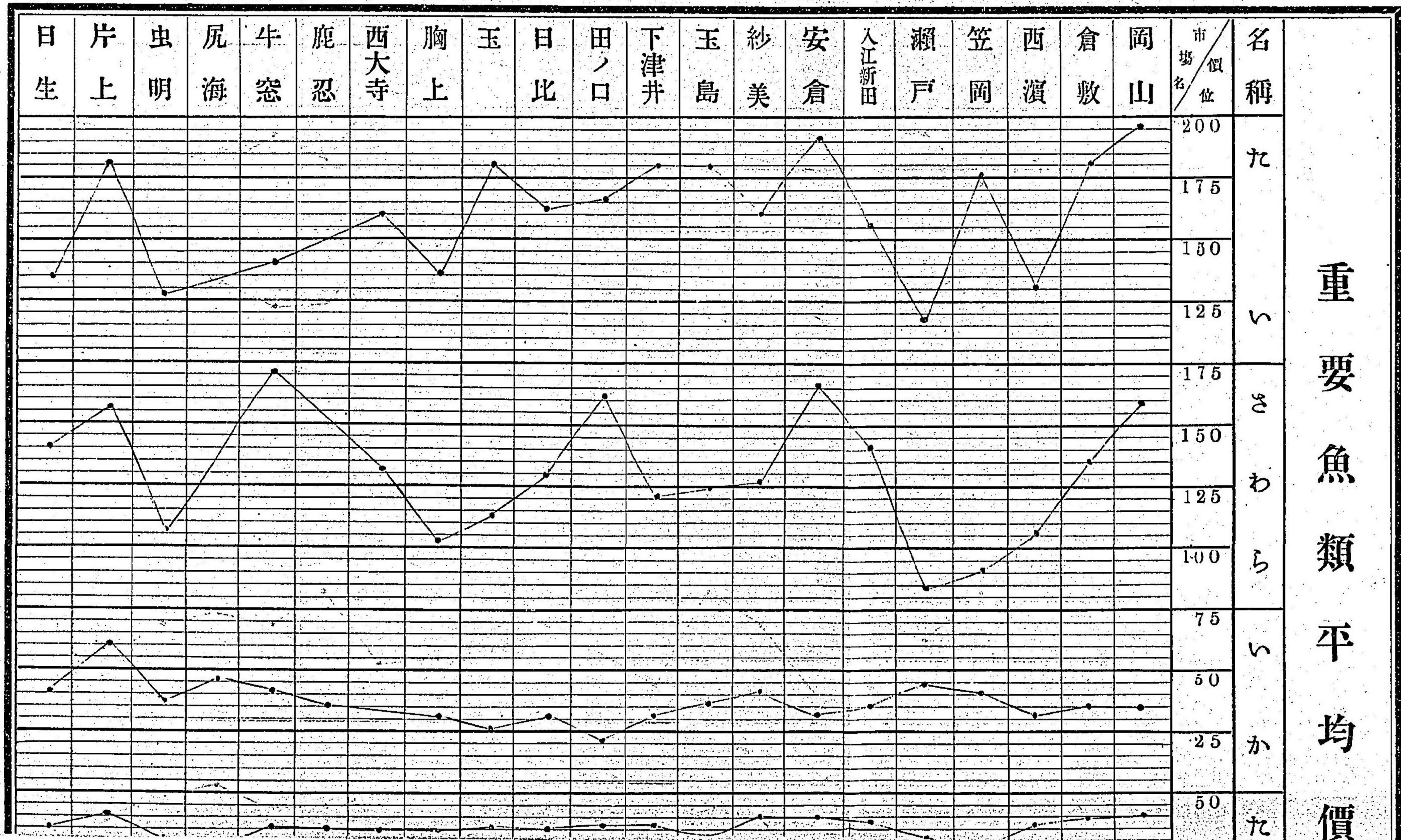


重要魚類販賣價格表

其五

(さつば方言ママカリ)  
 (るび) 價格ハ壹貫ニ對スル價トス  
 (さつば) 〃

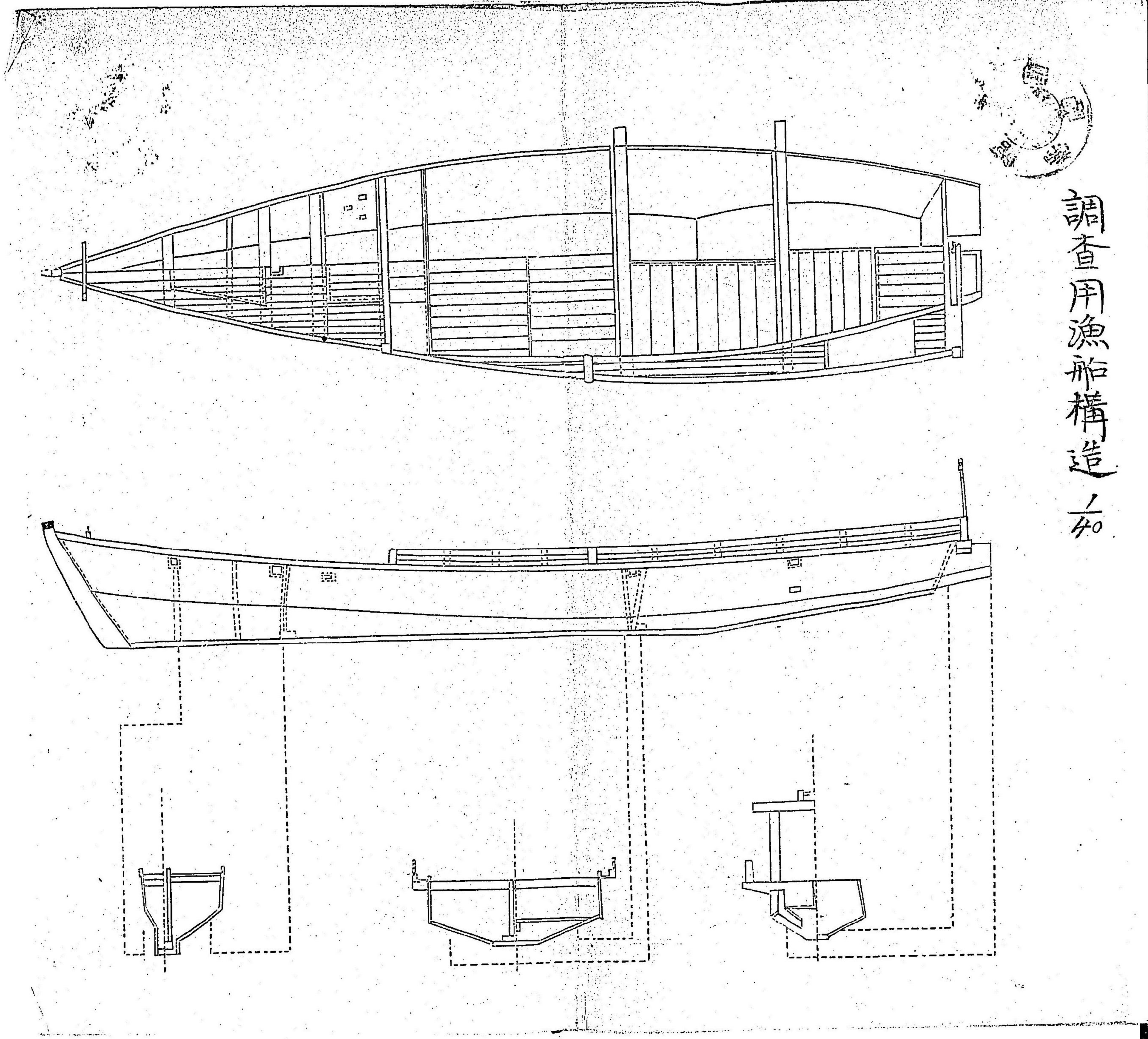
重要魚類平均價



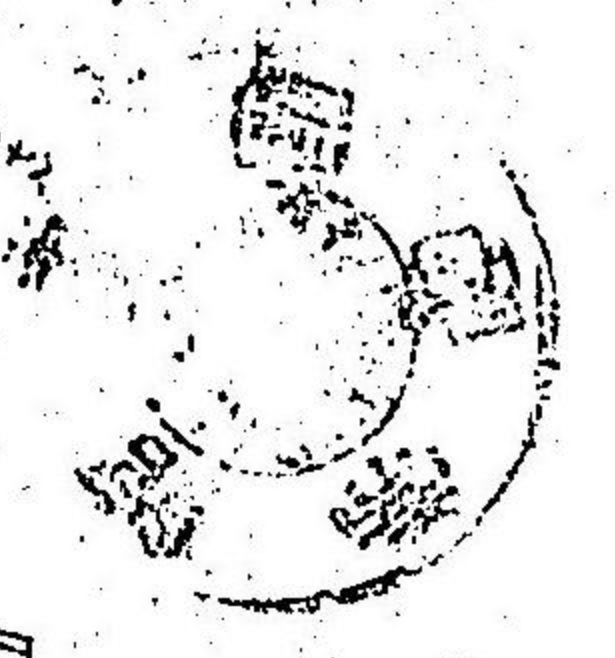
# 類平均價格表

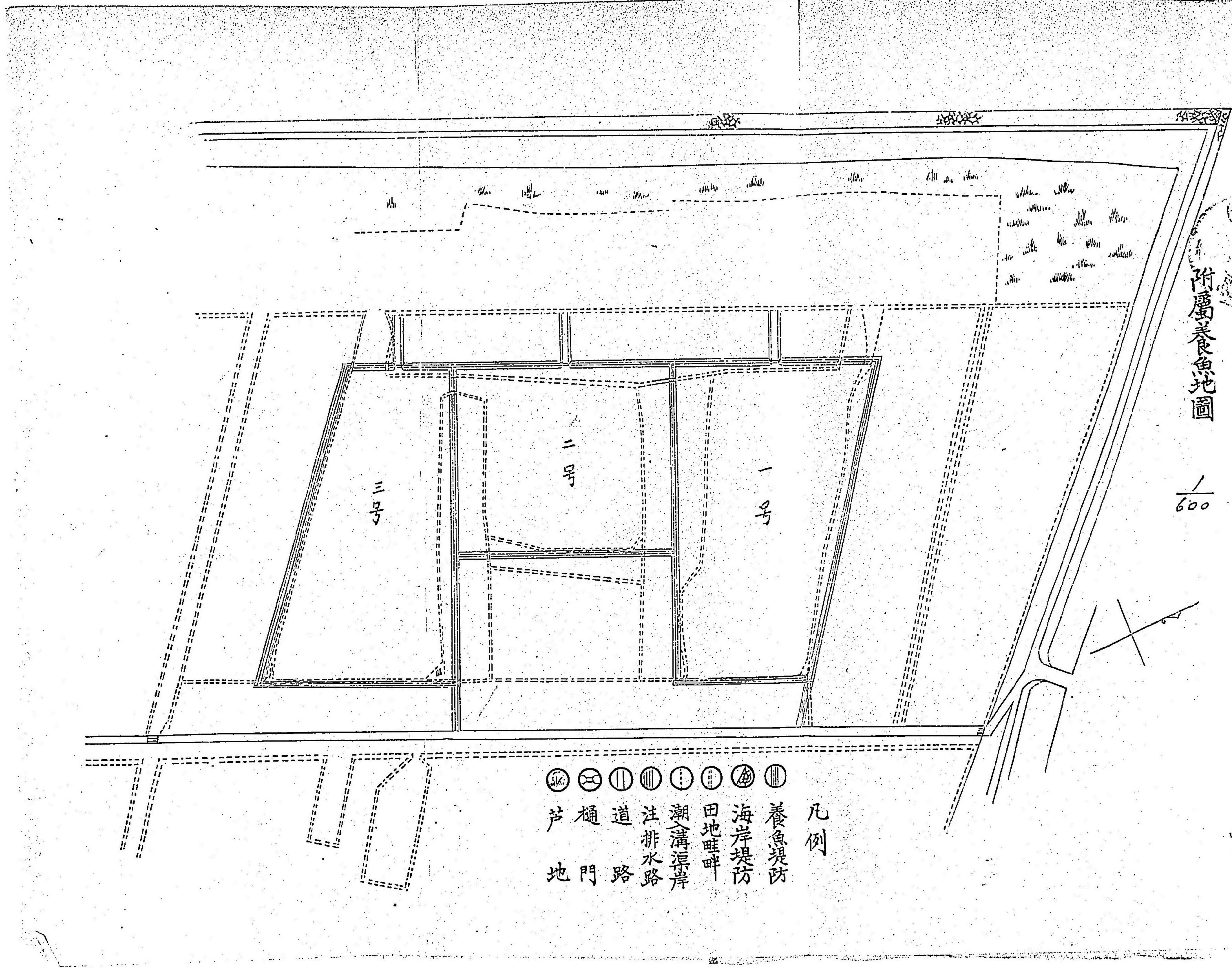
價格ハ壹貫目ニ對スル價トス





調査用漁船構造 1/40





附屬養魚地圖

1/600

- 凡例
- 養魚堤防
  - 海岸堤防
  - 田地畦畔
  - 潮溝渠岸
  - 注排水路
  - 道
  - 樋
  - 芦地門

圖三二九乙

142  
1  
104

明治三十七年五月五日印刷  
明治三十七年五月十日發行

(非賣品)

### 岡山縣水產試驗場

岡山縣岡山市大字船頭町三十七番地

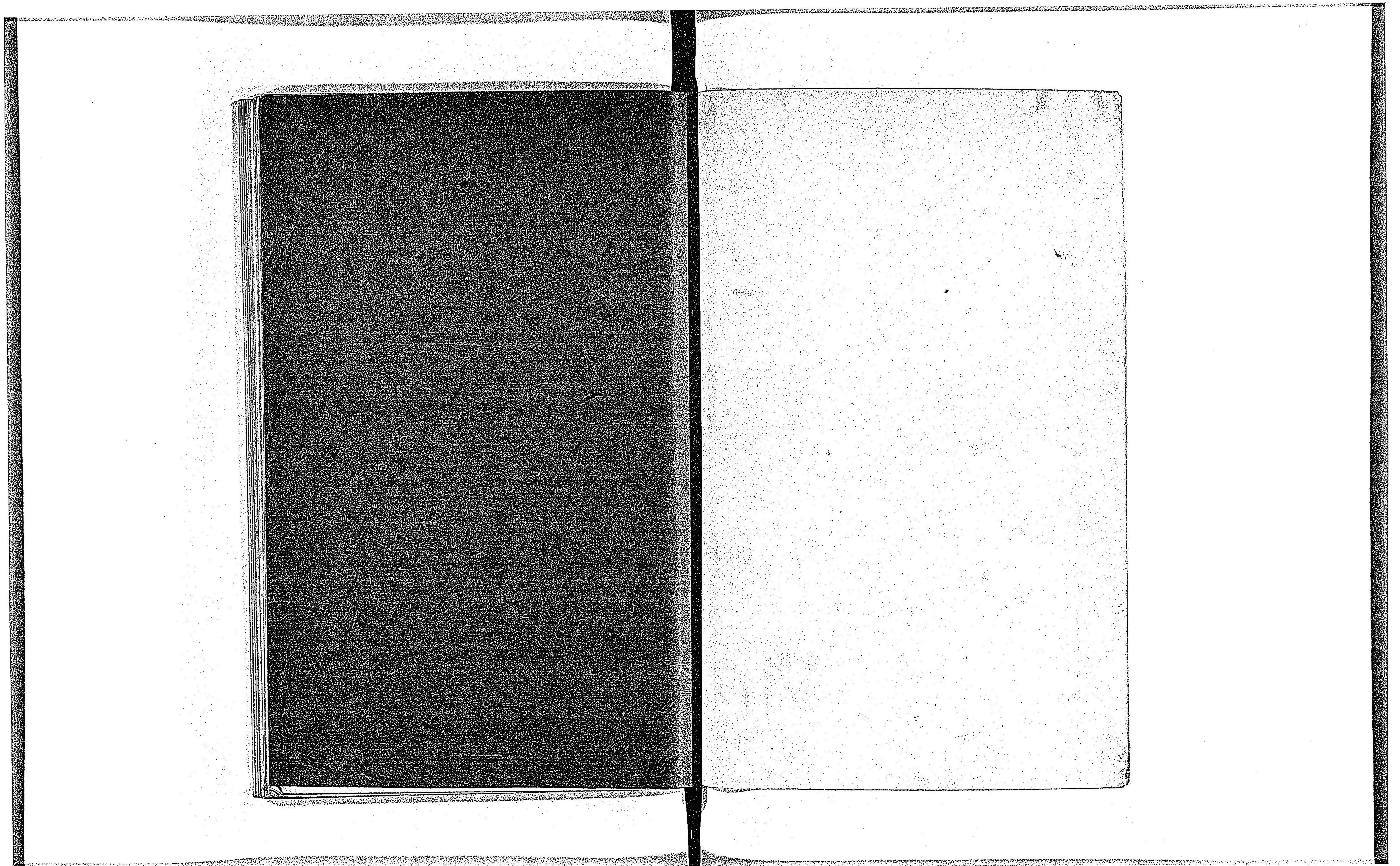
印刷者

安井宇吉

印刷所

山陽活版所

岡山縣岡山市西中山下百五拾四番地



14.24  
104

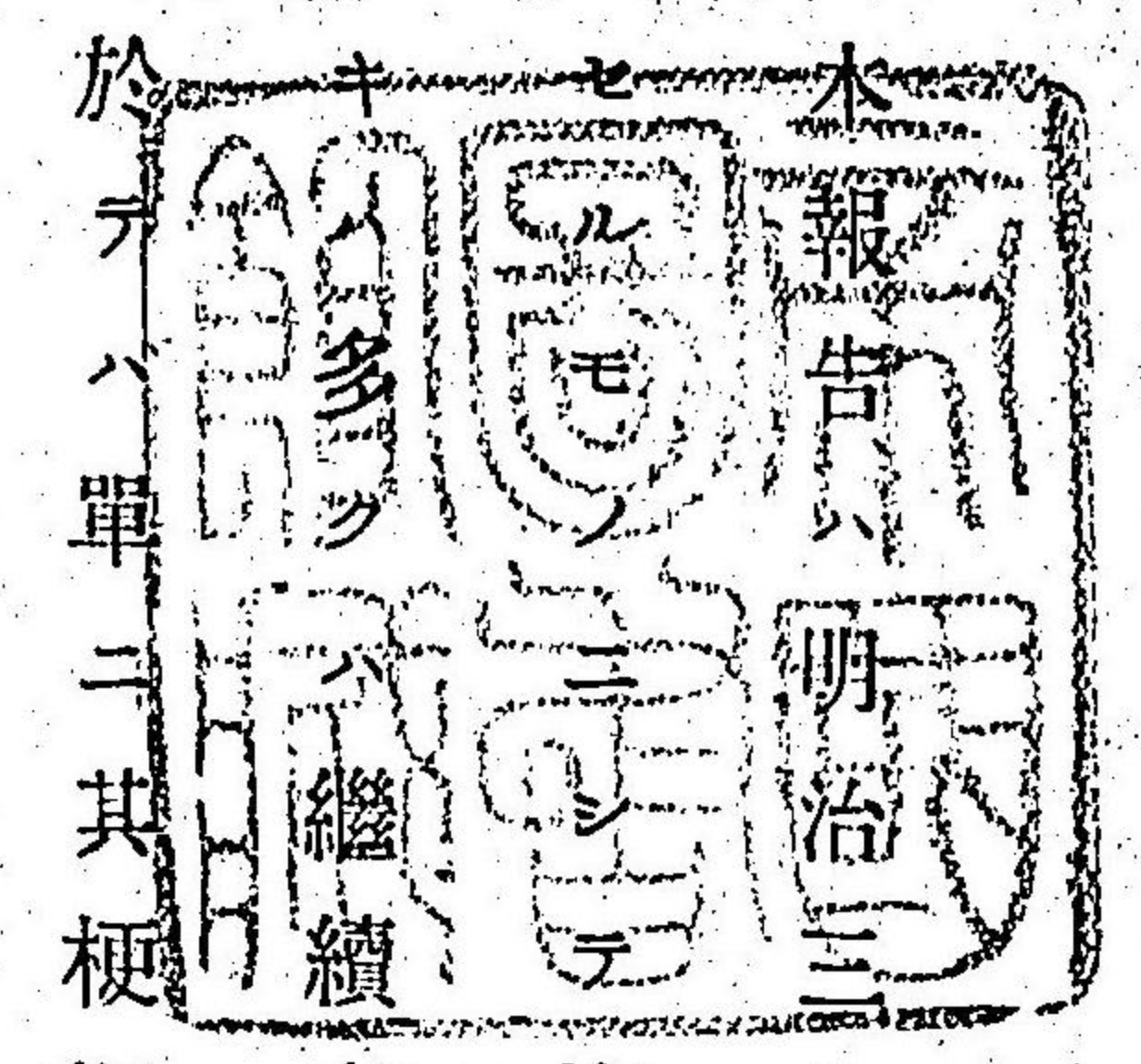
岡山縣水產試驗場業務報告  
明治三十六年度



全	附錄七	五三	至六四	自四一	四一	三〇	三〇	二九	二九	二八	二八	一九	一四	頁
二二	二三	五	中ノ	一三	八	一	三	二	二	一	七	一四	一三	行數
平漁漁ニ	農産ニシテ	十一月	古	終季モ	結局壹割ノ	加工製了シタリ	魚釣ヲ	魚釣ヲ	魚釣ヲ	總量ヲ衡リタルニ	再ヒ衡リタルニ	釣具ヲ	苗具ト	正 誤
平漁漁ニ	農産ニシテ	十一月十五日	♀	終季モ	結局壹割強ノ	加工製了シタリ	魚釣ヲ	魚釣ヲ	魚釣ヲ	總量ヲ衡リタルニ	再ヒ衡リタルニ	釣具ヲ	苗具ト	正

事業完結ノ後其都度別冊ヲ以テ報告スベシ  
明治三十九年三月

岡山縣水産試験場



於テハ單ニ其梗概ヲ記スルニ止メ其詳細ニ至ツテハ  
十六年度ニ於ケル業務ノ一斑ヲ摘錄  
施設事業ニ關スル各種試験調査ノ如  
事業ニ属スルモノナルガ故ニ本書ニ

明治  
39 6 12  
内交

明治三十  
六年度 岡山縣水產試驗場業務報告

目次

一、經費

經常部

臨時部

二、職員ノ異動及擔當業務

三、施設事業

試驗之部

養魚池造設

親鯉購入

鱸、鱧養殖試驗

蛤養殖試驗

海酸漿養殖試驗

目次

棒受網漁撈試驗  
削蝕製造試驗

調查之部

重要生物調查

重要魚類販賣調查

產卵期調查

漁具調查

釣餌料調查

海洋觀測

四、講話及實地指導

五、講習

岡山縣水產試驗場業務報告

經費

三十六年度ニ於ケル本場經費ノ決算額ハ左ノ如シ

經常費

一、金五千六百八拾貳圓貳拾五錢七厘

內

金千四百九拾貳圓五拾參錢參厘

內

金六百圓

金七百四拾八圓五拾參錢參厘

金百四拾四圓

金貳百八拾四圓五拾貳錢

內

經費

經常費

俸給

場長技師一名年俸

技手二名俸給

書記一名俸給

諸儲給

一

金七拾九圓六拾八錢  
金百貳拾參圓貳拾錢  
金六拾八圓八拾五錢  
金拾壹圓貳拾錢  
金壹圓五拾九錢  
金千六拾壹圓參拾參錢

小使給  
常用水夫與人夫給  
人夫賃  
漁夫賃  
脚夫賃  
旅費

內

金六百貳拾四圓  
金四百參拾七圓參拾參錢  
金拾八圓貳拾四錢  
金九百拾圓七拾五錢  
金百五拾六圓拾參錢  
金七拾貳圓  
金六拾貳圓貳拾貳錢

奏任待遇旅費  
判任待遇旅費  
惠與金  
備品費  
消耗品費  
借家料  
賄料

金八拾四圓參拾五錢八厘  
金百六拾九圓四拾五錢  
金百參拾四圓九拾壹錢五厘  
金七百貳拾參圓八拾壹錢六厘

圖書費  
印刷費  
通信運搬費  
試驗費

內

金貳百貳拾貳圓九拾七錢九厘  
金貳百五圓貳錢四厘  
金貳拾八圓壹錢八厘  
金百七拾四圓貳拾四錢七厘  
金七拾八圓六拾七錢六厘  
金拾四圓八拾七錢貳厘  
金六拾八圓參拾錢  
金七拾貳圓  
金參百參拾參圓拾六錢參厘

池中養殖試驗費  
棒受網試驗費  
海酸漿試驗費  
刻削品製造試驗費  
蛤養殖試驗費  
牡蠣聯絡養殖試驗費  
調查費  
觀測費  
修繕費

三

金參拾八圓五拾參錢貳厘

臨時費

一金八百貳拾四圓六拾四錢參厘

內譯

金八百貳拾壹圓七拾八錢參厘

金貳圓八拾六錢

雜費

四

臨時費

土地買收費

廣告料

職員異動并ニ擔當業務

擔當業務	就任及解任	官職	氏名
場長兼製造主任	明治三十五年三月三十一日就任	技師	樋口邦彦
漁撈主任	明治三十五年五月一日就任 明治三十七年三月三十一日解任	技師	日向新治
養殖主任	明治三十五年三月三十一日就任	書記	岩城榮太郎
庶務會計主任	全上	書記	加藤莊次郎

更ニ本場業務ニ關係セル諸員ノ異動并ニ擔當業務ハ左ノ如シ

嘱託業務	受解嘱年	年月日	名氏
蛤養殖試驗地監守	明治三十五年九月	八月四日 嘱託	大島與三郎
全	明治三十六年五月	八月八日 嘱託	難波好松
海酸漿養殖試驗地監守	明治三十六年五月	八月八日 嘱託	西川福松
養魚池監守	明治三十六年五月	八月八日 嘱託	上斗世以
海洋觀測	明治三十五年九月	月二十日 嘱託	永山廣太郎
全	明治三十六年一月	月三十一日 嘱託	岡江秀明
重要生物調査	明治三十五年十二月	月十九日 嘱託	岡江秀明
全	明治三十六年十二月	月六日 嘱託	柴田覺一
全	明治三十五年十二月	月十九日 嘱託	村上準一
全	明治三十五年十二月	月十九日 嘱託	藤本光治
全	明治三十六年九月	月一日 嘱託	島津磯吉
全	全上	明治三十六年八月四日 嘱託	高尾磯浩
全	全上	明治三十六年九月一日 嘱託	虫明漁業組合
全	全上	明治三十六年九月一日 嘱託	三輪保吾

職員異動并ニ擔當業務

五

重要生物調査	明治三十六年九月一日	山田右七郎
全上	明治三十六年九月四日	大澤岩吉
全上	明治三十五年十二月十九日	山下嘉壽太
全上	明治三十六年九月四日	山下嘉壽太
重要魚類販賣調査	明治三十六年十二月六日	柴田覺一
全上	明治三十六年十二月六日	柴田覺一

六

施設事業  
試験之部  
養魚池造設

位置ハ既成鹹水魚專属ノ養池ニ隣接シテ三十六年六月起工シ翌年二月工ヲ竣ヘタ  
 リ本池ハ淡水魚ノ専用ニシテ鯉苗養成鯉魚分餌試験並ニ養鯉經濟試験ニ供用セン  
 目的ニ依リ造營シタルモノニシテ素ヨリ經費少額ナルカ爲メ充分ノ施設ヲ見ル能  
 ハスト雖トモ今後事業ノ擴張ニ伴ヒ池數ヲ増加セシムヘキ計劃ニヨリ構造セリ其  
 池別ハ親鯉池、産卵池、孵化池、育養池、分餌試験池ノ五部ニ分ケ計拾壹個所ト爲ス之レ

ヲ前年度ニ於ケル造池ニ合シ各池ノ面積ヲ擧クレバ左ノ如シ

種別	鹹水養魚池	池數	水面坪
計	養成池	三	一六〇〇
	淡水養魚池	池數	水面坪
種別	親鯉放養池	二	五〇
	産卵池	一	四六
	孵化池	一	一五
	飼育池	三	三〇九
	分餌試験池	四	八〇〇
計	親鯉購入		五〇〇
	養魚池造設		七

親魚ノ撰擇ハ養魚中最モ注意スベキ要件ニシテ要ハ成長最モ宜シク且ツ頭小ニシテ肩幅廣ク尾骨骨格共ニ發達シ尙ホ無病強健ニシテ能ク肥へ太リタル系統純良ナル壯成魚ヲ撰ムニアリ本邦中良種ヲ以テ有名ナルハ關東ニアリテハ信州產ヲ以テシ關西ニアリテハ大和產ヲ以テス然レトモ兩者尙ホ雜種ノ形跡ヲ存シ多少ノ耕鯉ヲ產出シ就中其傾向ハ多ク大和產ニ於テ見ルカ如シ本場ニ於テハ山間部ト海濱部トヲ間ハス普ク鯉苗ヲ配附シテ養鯉事業獎勵ノ目的ナルニ依リ親魚ハ淡水及ヒ塩分ニモ耐へ得ル良種ヲササルベカラス然レバ明治三十七年一月中特ニ主任技手ヲ派シテ實地調査ノ結果所期ノ目的ヲ全フセン爲メ親魚ハ信州產ニシテ數十年來淡水池ニ於テ人爲的ニ馴養ヲ重ネタル東京市深川區千田町服部養魚場飼育ノモノヲ採用シ全年二月四日左記ノ通り購入シタリ

名稱	購入尾數	體長	體量	尾數
雌魚	一七	寸五	一、〇〇〇 匁	一〇尾
雄魚	一四	寸五	、四〇〇 匁	一五尾

計

二五尾

鯉、鱸養殖試驗

本試驗ハ昨三拾五年度初メテ養魚池ノ造營ニ着手シタリ而シテ起工中既ニ各種ノ不便困難ヲ排シテ試驗ヲ開始セシガ放養池ハ恰モ溜池様ノ形狀ニシテ充分ナル養魚ヲ營ムコト能ハサリシカバ本年度ニ於テ之レヲ完成シ以テ常該試驗ヲ繼續スルコト、セリ

試驗池 魚兒ノ飼育ハ依然舊養池ノ儘之レヲ使用シ放養中漸次工事ヲ施スコトトナシ其補修工事ハ育水ノ注排ニ便ナルヲ主トシ池邊ノ南部ニ注水口ヲ其北部ニ排水口ヲ造設シ又沙田川ヲ橫斷シテ育水ノ溜溜場ヲ造リ其間小溝ヲ通シテ池内ニ引用スルコトトセリ

育養 前年度ニ於ケル魚兒ノ放養數ハ第一第二第三號池ヲ通シ池坪總計一千六百坪ニ對シ八千五百七十二尾ニシテ一坪ニ對スル放養ノ率ハ五尾強ニ相當セリ而シテ本年繼續試驗施行ニ就テハ豫メ其尾數ヲ点檢スルノ要アルニヨリ更ニ其數ヲ

親鯉購入

鯉、鱸養殖試驗

九

檢セシガ六千五百二十尾現存セリ左レバ差引貳千五十二尾ノ減少ニシテ即チ昨年度放養以來ノ步減ハ約二割ニ過キズ完全ヲ缺ケル養魚池トシテハ頗ル好果ヲ收メタルナリ而シテ魚兒ハ其点檢ト同時ニ一坪ニ對シ四尾強ノ割合ニ依リ悉ク之レヲ舊池ニ放養セリ二年魚ニ對スル放養尾數トシテハ其割合稍ヤ多量ノ感ナキニ非ラスト雖モ本池ノ完成亦近日ナルベク且ツ注排水ノ水樋等モ一切完備シ充分之レカ育養ニ盡シ得ヘキコト必然ナリシヲ以テ敢テ其數ヲ増減スルノ要ナク其儘放養スルコトトハナセリ

点檢調査表

魚仔	體長	體量	尾數	摘要
鮪二年仔	六、寸五五	二四、タ〇	五九五五、尾	拾五尾平均ニ依ル
鮪二年仔	六、七〇	二三、六	一六五、	全 上
朱口二年仔	六、〇〇	壹八、五	四〇五、	全 上
池號	坪數	鮪仔	鱸仔	朱口仔
		放養尾數表		

第一號	六〇〇、坪	二二三三、尾	六〇、尾	一五二、尾
第二號	四五〇、	一六七五、	四五、	一一四、
第三號	五五〇、	二〇四七、	五五、	一參九、
合計	一六〇〇、	五、九五五、	一六五、	四〇五、

投餌ハ四月二十日之レヲ始メタリ其種類ハ前年度ノ成績ニ鑑ミ動物質餌料トシテハ蠶蛹ノ粉末ヲ用ヒ植物質餌料トシテハ米糠及ビ醬油粕ヲ併用シ何レモ混合餌料トシテ充分煮熟シ氣候ノ寒暖又ハ魚兒ノ動靜如何ニ依リ一日一回若クハ隔日一回之レヲ給與シタリ而シテ養池ノ補修工事以前ニ於テハ育水ノ注排自由ナラザルヲ以テ投餌ノ個所ヲ一定シ之レニ餌料臺ヲ沈設シテ日々ノ食慾如何ヲ檢シ其量ヲ過不及ナカラシムル等細心留意シテ專ラ魚體完全ノ成育ヲ圖ルト共ニ常ニ育水ノ腐敗防禦ニ盡シタリ爲メニ三個所ノ放養魚何レモ健全ニシテ氣候ノ溫暖ニ向フニ伴ヒ漸次食慾ヲ増進シ魚體ノ成育著シク毎月一回ノ調査ニ於テ其好果ヲ示シツ、アリシカ六月ニ至リ補修及新設工事ヲ開始シ著々急速ノ施設ヲ見ルニ至リ注排水樋及ヒ同注排溝其他育水ノ溜溜場ハ日ヲ追フテ竣功シ尙ホ鹹水取入レ及ビ全池ノ汚

鮪養殖試驗



水ヲ排除スベキ大樋門工事中恰モ六月二十三日夜半滿潮ニ際シ前日來不穩ノ天候ハ遂ニ近年稀有ノ高潮ヲ襲來セシメ忽チニシテ大排水樋門工事ニ供セル仮堰ヲ壓潰シ滔々トシテ養魚池ニ浸入シ一面海波ヲ以テ滿サレ年來苦辛セル養魚營經モ遂ニ水泡ニ歸シ當該試驗中止ノ已ムナキニ至レリ爾今專ラ意ヲ所期ノ養魚池造設ニ傾注シ其完全ヲ期スルト共ニ之レカ速成ヲ圖リシカ天候其他ノ關係ニ依リ翌年三月ニ至リ漸ヤク全部ノ工ヲ了シタリ

投餌ハ四月二十日ヨリ六月二十三日マデ日數六十五日ニ於ケル投餌ノ度數三十  
六回ニシテ其量ハ蠶蛹二十二貫九匁(乾燥シタル粉末)米糠六拾三貫四百五十  
匁(此石數五石二斗八升強ニ當ル)醬油粕百七十五貫トス

月日	體長	體高	重量	摘要
四月十五日	六、寸五五	一、寸四三	一三、匁五	拾五尾平均ニ依ル
五月十二日	七、二六	一、五六	二六、四	全 上
六月十五日	八、一五	一、七四	三一、六	全 上

縮生長率

試驗中氣象ノ關係ハ頗ル良好ニシテ溫度風力共ニ劇變ナク特ニ晴雨其常ヲ得タリ之レヲ投餌期間内ノ觀測ニ徵スレバ晴天四十三日雨天十五日ニシテ最高風力暴風一回強風四回疾風十六回氣溫最高二十八度最低十三度四水溫最高三十度五最低十六度一ナリトス然ルニ不幸中途ニシテ海水浸入ノ災害ノ爲メ魚兒逃散シ遂ニ試驗中止成蹟不明ニ了リタルヲ以テ冬期十一月中旬池水ヲ排除シ殘留セル鱒魚四百三十一尾ヲ採捕シ養魚池ノ全部ヲ清掃シタリ就中其大ナルモノハ體長一尺一寸余體高二寸六分重量百五十匁ニシテ小ハ體長九寸余體高二寸一分重量八十匁ナリキ尙ホ本試驗ハ明年度ニ於テ更ニ稚兒ヲ放養シテ之ヲ繼承スル豫定ナリ

蛤養殖試驗

本試驗地ハ淺口郡玉島町大字乙島字岡新開地堤防ヲ距ル百二十間ノ個所ニシテ比重概ネ一、〇一五内外地盤平垣風浪ノ虞ナキ地域百坪ヲ撰定シ明治三十五年九月之レカ試驗ヲ開始セシニ其結果本年度繼續試驗ニ於テハ大ニ擴張ノ必要ヲ認メシガ現場ハ恰モ民有地ニ屬シ地區ノ狹隘ヲ感ズルノミナラズ且ツ高梁川流末ニ接シ地ヲ沖合ニ求ムル不可能ナリシニ依リ地區變更ノ爲メ

鱒養殖試驗

蛤養殖試驗

一、底質ハ細砂ニシテ底深三尺以上ヲ有スル平坦ナル箇所  
 二、河口ニ遠隔シ潮流ノ緩急干満其度ヲ得テ常ニ風浪其他ノ被害ナキ所  
 三、海水ノ比重ハ一・〇一五以上ヲ有シ常ニ著シキ變化ナキ所  
 ノ三項ニ標準シテ五千坪乃至壹萬坪ノ面積ヲ求ムルカ爲メ四月下旬普ク附近海面  
 ノ實地踏査ヲ遂ゲ全郡連島村大字龜島新田字龜島山地先ヲトシ面積八千二百六十  
 五坪ヲ區劃シ試驗地ニ撰定セリ

試驗地ノ移轉及ビ苗介ノ購入

五月一日前記連島村地先撰定ノ箇所ニ標示杭及ビ印松ヲ其周圍ニ建設シテ區域ヲ  
 明示シ其中央部ニ於テ所要地ヲ區劃スル爲メ竹筴及ビ杭木ヲ以テ潮流及ビ風力ノ  
 抵抗ナキ様稜形ヲナセル面積六百坪ノ一區ヲ作り以テ試驗地移轉ノ準備ヲナセリ  
 五月十六日乙島地先放養ノ苗介採取ニ從事セリ當時ノ成長率ハ之レヲ前九月放養  
 ノモノニ比スレバ其ノ數量ニ於テ恰カモ一倍八六ノ割合ニ増加スヘキ計算ナルニ  
 拘ハラズ實際採收石數三石強ニ過キズ標示杭竹筴ハ翌十七日稜取り苗具ト共ニ小  
 船ニ積載シテ龜島村地先ニ送致セリ而シテ新設試驗地ニ於テハ竹筴ヲ以テ百五十

坪一個所及ビ二百二十五坪二個所ノ三區ニ分割シ苗介一年生ノモノ一坪容數七百  
 粒及四百八十粒ノ二種六石ヲ購入一坪ニ對シ二年生ハ二坪ニ一年生ハ各一坪五合  
 ズ、ヲ放養シ尙小介ノ脱出及風浪ノ防備トシテ柵外更ニ竹筴ヲ以テ外廓ヲ施セリ

育養及ビ保護

蛤ハ冬期比較的靜止スレバ其他ハ絶ヘス多少移動スルモノ、如ク又生活ノ場所ハ  
 稚介ハ常ニ沿岸部砂洲ニアレトモ其壯成スルニ從ヒ漸次沖合ノ深所ニ向ヒ老成介  
 ハ全ク淺筋附近ニシテ砂泥混合ノ地若クハ海藻發生ノ地ニアリ要スルニ稚介ハ塩  
 分稀薄ナル淺所ニ老成介ハ塩分濃厚ナル深所ニ生活スルモノ、如シ故ニ試驗地ハ  
 安全ニシテ地勢ノ許ス限リ成ルヘク之ヲ沖合ニ求メ稚介ハ粒位ノ細小ナルモノ成  
 長力強キヲ以テ經濟上得策トスレトモ移轉妨止ニ供スル竹筴ノ間隙ヲ脱出セサル  
 範圍ニ於テ之レヲ採用シ尙ホ苗介ノ大小混同ハ育養上ノ不便尠カラズ故ニ苗介ハ  
 採介漁者ニ命シ形体不同ノモノハ一々之ヲ篩下セシメ以テ所要石數ヲ一定ス而シ  
 テ其苗介ノ撒入後ハ時々地域擴張ノ爲メ撒キ替ヘノ行ヒ難キヲ以テ稚介撒入ノ當  
 初ヨリ配布率ヲ減少シテ厚薄ナク全面平等ヲ保タシムル如ク撒入セリ放養後ハ專

蛤養殖試驗

ラ内外兩廊ニ於ケル竹笠ノ安全ニ注意シ破損ノ場合ハ直チニ修繕ヲ加ヘ苗介ノ脱出ヲ防禦スルノ外常ニ苗介ノ一方ニ偏寄セルモノ若クハ脱出介ノ有無等ヲ檢シ更ニ原地ニ撒入シ或ハ害敵タルツボ介ノ驅除ニ盡シ可及的完全ニ成育ヲ幫助セリ

監守及ビ觀測

每一日干潮時一回監守人ヲシテ現場ニ臨檢蛤ノ動靜及ビ試驗地異變ノ有無ヲ仔細ニ觀察セシメ且ツ成育ト氣象トノ關係ヲ調査セン爲メ觀測ハ之レヲ毎月五日、十日、十五日、二十日、二十五日、三十日ノ六回ニ於テ干満ノ二極ニ際シ天候、風向、風力、氣溫、水溫、比重ノ六項ニ分チ精密ニ調査シテ日誌ヲ調製セシメ只管試驗ノ完全ヲ圖リシヲ以テ當期間中別ニ著シキ被害ヲ見ズ經過頗ル良好ナリ  
今前年度以來繼續試驗ニ係ル生長調査三十個平均ノ概要左ノ如シ

年月日	粒位	長さ	高さ	幅	重量
明治三十七年五月五日	二百八十五粒	一寸一分	九分	五分三	一匁八分
五月十日	二百八十粒	一寸一分四	九分二	五分六	二匁一分
六月十日	二百七十粒	一寸一分八	九分四	五分九	二匁四分

七月十日	二百五十八粒	一寸二分三	九分七	六分三	二匁八分
八月十日	二百三十一粒	一寸三分	一寸一分	六分七	三匁
九月十日	二百三十四粒	一寸三分四	一寸一分五	六分八	三匁
十月十日	二百二十六粒	一寸三分	一寸一分八	七分	貳匁八分
十一月十日	二百十八粒	一寸四分	一寸二分	七分二	三匁一分
十二月十日	二百十三粒	一寸四分二	一寸二分一	七分三	三匁二分
明治三十七年一月十日	二百十粒	一寸四分三	一寸二分一	七分三	三匁二分
二月十日	二百五粒	一寸四分四	一寸二分二	七分四	三匁三分
三月十日	百九拾八粒	一寸四分六	一寸二分三	七分六	三匁五分

試驗中氣象ノ關係ハ概シテ平穩ニシテ著シキ變化ヲ見ズ今監守及ビ觀測中氣象ノ概況ヲ舉グレハ晴天二百十五日雨天七十四日最高風力暴風五回強風一五回疾風三四回氣溫最高三三度最低四度五水溫最高三一度五最低五度二比重最高一〇二一最低一〇〇五ニシテ其間數回ノ暴風雨アリテ河水汎濫或ハ怒浪ノ襲來沿海瀉面ノ異動其他竹柵ノ破損等ヲ生ゼシコトアリタリシガ甚ダシキ被害ヲ見ズ本年度ニ於ケル養蛤ノ經過ハ通シテ良好ナリキ

海酸漿試驗

蛤養殖試驗

海酸漿試驗

海酸漿ハながにし(一名よなきよし)ノ卵囊ニシテ素ヨリ婦女子ノ玩弄ニ過キス重  
 要視スルニ足ラズト雖モ本邦到ル所需用盛ンニシテ漁業若クハ農業ノ間副産トシ  
 テ營業スルニ於テハ些少ノ勞力ト經費ヲ以テシ短期間内ニ比較的多大ノ收利ヲ博  
 シ得ヘク其事業ノ簡單容易ナルコト他ニ多ク其比ヲ見ス殊ニ本縣ノ如キハ海灣概  
 ネ靜隱ニシテ島嶼多ク岬角ニ富ミ且ツ魚介類ノ餌料タル微細生物ノ發生饒多ナル  
 ノ地ニ於テハ最も適當タルヲ認ム而シテ古來兒島郡呼松村地方ニ限リ海中ニ採  
 卵用材料ヲ投シテ多少ノ經營ヲナスモノアレドモ本事業ノ如キハ此等一小區域内  
 ニ止ルモノニアラサルヲ以テ全事業ノ研究ト同時ニ苟モ此等ノ經營ヲ爲シ得ベキ  
 地ニハ尙ホ普及セシムルノ目的ヲ以テ本年度ヨリ之レカ試驗ヲ開始セリ

試驗地 兒島郡胸上村ハ南方一帶瀬戸海ニ面シ東ハ浪張崎西ハ隣村山田村  
 沼ノ突出スルアリテ胸上灣ヲ形成セリ灣ハ岸ヲ距ル八百間乃至壹千間ノ區域ヲナ  
 シ底質砂泥ニシテ藻類茂生ス試驗地ハ恰モ其灣口ニ位シ其區域ハ海岸ニ沿フテ東  
 西ニ延長シ同村字浪張ヲ隔ル西百貳拾間又字北濱ヲ去ル南約六百間ノ所ニ於テ方  
 形ヲナシ東西三百六拾間南北貳百四拾間ノ範圍内ニシテ滿潮時ノ水深參尋内外潮

沙ノ緩急其度ヲ得テ螺類ノ餌料タル方言わを貝(こかいトモ云フ)其他蠕虫類ノ發  
 生夥シク親介ノ天然棲息所タリ

試驗用材料 試驗ニ要スル材料ハ密柑籠及ヒ藻繩、沈石、種螺、浮標、すまる、等ニシ  
 テ今其用途及ヒ數量ヲ舉クレバ左ノ如シ

- 一 密柑籠 深五寸方一尺許ノ密柑容器ヲ利用シテ若卵用ニ供ス
- 一 藻繩 大小二種アリ大ハ三子撚徑五分ニシテ籠繩ノ親繩ニ專用シ小ハ二子  
 撚徑三分ニシテ配籠ノ結束ニ供ス
- 一 沈石 甲乙二種ヲ作り甲ハ三百匁内外ニシテ配籠ノ沈降用ニ供シ乙ハ五百  
 匁内外ニシテ親繩ノ兩端ニ結付シ籠繩ノ流失防禦ニ供ス
- 一 浮標 石油空罐ヲ利用シテ籠繩所在ノ目標トナス
- 一 種螺 四年生内外ノ雄性ニシテ配籠内ニ収容シ専ラ雌性ノ群來ヲ促スモノ  
 トス
- 一 すまる 先端外部ニ開展セル五個ノ爪ヲ具ヘ重量三百匁長一尺ヲ有スル一種  
 ノ鈎具ニシテ籠繩搜索ノ爲メ使用ス

海酸漿試驗